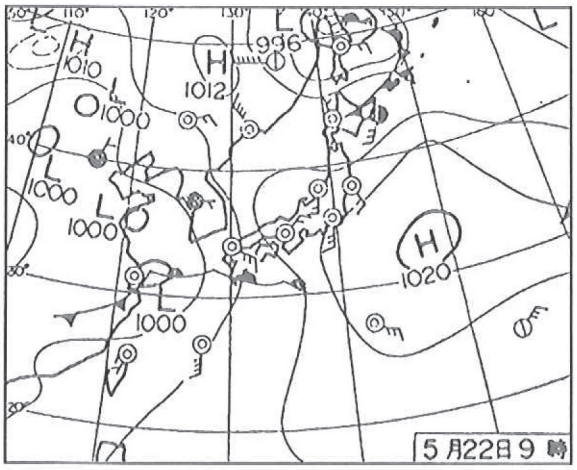
1987年

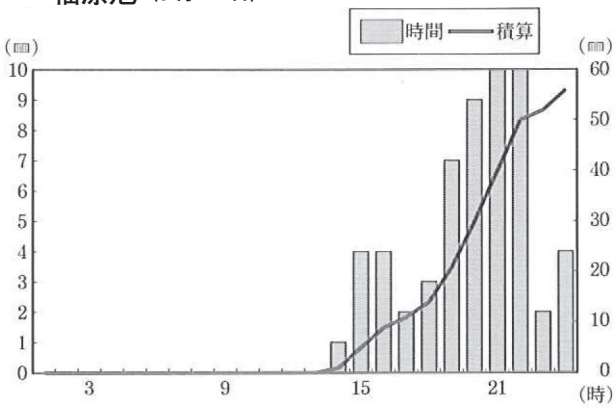
［昭和 62 年］

1987 年（昭和 62 年）5 月 22 日　崖崩れ

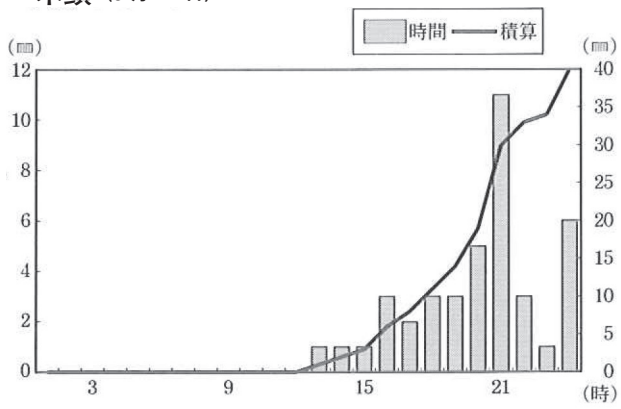


低気圧が前線を伴って西日本を通過した。徳島県は，南海上からの暖湿気が流入して大気不安定になった。雨は県中部山岳部から南部の宍喰にかけて多く降り，日降水量は上勝町の福原旭で 56㎜，木頭で 40㎜，宍喰で 41㎜を観測した。この雨により，22 日 20 時過ぎに，那賀郡相生町の県道西納－大久保線で山腹が高さ 10m，幅 5m にわたって崩壊し，土砂が県道をふさいで全面通行止めとなった。

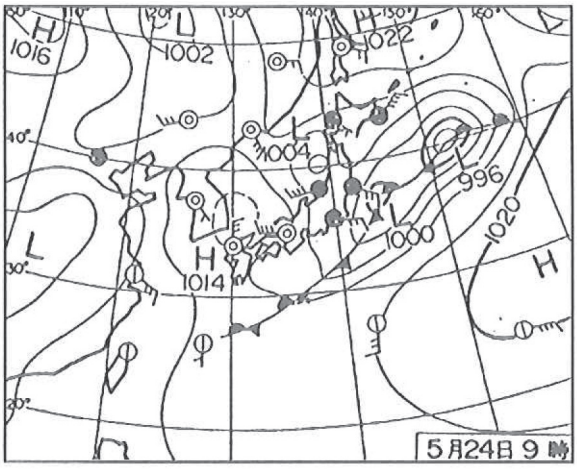
福原旭（5 月 22 日）



木頭（5 月 22 日）



1987 年（昭和 62 年）5 月 24 日　濃霧



低気圧は通り過ぎたが，前線が南海上に残ったため，23 日午後から 24 日にかけて前線の影響による濃霧が発生した。この濃霧により海部郡沿岸で海上衝突事故が起きた。

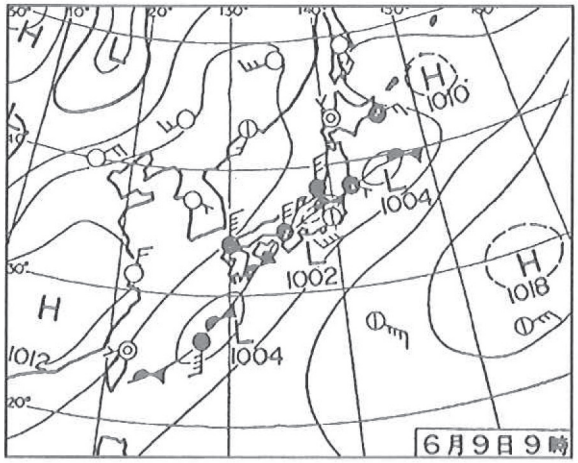
24 日 04 時 15 分ごろ，海部郡宍喰町竹が島の南南東約 2㎞の海上で，室戸汽船所有の「フェリーむろと」6,130 トンと野根漁協所属の漁船 2.5 トンが視界不良のため衝突した。この事故で漁船が沈没し，1 名が重傷を負った。

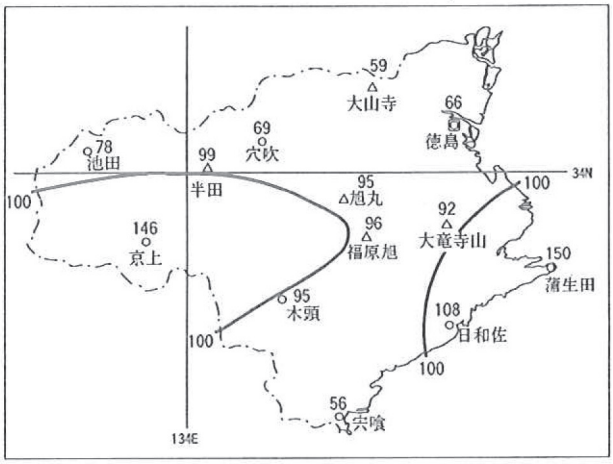
1987 年（昭和 62 年）6 月 9 日～ 10 日　崖崩れ

梅雨前線上を低気圧が通過して大雨が降った。梅雨前線上を移動する低気圧はあまり発達しないが，強い積乱雲群によって大雨が降りやすい。その代表が梅雨末期の集中豪雨である。10 日には天気は回復したが，9 日の大雨による地盤の緩みによって崖崩れが発生した。

9 日の日降水量は，東祖谷山村の京上で 146㎜，上勝町の福原旭で 96㎜，阿南市の蒲生田で 150㎜を観測した。1 時間降水量の最大値は蒲生田で，9 日 10 時から 11 時の間に 44㎜を観測した。

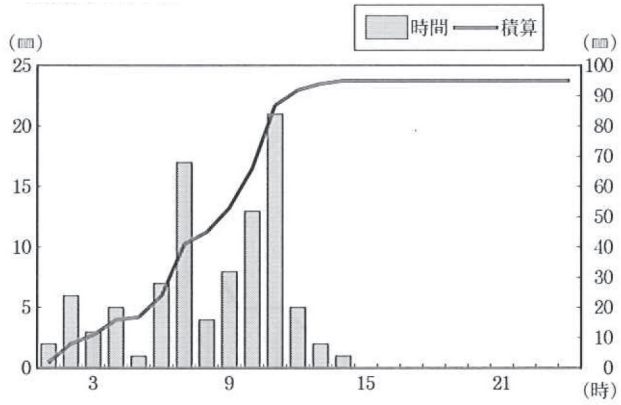
この大雨により，9 日 14 時ごろ，那賀郡木沢村の林道で山腹が崩壊し通行止めとなった。



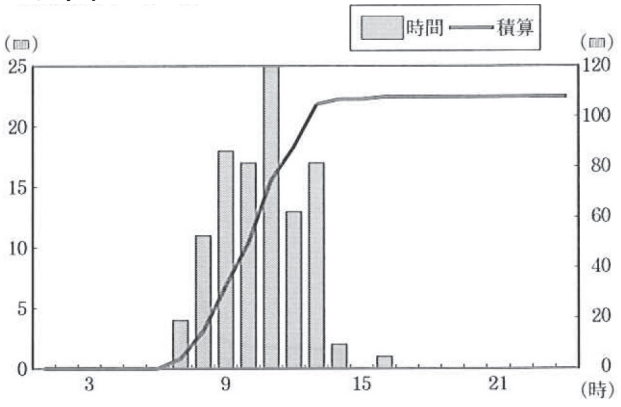


雨量分布図（㎜）

木頭（6月9日）



日和佐（6月9日）



10日06時20分ごろには，三好郡東祖谷山村で山腹が高さ35m，幅30mにわたって崩壊し，国道439号が通行止めとなった。また，9日朝の強風により，鉄道は牟岐線で5本，土讃線で12本が20分から1時間40分遅れた。

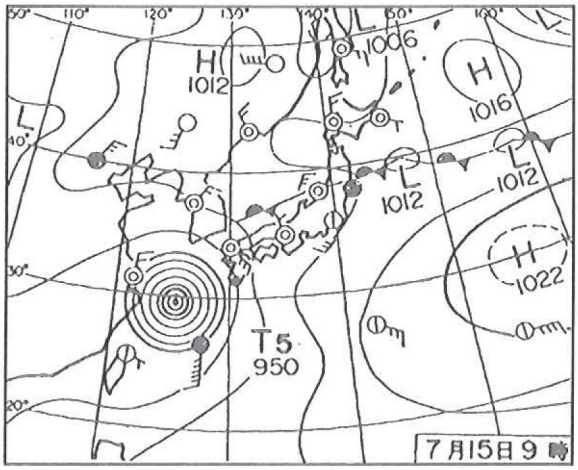
1987年（昭和62年）7月14日～16日　台風第5号

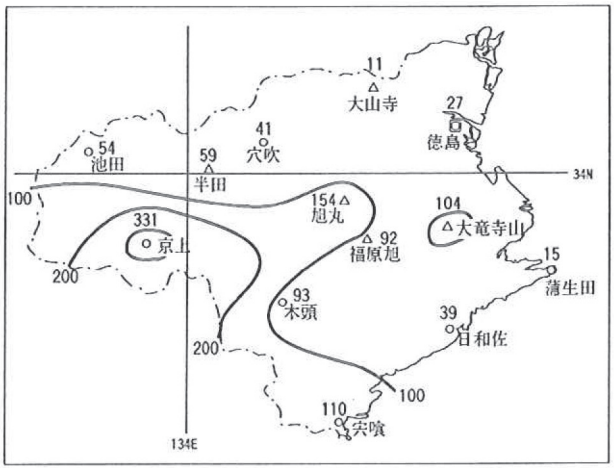
土砂に埋ったライトバン（徳島新聞社提供）

復旧作業中　山城町下名（徳島新聞社提供）

7月9日12時にマリアナ諸島近海で発生した台風第5号は，12日にはフィリピンの東方海上で進路を北北西に変えて進み，14日09時には宮古島の西北西約30kmの海上に達した。

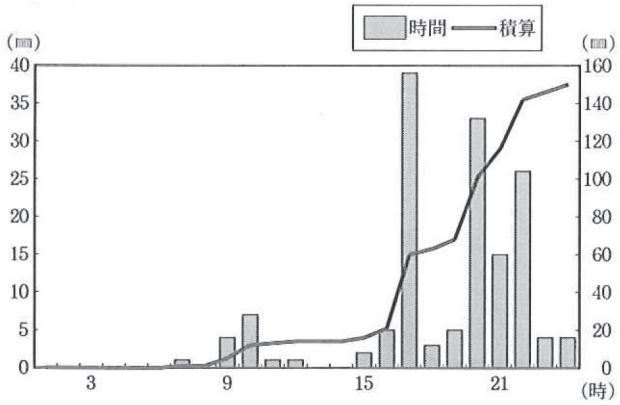
その後も大型で強い勢力を保ったまま東シナ海を北上し，15日には済州島を通って朝鮮半島南部を通過，16日12時に日本海で温帯低気圧になった。



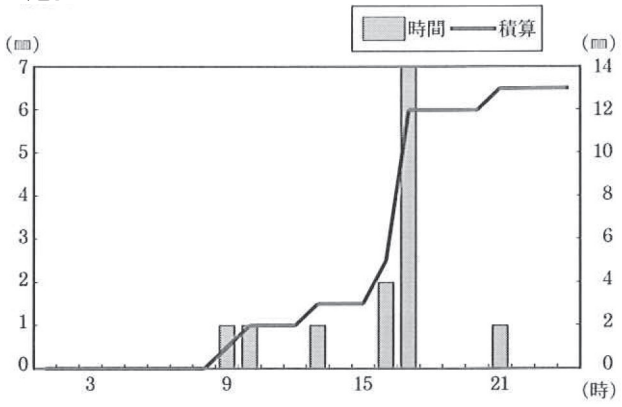


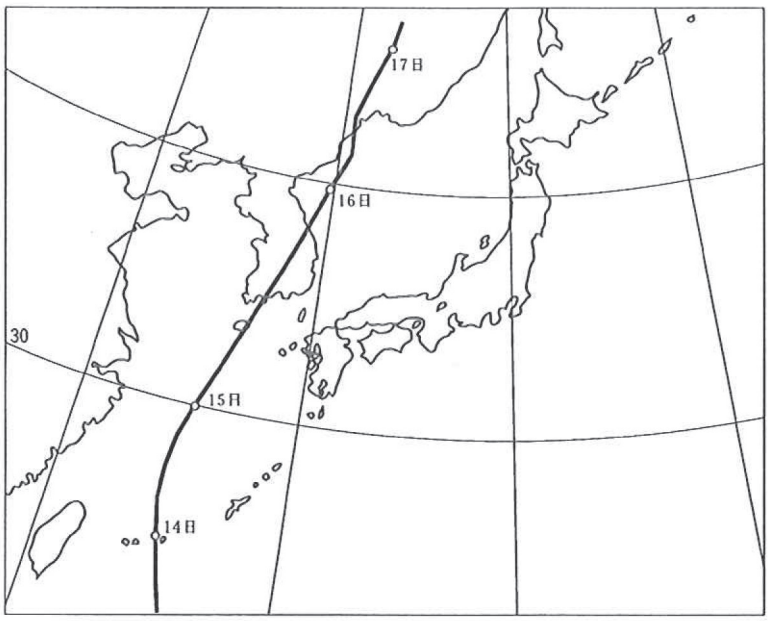
雨量分布図（㎜）

京上（7 月 14 日）



池田（7 月 14 日）





台風第 5 号　経路図

この台風の影響で，徳島県では南～南東の強風が吹き，剣山の南東斜面と北西の東祖谷山村で大雨が降った。14 日から 16 日にかけての総雨量は，東祖谷山村の京上で 331㎜，神山町の旭丸では 154㎜，宍喰では 110㎜を観測した。1 時間降水量の最大値は東祖谷山村の京上で，14 日 16 時から 17 時の間に 39㎜を観測した。

また，最大風速は徳島で 16 日 03 時 30 分に南の風 11.6m/s，最大瞬間風速は 15 時 23 時 00 分に南南東の風 19.4m/s を観測した。

この大雨により，14 日 20 時 50 分ごろ，三好郡山城町の県道で山腹が高さ 15m，幅 20m にわたって崩壊し通行止めとなった。乗用車 2 台とトラック 2 台破損。また，16 日 13 時 15 分ころ，池田町松尾の県道で山腹が高さ 15m，幅 20m にわたって崩壊し，通行止めとなった。

強風と大波により海と空の便に欠航が相次いだ。

杉の大木や土砂で埋った国道 32 号線　山城町
（徳島新聞社提供）

山が崩れ通行中のライトバンが土砂に埋ったりトラックが川に転落した国道 32 号線　山城町（徳島新聞社提供）

1987 年（昭和 62 年）7 月 24 日～ 8 月 10 日　赤潮

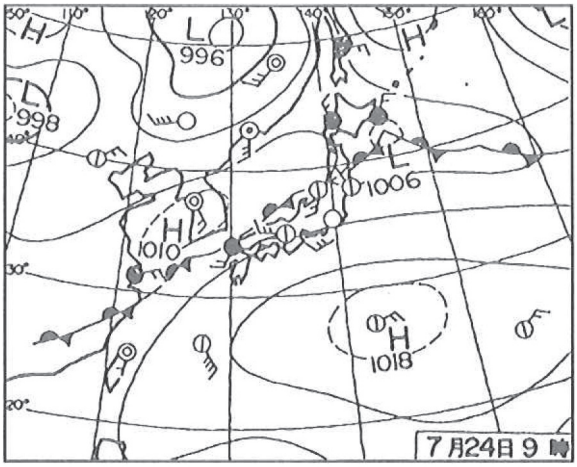
四国地方は 7 月下旬の前半に梅雨明けし，その後は太平洋高気圧におおわれて暑い真夏の晴天が続いた。

7 月下旬に鳴門市北灘沖合の播磨灘で発生した赤潮は，次第に広がりを見せて徳島県沿岸一帯に広まり，ハマチなどの養殖魚に大きな被害を与えた。

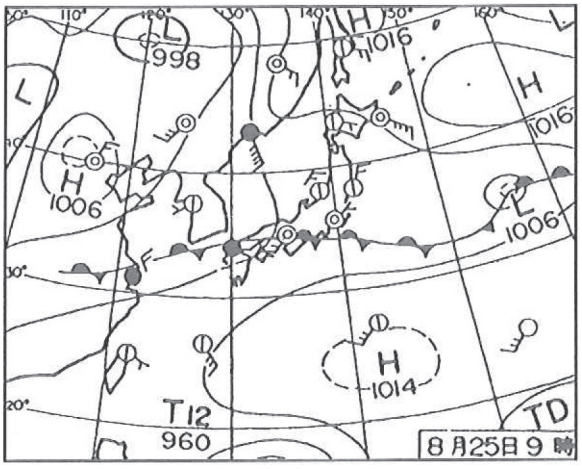
播磨灘の松島で 10 時から 11 時の間に観測された表面海水温度は，7 月 31 日は 26.7℃，8 月 1 日は 27.0℃～ 27.1℃，8 月 3 日は 27.0℃～ 27.8℃であった。

県水産課の調べによると，鳴門市北灘沖での有害プランクトンであるシャットネラの数は，7 月 24 日の調査では海水 1mℓ中に 100 個を超え，8 月に入ってからは 1,500 ～ 3,000 個余りに増加した。

この赤潮による養殖ハマチの被害は，鳴門市北灘沖から海部郡沿岸にまでおよび，2 年魚が 571,000 匹，1 年魚が 60,000 匹であった。



1987 年（昭和 62 年）8 月 25 日　雷



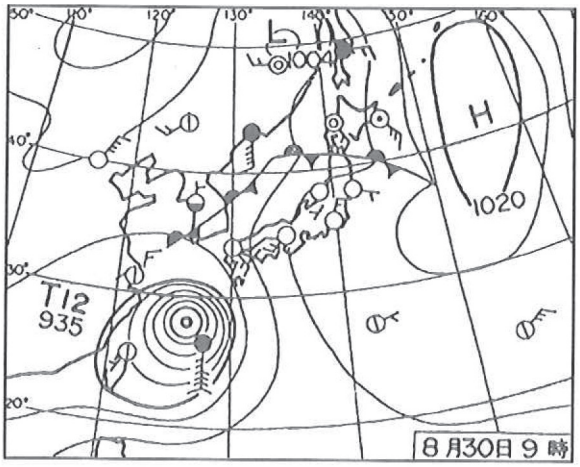
東西に延びた前線が，日本海南部から南下して四国地方を通過した。前線の北側からは冷たい空気が南下し，南からは太平洋高気圧からの暖湿気が北上して前線は活発な状態にあった。このため各地で積乱雲が発達し，前線が通過した 15 時 50 分を境に雷が多発した。

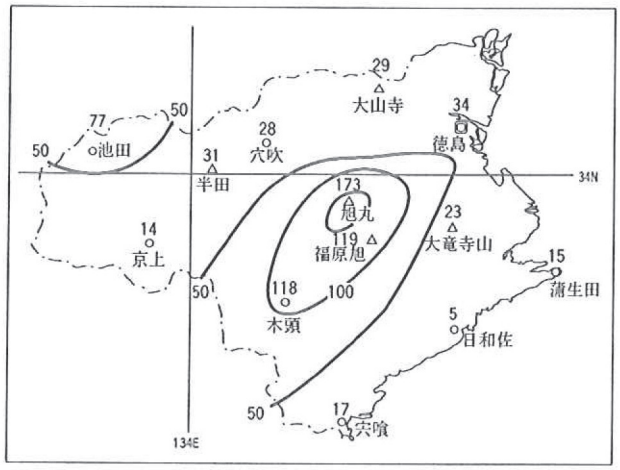
雷は 16 時過ぎに最盛期となり，各地で落雷があった。

16 時 15 分ごろには，徳島地方気象台付近に落雷し，気象台の通信回線と気象観測機器に障害が発生した。

16 時過ぎには，鳴門市大津町矢倉付近に落雷し，四国電力大津変電所からの送電がストップした。この落雷で大津町と松茂町の 419 戸が一時停電した。また，雷により徳島空港離発着の航空便に遅れが出た。

1987 年（昭和 62 年）8 月 30 日～31 日　台風第 12 号

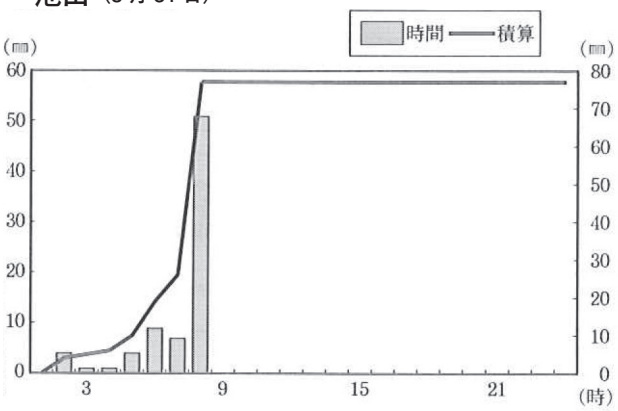


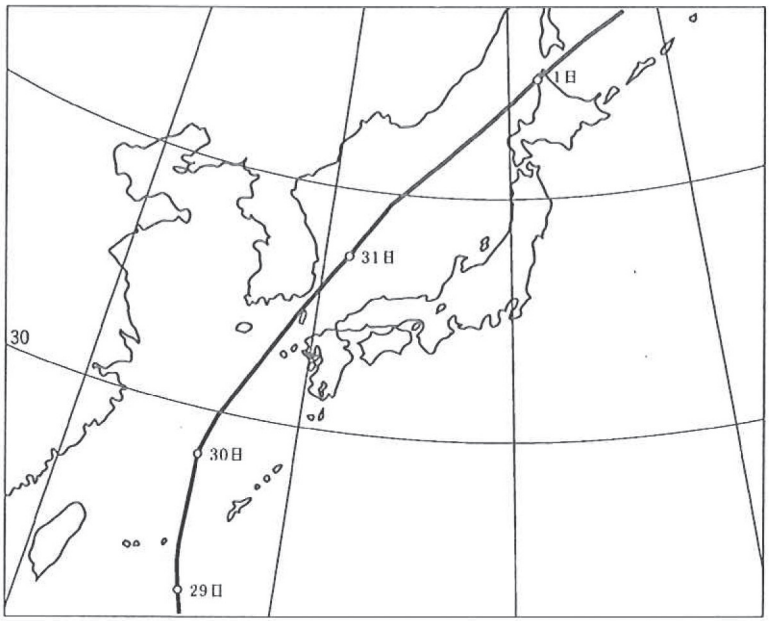


総雨量（mm）

（徳島新聞社提供）

池田（8 月 31 日）





台風第 12 号　経路図

8 月 22 日にグアム島のはるか南方海上で発生した台風第 12 号は，西進しながら次第に北上し，30 日夜には九州の西を通って 31 日 04 時に対馬付近に達した。その後，日本海に進んで 31 日 21 時に温帯低気圧になった。

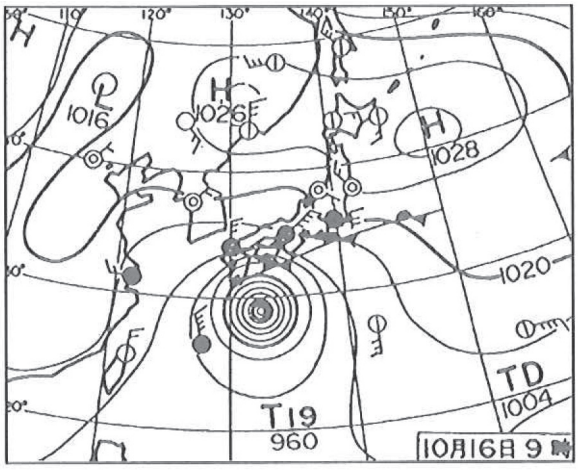
徳島県では雨は 30 日遅くから降り始め，31 日に県中部山岳部を中心に降った。総降水量の最大値は旭丸で，30 日 23 時から 31 日 11 時までの間に 173㎜を観測，日降水量の最大値は旭丸で 31 日に 168㎜を観測した。また，1 時間降水量の最大値は旭丸で 31 日 04 時から 05 時までの間に 74㎜を観測した。

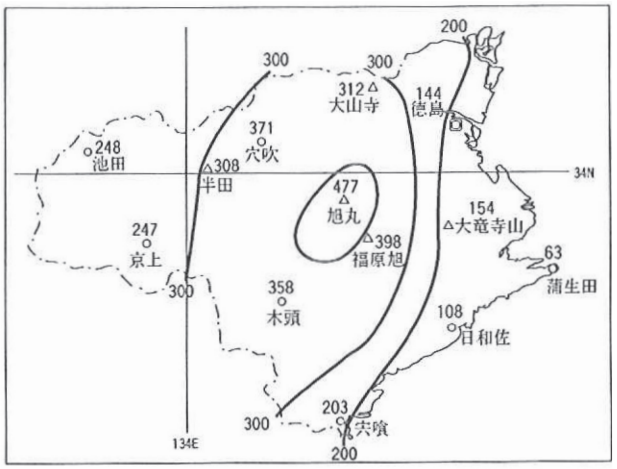
最大風速は徳島で 31 日 07 時 10 分に南南東の風 18.0m/s，最大瞬間風速は徳島で 31 日 07 時 10 分に南南東の風 35.4m/s を観測した。

大雨のため 31 日 08 時ごろ，三好郡山城町の県道新居浜－山城間で崖崩れが発生し，一時不通となった。

強風による被害では，那賀郡羽ノ浦町で屋根に登って作業をしていた人が風に煽られて転倒し，3 ヶ月の重傷を負った。また，強風のため海空の便共に欠航が相次いだ他，農作物では，水稲・レンコン・梨などに被害が発生した。

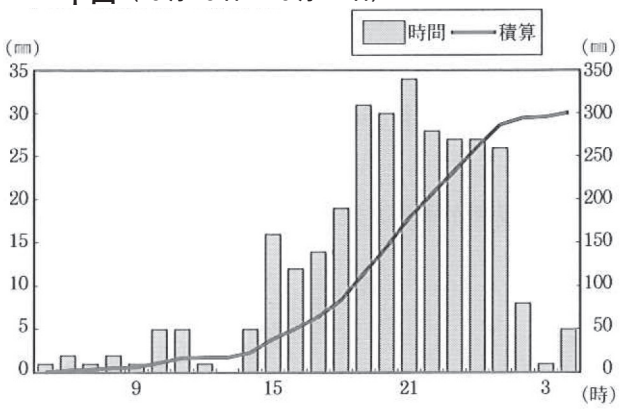
1987 年（昭和 62 年）10 月 16 日～ 17 日　台風第 19 号



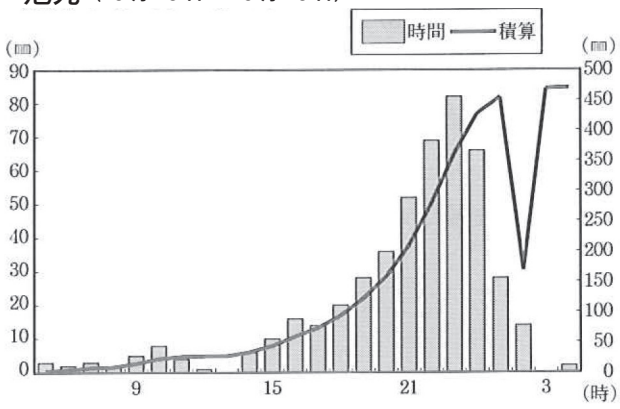


総雨量（㎜）

半田（10 月 16 日～ 10 月 17 日）



旭丸（10 月 16 日～ 10 月 16 日）



11 日にフィリピンの東海上で発生した台風第 19 号は，発達しながら北上し 16 日 17 時に足摺岬の南およそ 170㎞の海上に達し，17 時 00 時ごろに室戸市付近に上陸した。17 日 02 時ごろには徳島市付近を通過して播磨灘へ出た。徳島県では 16 日の昼間から雨が強まり，台風が 300㎞以内に入った 16 日夕方からは雷を伴って一層強い雨になった。16 日から 17 日にかけての降水量は神山町の旭丸で 477㎜，上勝町の福原旭で 398㎜，木頭で 358㎜を観測した。日降水量の最大値は神山町の旭丸で 16 日に 428㎜，1 時間降水量の最大値は神山町の旭丸で 16 日 22 時から 23 時の間に 82㎜を観測した。

風は時計回りに変化し，最大風速は徳島で 16 日 23 時 40 分に東南東の風 20.6m/s，最大瞬間風速は徳島で 17 日 00 時 30 分に南東の風 36.7m/s を観測した。

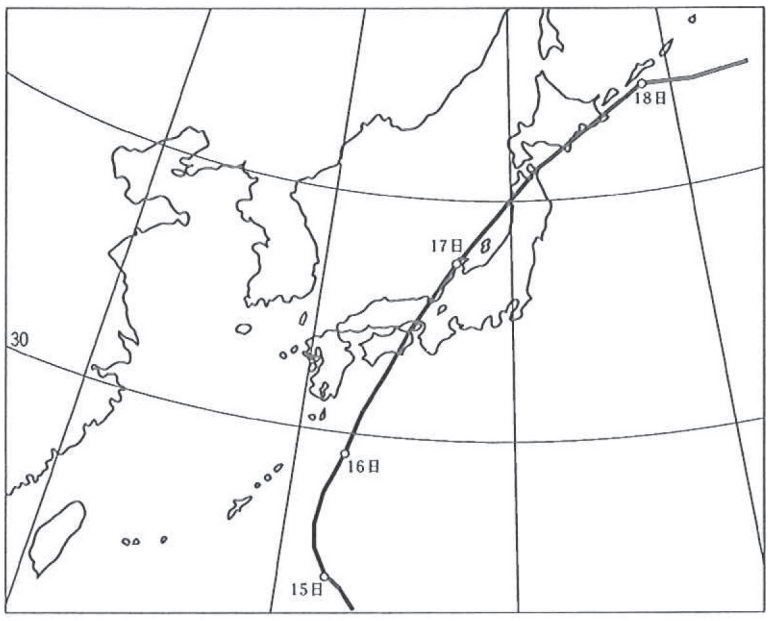
（徳島新聞社提供）

土石流で決壊したスーパー林道　木沢村岩倉（徳島新聞社提供）

この強風により，アパートの屋根が飛ばされ，街路樹や電柱が倒れるなどの被害が発生した。また，強風のため鉄道では高徳線など合計 20 本余りが運休した。雨による被害は，16 日深夜から 17 日未明にかけて美馬郡半田町・名西郡石井町などで河川が増水し，195 戸に避難勧告が出された。家屋の浸水は，阿波町などで 13 戸が床上浸水し，石井町など 147 戸が床下浸水した。田畑の冠水は 2,700ha で被害額は 65 億 6,580 万円であった。土木・農林水産など被害総額は 83 億円を超した。

海上では 16 日午後，キプロス船籍の貨物船が高いうねりのため航行不能となって漂流し由岐沖で座礁した。

陸上交通は大雨や土砂崩れなどにより県下 62 カ所で交通規制が実施され，海と空の便も欠航が相次いだ。

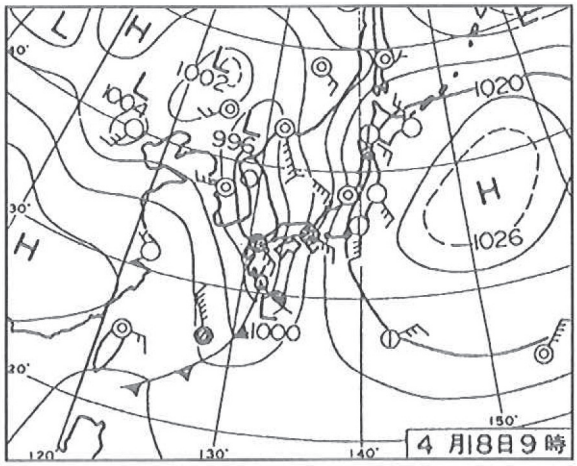


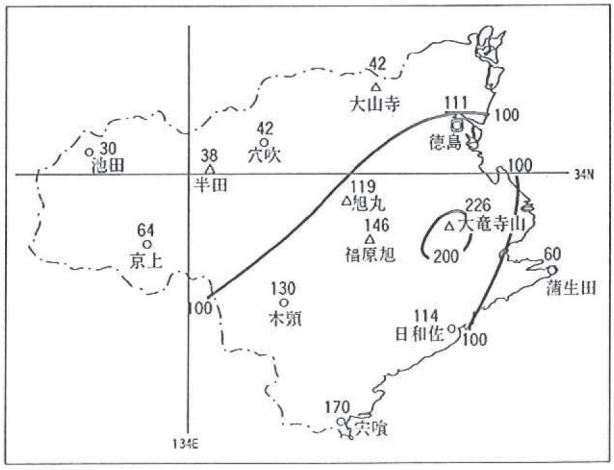
台風第 19 号　経路図

1988年

［昭和 63 年］

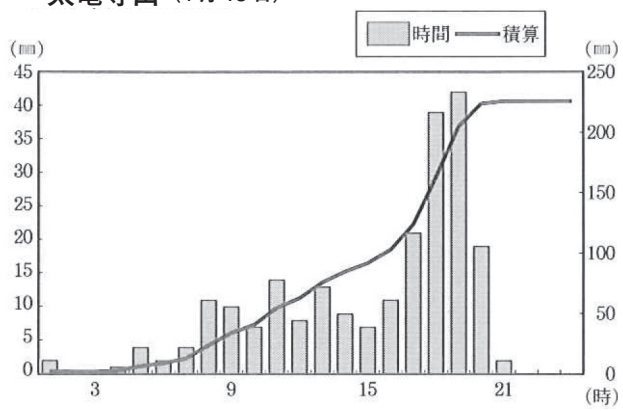
1988 年（昭和 63 年）4 月 18 日　崖崩れ



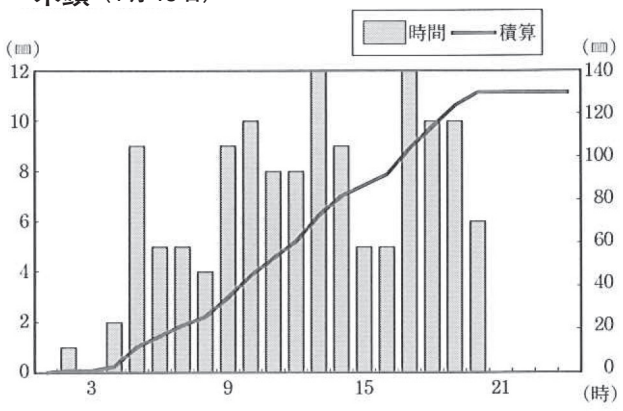


総雨量（mm）

太竜寺山（4 月 18 日）



木頭（4 月 18 日）



移動性高気圧の中心が関東地方へ遠ざかった後，東支那海に発生した低気圧が急速に発達しながら九州の南海上を通って四国の南岸を通過した。徳島県では 17 日夜から雨が降り始め，18 日には阿南市を中心に勝浦郡や那賀郡・海部郡などで大雨が降った。18 日の主な雨量は，阿南市の太竜寺山で，226㎜，上勝町の福原旭で 146㎜，宍喰で 170㎜を観測した。1 時間降水量の最大値は太竜寺山で，18 日 18 時から 19 時までの間に 42㎜を観測した。雨は 18 日夜半前に止んだ。

最大風速は日和佐で 18 日 10 時に東南東の風 16m/s，最大瞬間風速は徳島で 18 日 11 時 22 分に南南東の風 24.7m/s を観測した。

18 日那賀郡上那賀町の国道 193 号線で，大雨による崖崩れが発生し通行止めとなった。阿南市十八女町で県道損壊のため通行止めとなった。小松島市田野町の県道と徳島市の潜水橋が冠水して通行止めになった。また，強風のため海と空の便が乱れ欠航や遅れが出た。

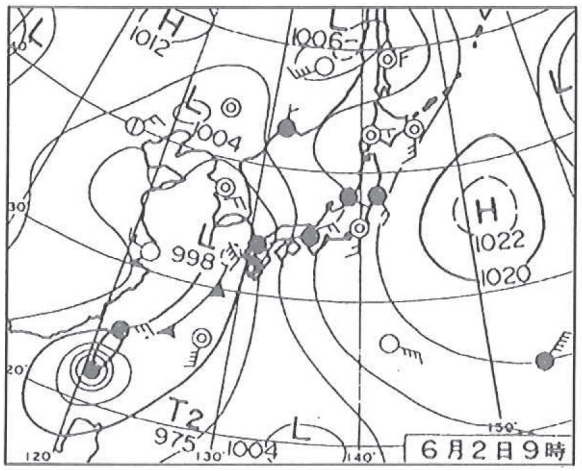
1988 年（昭和 63 年）6 月 2 日～3 日　山崖崩れ

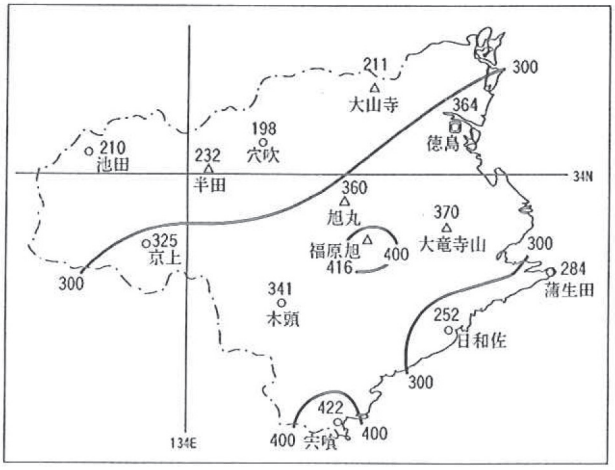
大陸東岸で発生した低気圧が，発達しながらゆっくりとした速度で東に進み，四国の南岸を通過した。

この低気圧と台風第 2 号から流入する暖湿気流の影響で，県内は大雨となった。また，低気圧の通過で強風が吹いた。

期間総降水量は，宍喰で 422㎜，上勝町の福原旭で 416㎜，阿南市太竜寺山で 370㎜を観測した。日降水量の最大値は宍喰で 2 日 319㎜，1 時間降水量の最大値は宍喰で 2 日 21 時から 22 時の間に 39㎜を観測した。

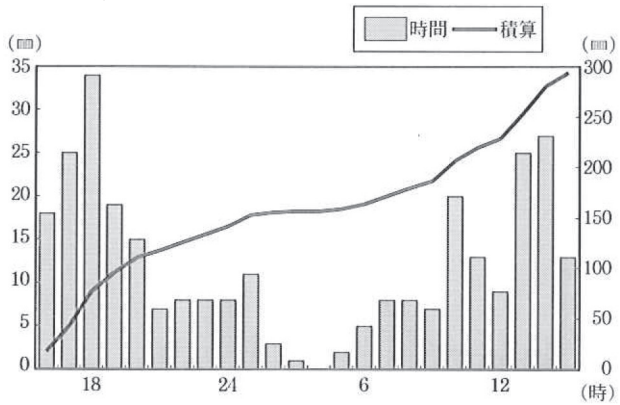
最大風速は徳島で 2 日 21 時 50 分に南南東の風 12.7m/s，最大瞬間風速は 2 日 21 時 45 分に南南東の風 24.0m/s を観測した。



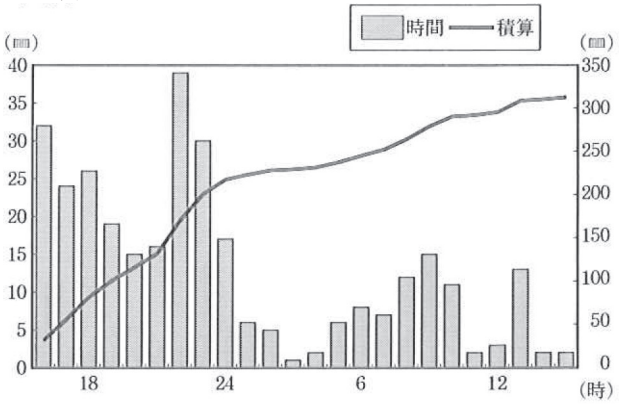


総雨量（mm）

徳島（6月2日～6月3日）



宍喰（6月2日～6月3日）



この大雨により，県南部を中心に山崩れが発生した。国道55号の牟岐－海南間で崖崩れの恐れがあり全面通行止め。宍喰町の県道久尾－宍喰浦線で山腹崩壊があり全面通行止め。海部川支流の母川が増水し，4世帯10人が避難した。国道32号の山城町で全面通行止め。鳴門市の国道11号と那賀郡の国道195号でも全面通行止めとなった。

徳島市の八万町柿谷地区では，民家70戸が10年ぶりに床上浸水した。小松島市の田野町で道路冠水し，徳島市では潜水橋の中鮎喰橋が流出した。

田畑の冠水は，水田1,300ha，畑170haであった。学校は小学校119校が授業を打ち切った外，中学校や高等学校でも午前の授業を打ち切って休校となった。また，雨と風のため鉄道・バス・船・飛行機に運休や遅れが出た。

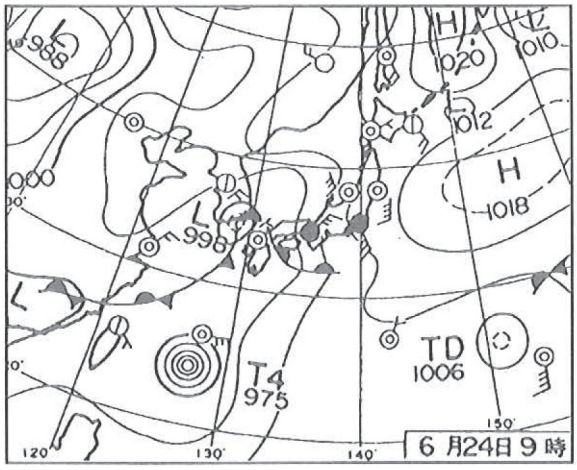
1988年（昭和63年）6月23日～25日　山崖崩れ

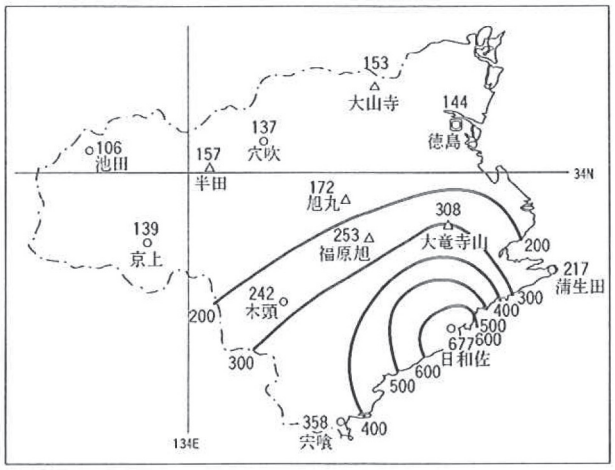
梅雨前線上に低気圧があり，台風第4号が衰弱した弱い熱帯低気圧から暖かい湿った空気が流入した。このため，徳島県では南部を中心に23日から大雨になり，牟岐から日和佐にかけて集中豪雨になった。

23日から25日までの総降水量は，日和佐で677mm，宍喰で358mm，阿南市の太竜寺山で308mmを観測した。日降水量の最大値は日和佐で24日424mm，1時間降水量の最大値は日和佐で24日00時から01時の間に84mmを観測した。

23日深夜から24日未明にかけての大雨で，24時02時15分頃，日和佐町恵比寿浜の県道が陥没し，乗用車が転落して1カ月の重傷を負った。また，路肩損壊など7ヵ所で被害があり，3ヵ所が通行止めとなった。由岐町では県道の山腹が崩壊して埋まり通行止となった。国道55号の福井－日和佐間では，大雨による土砂崩壊の恐れがあり全面通行止めとなった。

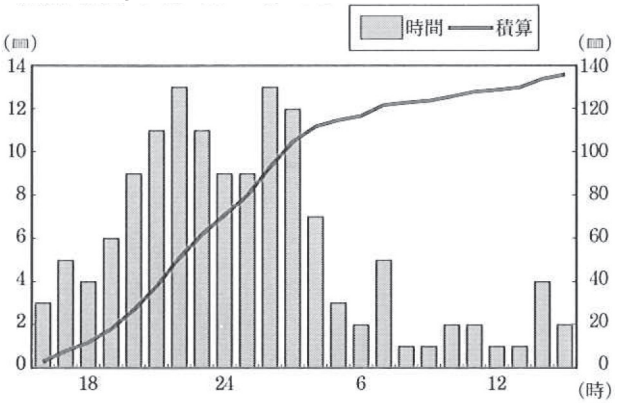
鉄道では牟岐線で24日04時30分頃，木岐駅と北河内駅間で線路下のバラストが130mにわたっ



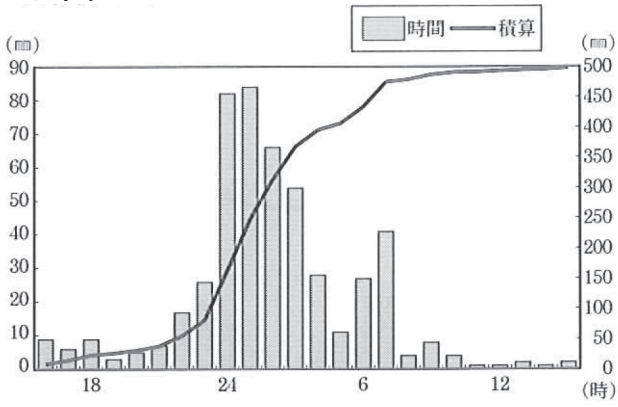


総雨量（mm）

太竜寺山（6 月 23 日～6 月 24 日）



日和佐（6 月 23 日～6 月 24 日）



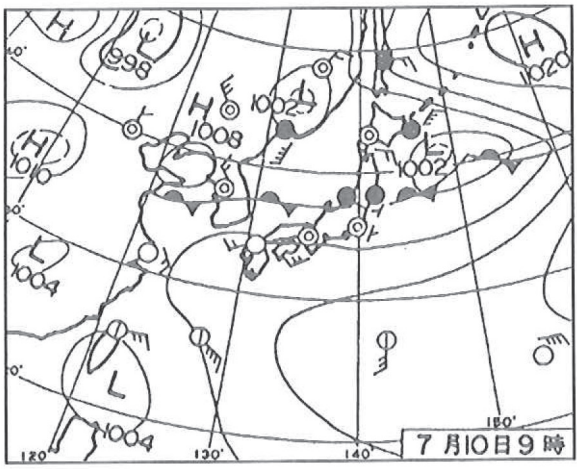
て崩れ落ち，一時通行不能となった。家屋被害は，日和佐町で県立老人ホームなど 21 戸が床上浸水し 250 戸が床下浸水した。

阿南市でも 4 戸が床上浸水し 37 戸が床下浸水する被害があった。由岐町田井の浜では大雨で鶏舎が水没し，ブロイラー 16,000 羽が全滅する被害が発生した。田畑の被害は水稲や菊栽培ハウスの冠水などがあり 289ha に及んだ。

河川では由岐町の奥谷川で約 300m にわたって護岸が決壊した。

学校関係では 25 日徳島市や海部郡を中心に，小学校・中学校・高等学校あわせて 111 校が休校となった。

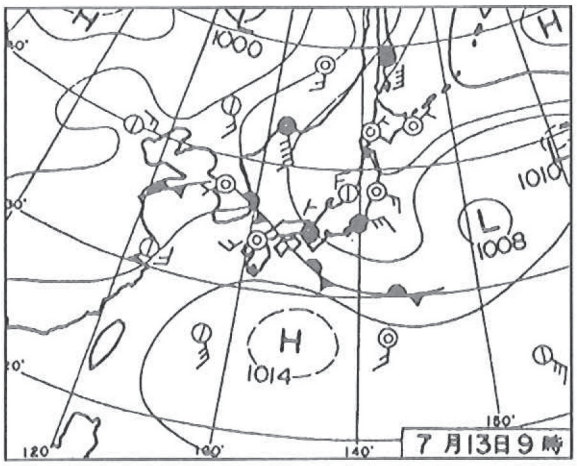
1988 年（昭和 63 年）7 月 10 日～11 日濃霧



北の方に梅雨前線があり，四国地方は太平洋高気圧からの暖湿気が流入した。県北部の海上では朝方の気温の低下で濃い霧が発生し，船舶の事故が相次いだ。

10 日 06 時 25 分ごろ，貨物船「第七益栄丸」が大鳴門橋近くの中瀬に乗り上げ座礁した。小松島海上保安部の調べによると，事故当時の海域の視程は約 50m の濃い霧につつまれていた。11 日 07 時前，鳴門市大磯崎灯台の東約 4.6kmの鳴門海峡で，松山の貨物船「第 11 秀丸」199 トンと高松のタンカー「友幸丸」167 トンが衝突して両船とも小破し 2 名が負傷した。小松島海上保安部の調べによると，事故当時現場の視程は約 200m であった。

1988 年（昭和 63 年）7 月 13 日　雷



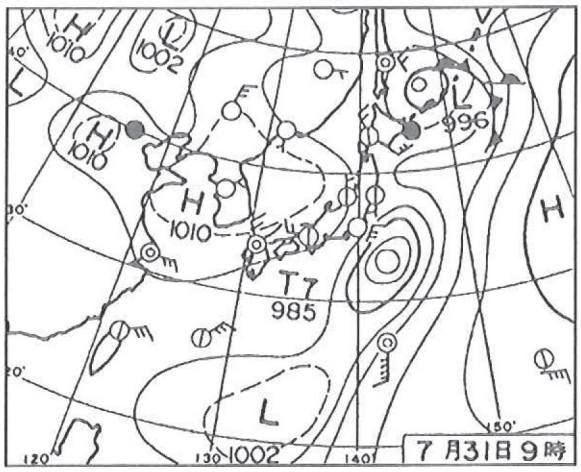
梅雨前線は西の方で北上し東の方で南下して，前線が徳島県を横切った。このため，北のオホーツク海高気圧から南下する冷たい空気と，太平洋高気圧から北上する暖かく湿った空気とかがぶつかり，大気は極めて不安定な状態になって雷が発生した。

02 時 40 分頃，板野郡藍住町で配電盤に落電し，藍住町や板野町などで約 900 戸が停電した。09 時 56 分には徳島市国府町と応神町を結ぶ送電線に落電し，徳島市西部を中心に約 34,000 戸が停電した。

1988 年（昭和 63 年）7 月 31 日　海難

父島の南西海上にあった弱い熱帯低気圧は，29 日 15 時に台風第 7 号になった。台風第 7 号は，ゆっくりと北に進んだ後，30 日から 31 日にかけて日本の南海上を北東に進んだ。この台風の影響で，徳島県の沿岸海域には高いうねりが押し寄せた。

31 日 13 時過ぎ，鳴門市里浦町の沖合い約 500m の撫養港口で釣り船「三河丸」2.2 トンが高波を受けて転覆し，乗っていた 2 人のうちの一人が死亡，もう一人が軽いけがを負った。

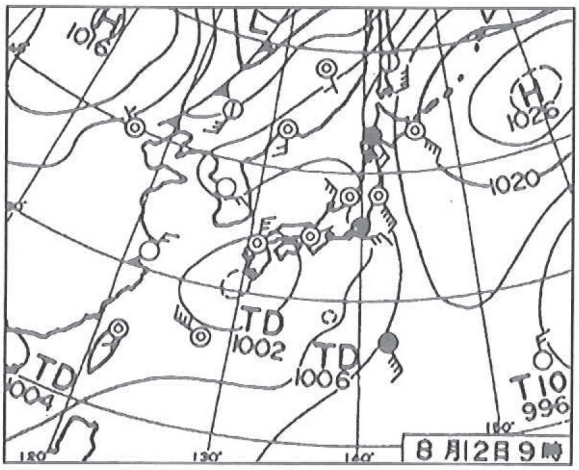


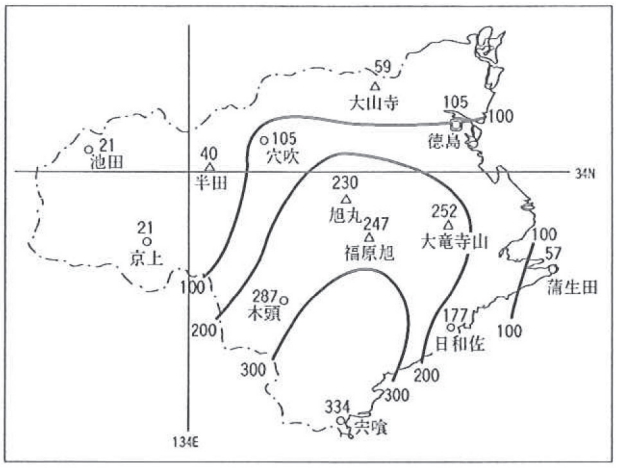
1988 年（昭和 63 年）8 月 12 日～ 13 日　大雨

九州の南海上に弱い熱帯低気圧があり，この熱帯低気圧から暖湿気が流入した。この暖湿気に山岳部での地形効果による上昇が加わって，大気は非常に不安定となった。このため，12 日の夜から 13 日の早朝にかけて，県南部を中心に積乱雲が発達して雷が発生し，局地的な大雨となった。

12 日から 13 日にかけての総雨量は，宍喰が 334㎜，木頭が 287㎜，阿南市の太竜寺山が 252㎜を観測した。日降水量の最大値は阿南市の太竜寺山で 13 日 239㎜を観測した。

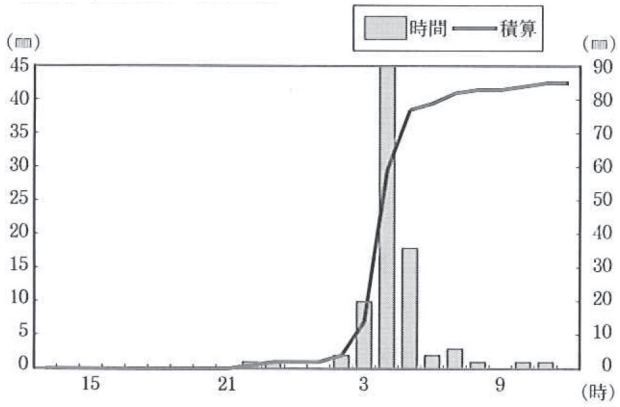
13 日 03 時ごろ，徳島市上八万町の園瀬川で，土木建設機材を堤防上に移動していた 3 人が，突然の増水で濁流にのまれ 1 人が死亡した。



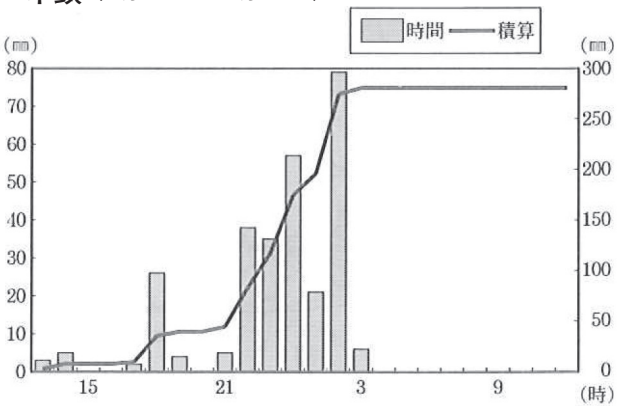


総雨量（㎜）

徳島（8 月 12 日～ 8 月 13 日）



木頭（8 月 12 日～ 8 月 13 日）

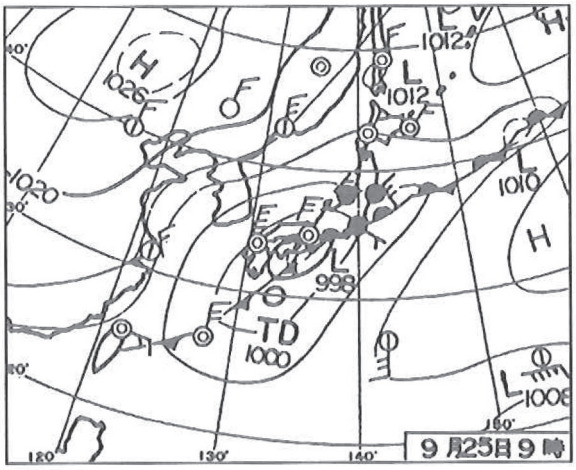


13 日未明，那賀郡上那賀町では，海川のキャンプ村で河川敷に駐車中の車が増水で流され，音谷の町道に駐車中の乗用車が，大雨でゆるんだ路肩が壊れて谷川へ転落した。

海南町では 12 日 21 時頃から 12 日 03 時頃にかけて激しい雨が降り，川上地区で 2 戸が床上浸水し，浅川地区では 11 戸が床下浸水した。また，熱田地区で善蔵川の堤防が 20m にわたって決壊した。

国道 193 号の木沢村など 3 ヵ所で通行止めとなり，国道 195 号線の上那賀など 2 ヶ所が通行止めとなった。また，県道では阿南市や宍喰町など 8 ヵ所で通行止めとなった。

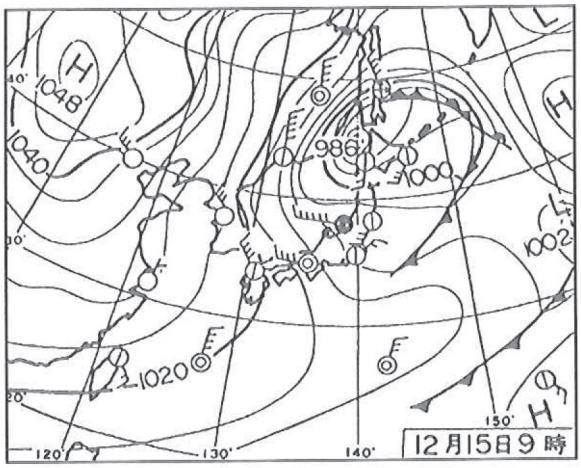
1988 年（昭和 63 年）9 月 24 日～ 25 日　海難事故



小型で弱い台風第 22 号が宮古島の東海上を北東に進み，南海上から暖湿気が流入した。このため四国沖に停滞している秋雨前線の活動が活発になり，終日雨が降り続いて沿岸海上では濃霧と高いうねりがあった。

24 日は霧のため航空便が欠航した。25 日 03 時 20 分頃には，鳴門市撫養港の北東沖あい約 3.6㎞の鳴門海峡で，和歌山の貨物船が転覆した。乗組員 5 人のうち 4 人は救助されたが，1 人が行方不明となった。事故当時，現場海域は 6 ～ 7m の風が吹き 3 ～ 4m のうねりがあったもよう。

1988 年（昭和 63 年）12 月 15 日～ 16 日　山火事

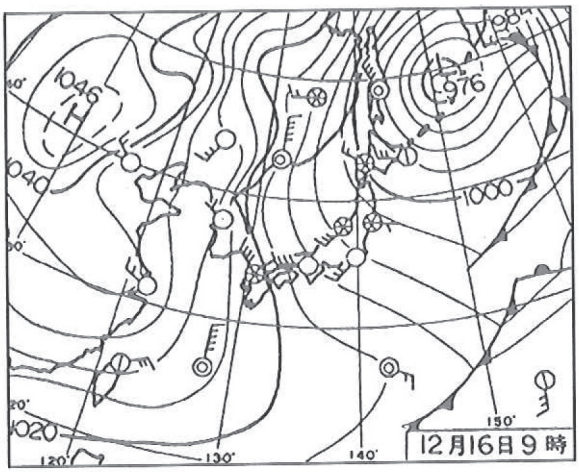


オホーツク海方面には発達した低気圧があり，大陸からは強い高気圧が張り出してきた。四国地方は冬型の気圧配置が強まって空気が乾燥し，火災の起こりやすい気象状態が続いた。

徳島の実効湿度は 61%，最小湿度は 16 日 13 時 30 分に 42% を観測した。最大風速は宍喰で 16 日 11 時に西の風 4m/s，最大瞬間風速は徳島で 16 日 12 時 20 分に西北西の風 17.3m/s を観測した。

15 日午後，宍喰町久尾の標高 900m の町有林から出火した。火は強い季節風に煽られて燃え広がり，杉や檜などの植林約 30ha を焼いた。火は更に尾根を越えて燃え広がり，海南町相川の上皆津地区に延焼した。ここでも杉林など約 30ha を焼失，合計 60ha を焼いて 16 日 11 時 15 分に鎮火した。

1988 年（昭和 63 年）12 月 16 日～ 17 日　雪



オホーツク海方面には発達した低気圧があり，大陸からは優勢な高気圧が張り出してきた。このため，四国地方は強い冬型の気圧配置が続き，上空に寒気が流入して，県西部を中心に雪が降った。

徳島市での積雪は 3cmで，12 月としては観測開始以来第 5 位の積雪記録となった。降雪の深さ日量の最大は 16 日穴吹で 7cm，最深積雪は京上で 17 日 09 時に 10cmであった。最低気温は木頭で，16 日 24 時に平年より 3.3℃低い氷点下 3.9℃を観測した。

雪は断続的に降り続き，交通が乱れ航空便と鉄道に欠航と運休が出た。国道 11 号バイパスでは凍結による渋滞が発生し，国道 55 号では渋滞とバスの運休があった。県下のスリップ事故は 18 件あり，県西部などでは休校が相次いだ。

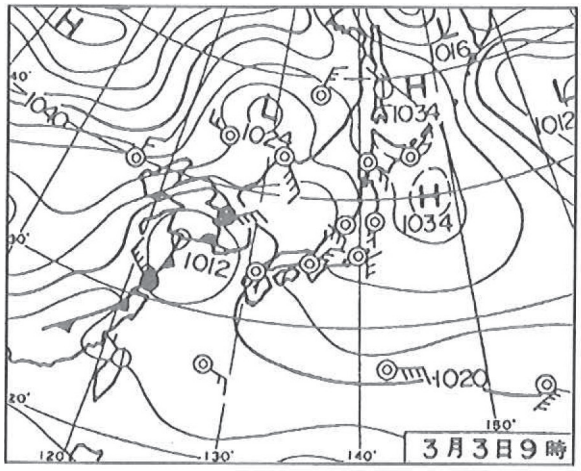
雪を踏んで登校する新町小学生　徳島市山手町
（徳島新聞社提供）

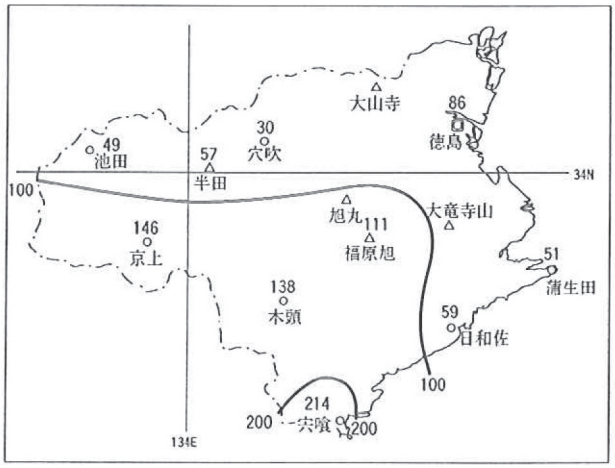
渋滞，ノロノロ運転が続く吉野川大橋南詰（徳島新聞社提供）

1989年

［平成元年］

1989 年（平成元年）3 月 3 日～4 日　崖崩れ





雨量分布図（mm）

低気圧が発達しながら日本海を通り，日本の東海上には高気圧があって気圧差が大きくなった。3 日から 4 日にかけては低気圧の影響と，高気圧から低気圧に向かって吹き込む南東の強風のため雨が降り続いた。

最大風速は日和佐で，3 日 16 時に東南東の風 13m/s，最大瞬間風速は徳島で 3 日 20 時 16 分に南東の風 17.8m/s を観測した。

総降水量の最大は宍喰で，3 日 04 時から 4 日 22 時までの間に 214㎜を観測した。日降水量の最大は東祖谷山村京上で 4 日 101㎜，1 時間降水量の最大は京上で 4 日 12 時から 13 時までの間に 18㎜を観測した。

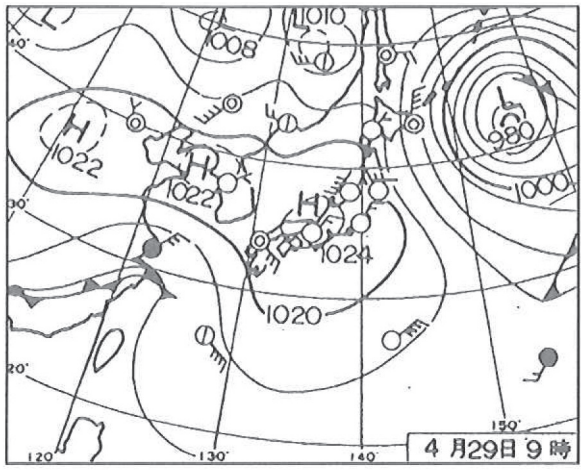
強風のため海と空の交通が混乱した。4 日 11 時 30 分頃には，西祖谷山村一宇の県道山城－東祖谷山線で，高さ 20m・長さ 100m にわたって崩れ通行止めとなった。

1989 年（平成元年）4 月 29 日　霜害

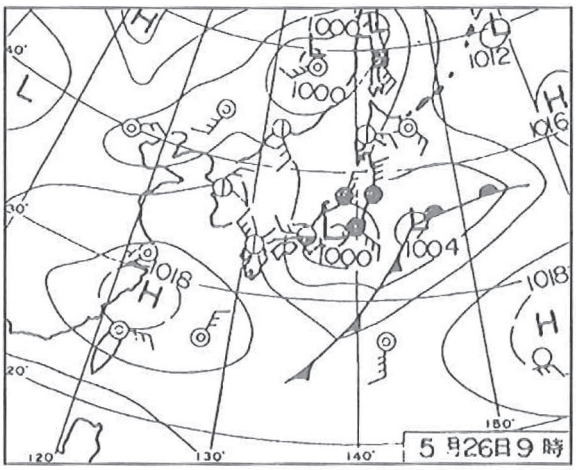
移動性高気圧におおわれて快晴の天気となったため，夜から早朝にかけて放射冷却による気温低下で遅霜がおりた。

最低気温は東祖谷山村の京上で，06 時に氷点下 0.1℃を観測した。

県西部の山城町や西祖谷山村などの山間部では，この晩霜により発芽期に入った茶葉に被害を受けた。被害面積は 30ha であった。



1989 年（平成元年）5 月 26 日　ヒョウ



上空に強い寒気が流入したため大気が不安定となり，積乱雲が発達して早朝に県南部でヒョウが降った。

日和佐の気温は，日平均気温が 17.8℃で平年より 1.7℃低め，最高気温は 16 時に 22.3℃で平年より 1.4℃の低めであった。また，日和佐の 1 時間降水量の最大値は，05 時から 06 時の間に 20㎜を観測した。

阿南市の新野・福井・椿地区，および海部郡日和佐町で直径 1 ～ 2cmほどの大きさのヒョウが降った。

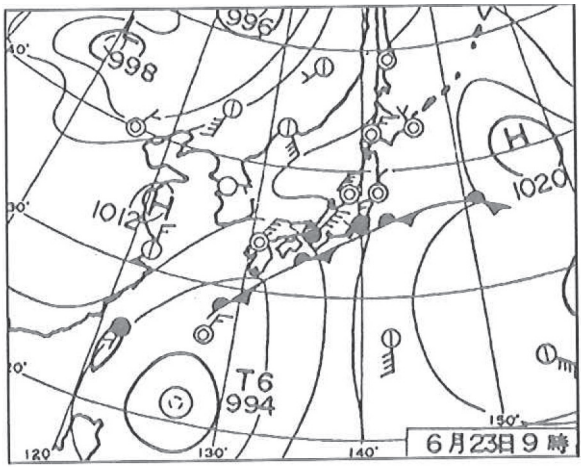
新聞記事によると，「ヒョウは雷とともにバケツをひっくり返したような激しさで降り，地面が真っ白になるほどであった」と記されている。このヒョウによりビニールハウスが破れたり，出荷前のミズフキ 20ha や葉タバコ 10ha が全滅に近い被害を受けた。

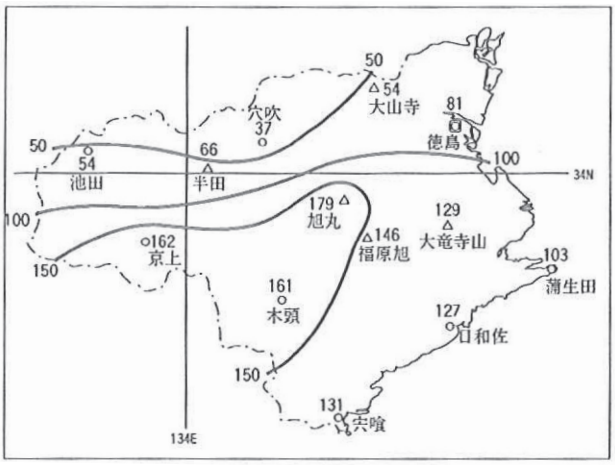
（徳島新聞社提供）

1989 年（平成元年）6 月 22 日～ 24 日　台風第 6 号

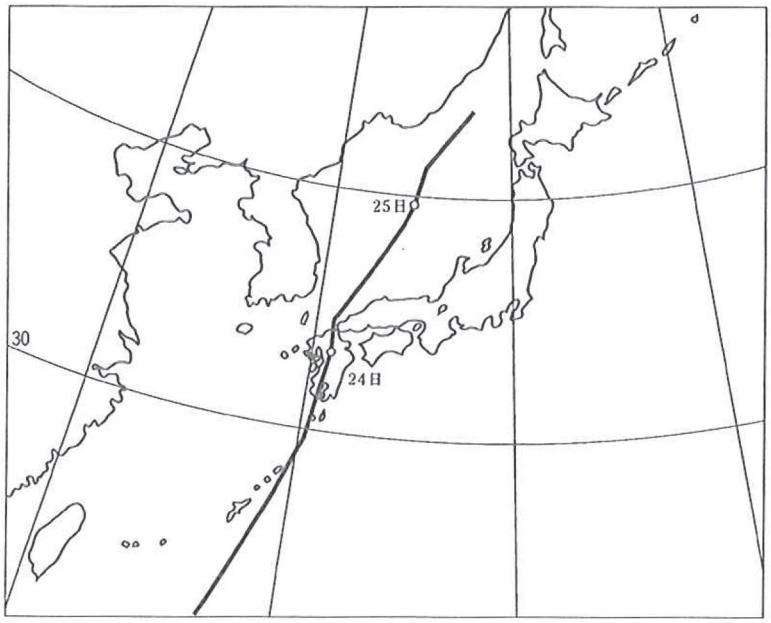
23 日 03 時にフィリピンの東方海上で発生した台風第 6 号は，速度を速めながら 1 時間に 55 ～ 65km の速さで北～北北東に進んだ。その後，沖縄の東海上を北上して，24 日 05 時 30 分ごろ鹿児島県の薩摩半島南部に上陸した。上陸後は九州を縦断し，24 日 12 時に山口県萩市沖の日本海で温帯低気圧になった。

徳島県では 24 日朝から風と雨が強まり，最大風速は徳島で 11 時 10 分に南南東の風 13.3m/s，最大瞬間風速は徳島で 10 時 01 分に南南東の風 24.3m/s を観測した。





総雨量（㎜）

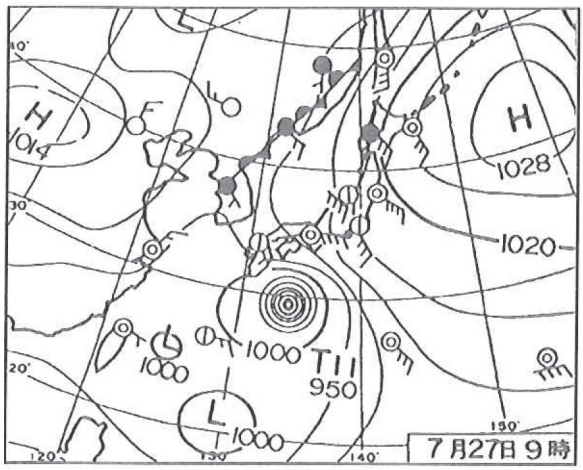


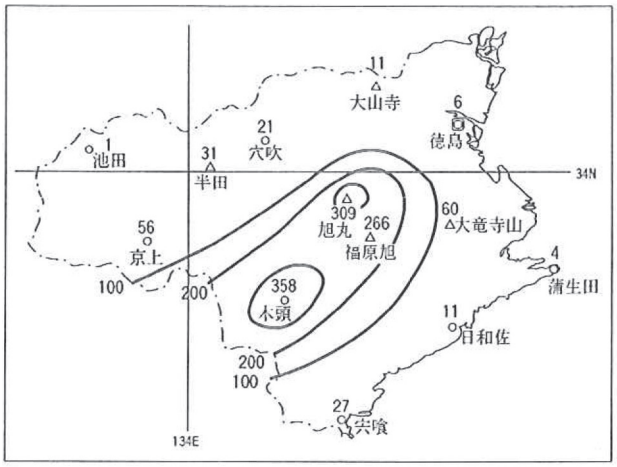
台風第 6 号　経路図

総降水量の最大値は神山町の旭丸で 22 日 15 時から 24 日 16 時の間に 179.0㎜，日降水量の最大値は東祖谷山村京上で 24 日 118㎜を観測した。また，1 時間降水量の最大値は上勝町福原旭で，24 日 02 時から 03 時の間に 20㎜を観測した。

24 日 06 時頃には，三好郡井川町の県道大利－辻線で山腹が高さ 3m，幅 5m にわたって崩壊し通行止めになった。また，強風と高波のため，海と空の便に欠航が相次いだ。

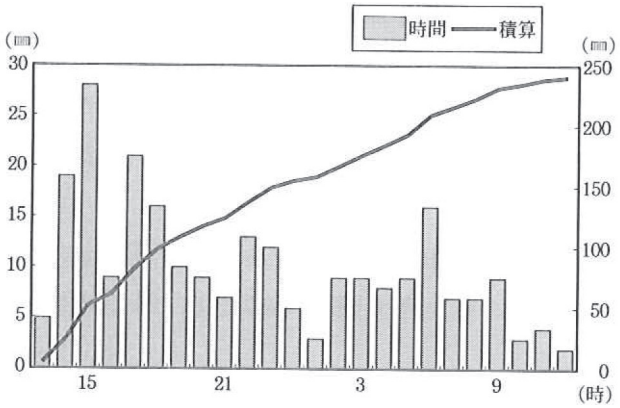
1989 年（平成元年）7 月 26 日～ 28 日　台風第 11 号



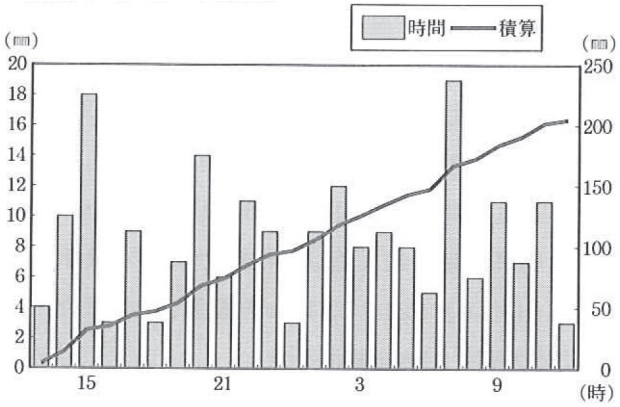


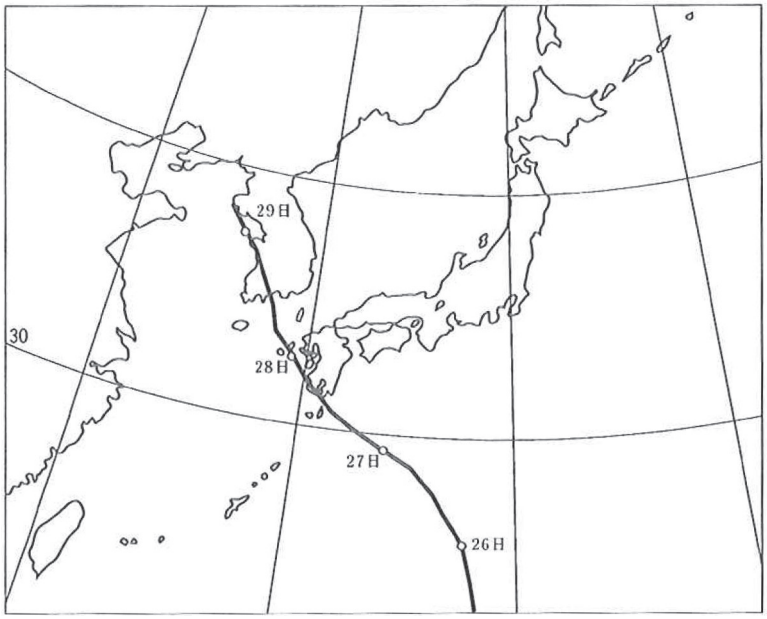
総雨量（mm）

旭丸（7 月 27 日～ 7 月 28 日）



木頭（7 月 27 日～ 7 月 28 日）





台風第 11 号　経路図

フィリピンの東海上で発生した大型で強い台風第 11 号は，ゆっくりした速度で北上を続け，26 日には向きを北西に変えて四国の南海上を進んだ。27 日 06 時には室戸岬の南約 450 kmを通過し，27 日 23 時 40 分ごろに鹿児島県大隅半島南部に上陸した。28 日 22 時頃には朝鮮半島に上陸し，29 日 09 時に弱い熱帯低気圧になった。

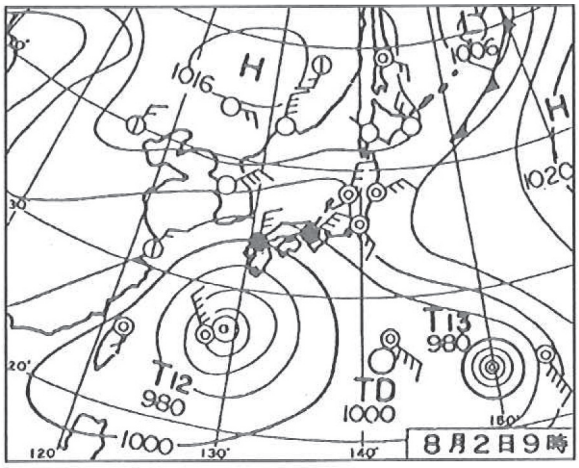
最大風速は日和佐で 27 日 16 時に東の風 14.0m/s，最大瞬間風速は徳島で 28 日 11 時 59 分に南南東の風 21.8m/s を観測した。総降水量は 26 日から 28 日までの間に木頭で 358mm，神山町の旭丸で 309mm，上勝町の福原旭で 266 mmを観測した。日降水量の最大値は神山町の旭丸で 27 日 159mm，1 時間降水量の最大値は神山町の旭丸で 27 日 14 時から 15 時の間に 28 mmを観測した。

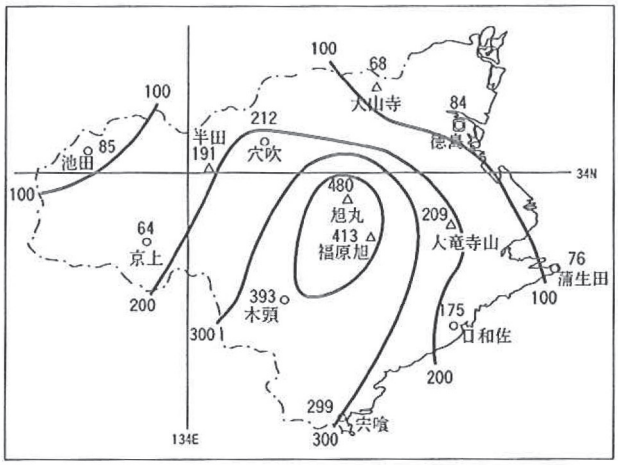
26 日 10 時 30 分頃に那賀郡上那賀町の国道 195 号で山腹が高さ 15m，幅約 15m にわたって崩壊し通行止めとなった。27 日 15 時頃には美馬郡木屋平村の国道 439 号で山腹が崩壊し，約 30 立方メー

トルの土砂が埋まって通行止めとなった。

また，台風第 11 号の影響で海上はうねりと波が高くなり，27 日午後からは風も強まったため，海と空の便は欠航した。

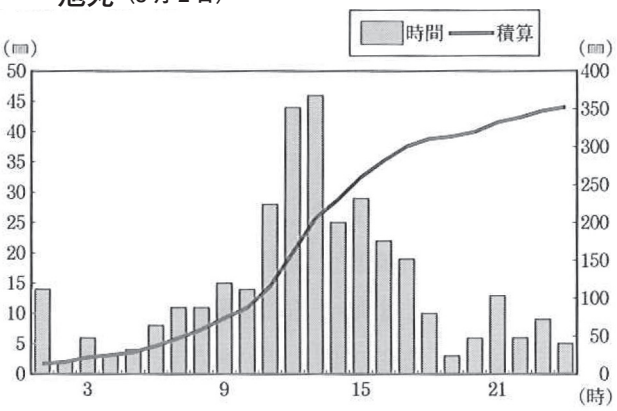
1989 年（平成元年）7 月 31 日～ 8 月 3 日　台風第 12 号



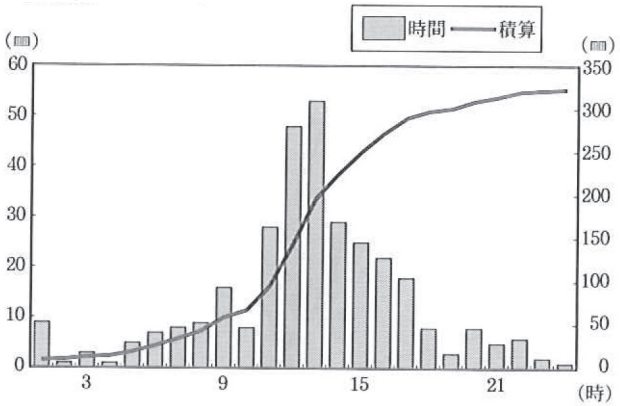


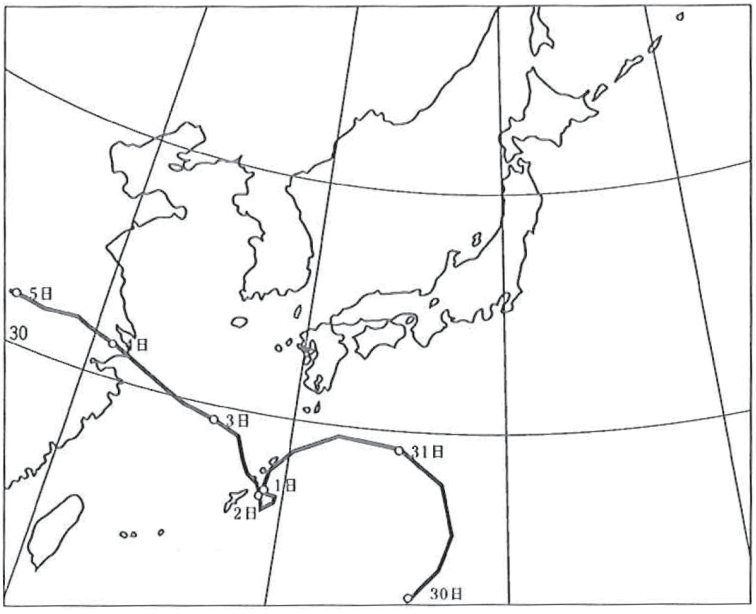
雨量分布図（㎜）

旭丸（8 月 2 日）



福原旭（8 月 2 日）





台風第 12 号　経路図

沖縄の南海上で発生した台風第 12 号は，沖永良部島の南東海上で停滞していたが，2 日夜には鹿児島県名瀬市の南西海上をゆっくりと北北西に進んだ。その後，東シナ海に向かって北西に移動し，4 日に中国大陸に上陸した。

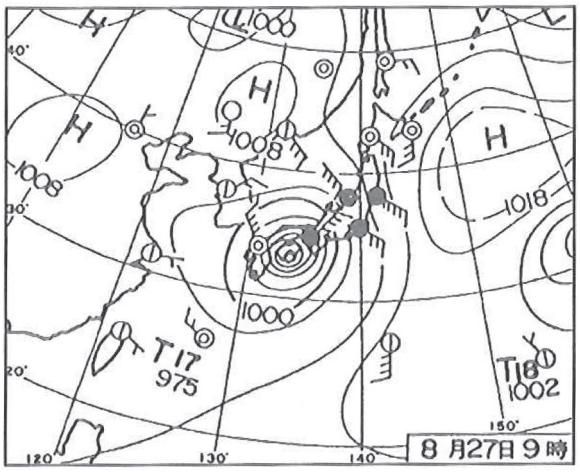
この台風の影響で南東の暖湿気が流入して大気が不安定になり，南東風を受ける県南山間部を中心に大雨が降った。

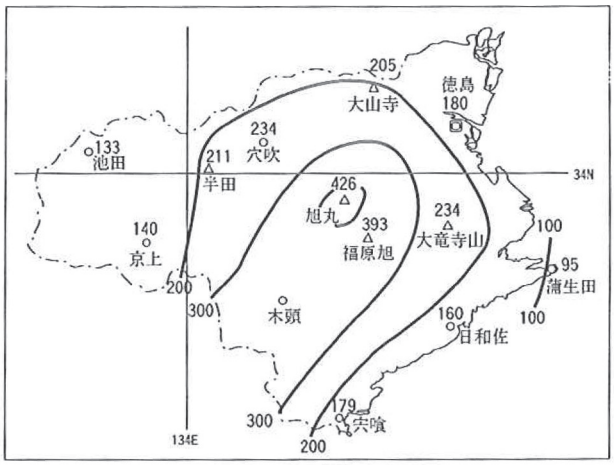
総降水量は 7 月 31 日から 8 月 3 日までの間に神山町の旭丸で 480㎜，上勝町の福原旭で 413㎜，木頭で 393㎜を観測した。日降水量の最大値は神山町の旭丸で 8 月 2 日に 353㎜，1 時間降水量の最大値は宍喰で 8 月 2 日 05 時から 06 時の間に 54㎜を観測した。

この雨により県道や国道で，山腹崩壊による被害が発生した。国道では，193 号は名東郡佐那河内村など 3 ヵ所，195 号は那賀郡相生町など 3 ヵ所，193 号は海部郡海南町など 2 ヵ所で通行止めとなった。県道は名西郡神山町の寄井－川島線，勝浦郡上勝町南浦の徳島－上那賀線など，11 ヵ所で山腹が崩落し通行止めとなった。麻植郡美郷村では，林道にかかる長さ 20m の城戸橋が直径 3m の落石で折れた。JR は牟岐線と徳島線で警戒雨量を超えたため遅れが生じた。

（徳島新聞社提供）

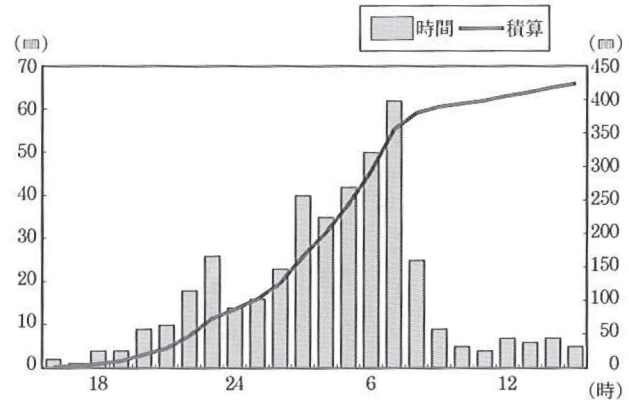
1989 年（平成元年）8 月 26 日～ 27 日　台風第 17 号



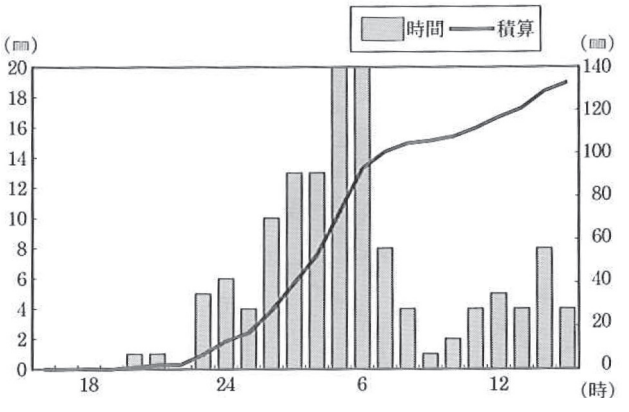


雨量分布図（㎜）

旭丸（8 月 26 日～ 7 月 27 日）



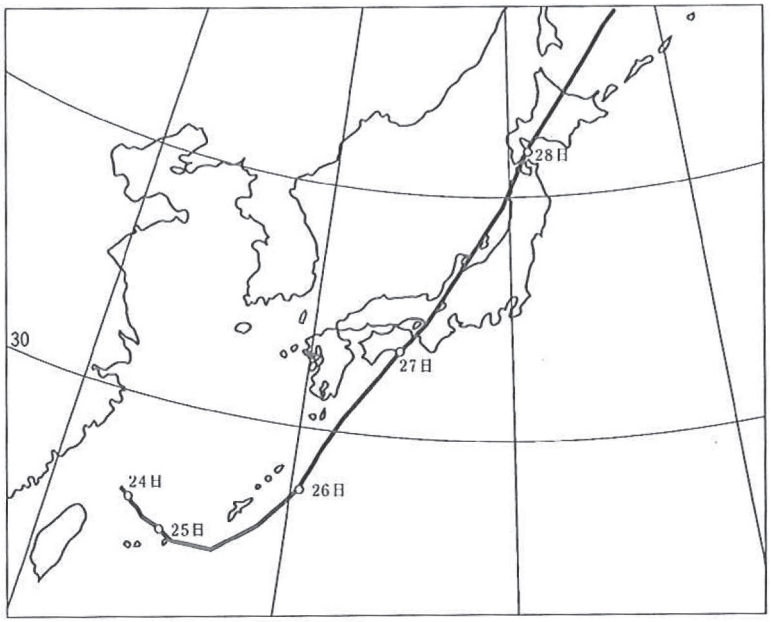
京上（8 月 26 日～ 7 月 27 日）



宮古島の北東約 40㎞の海上で発生した台風第 17 号は，北上を続け 27 日 03 時に足摺岬の南約 100㎞の海上を通過，27 日 09 時頃に室戸市付近に上陸した。その後，徳島県沿岸を北北東に進み，27 日 12 時前に徳島市付近を通過した。27 日 15 時頃大阪市付近に再上陸し，27 日 20 時頃には富山湾へ出た。

徳島県では，27 日の夜明け前から風と雨が強まり，特に台風が室戸岬に上陸する前の，03 時から 09 時頃の間が風雨ともに最も強かった。

総降水量は 26 日から 27 日の間に，神山町の旭丸で 426㎜，上勝町の福原旭 393㎜，日降水量は 27 日に神山町の旭丸で 338㎜，同じく 27 日に上勝町の福原旭で 312㎜を観測した。1 時間降水量の最大値は神山町の旭丸で 27 日 06 時から 07 時までの間に 62㎜を観測した。



台風第 17 号　経路図

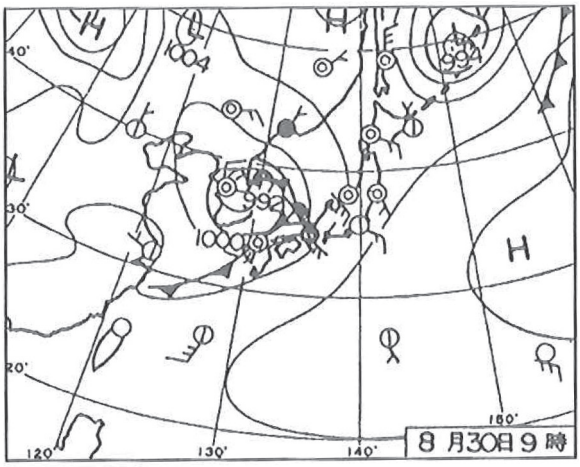
最大風速は日和佐で 27 日 04 時に東の風 18m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 27 日 06 時 32 分に東北東の風 28.9m/s を観測した。

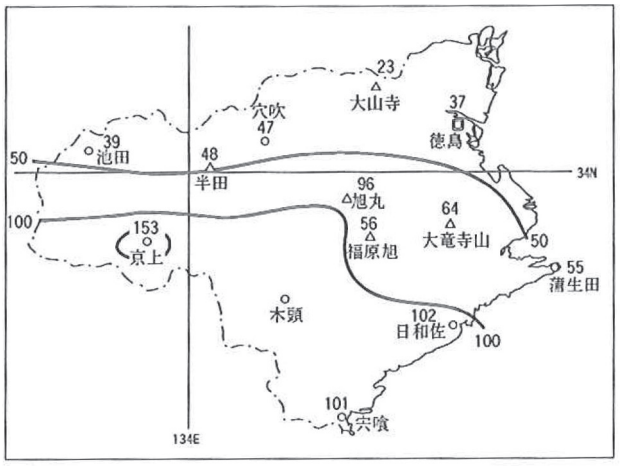
27 日の早朝に名西郡神山町で，41 歳の主婦と 71 歳の男性が増水した鮎喰川支流に転落して死亡した。麻植郡川島町と鴨島町では 5 戸が床上浸水した。27 日 14 時 30 分ごろ，三好郡池田町の県道辻野－観音寺線で山腹が崩壊し通行止めとなった。三好郡東祖谷山村の国道 439 号線で山腹が崩壊し通行止め，名西郡神山町では 3 ヵ所で崖崩れのため通行止めとなった。

徳島市北田宮では，強風で倒れた木の除去作業中の 61 歳の男性が転落して 2 カ月の重傷を負った。27 日は陸・海・空の交通が乱れ，運休や欠航が相次いだ。

電力関係では徳島市内や県西部など 6 つの地域で送電線が切れて 7,500 戸が停電し，電話は県下で 465 戸が不通になった。

1989 年（平成元年）8 月 30 日　山崖崩れ・落雷





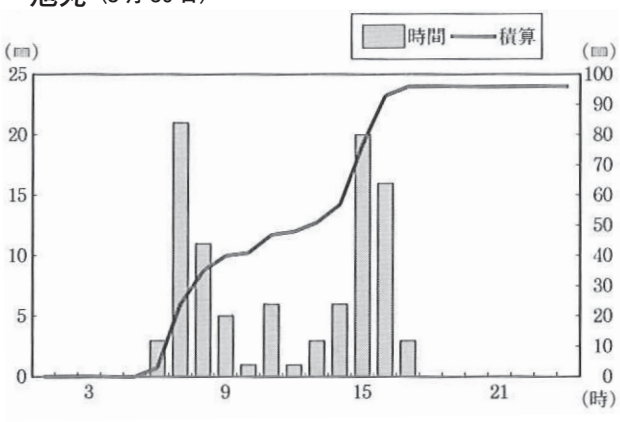
総雨量（㎜）

低気圧が発達しながら日本海を通過し，四国地方は温暖前線と寒冷前線の間の暖域に入った。このため，南から暖湿気が流入して大気が不安定になり，早朝から雷を伴って激しい雨が降った。

総降水量は東祖谷山村京上で 04 時から 07 時の間に 153㎜，1 時間降水量の最大値は日和佐で 09 時から 10 時の間に 66㎜を観測した。

美馬郡一宇村で土砂崩れがあり 1 棟が全壊した。三好郡東祖谷山村の国道 439 号で 3 ヵ所の山腹崩壊があり通行止めになった。三好

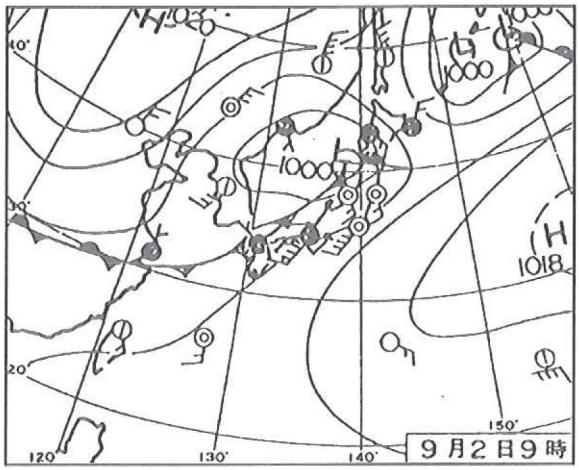
旭丸（8 月 30 日）

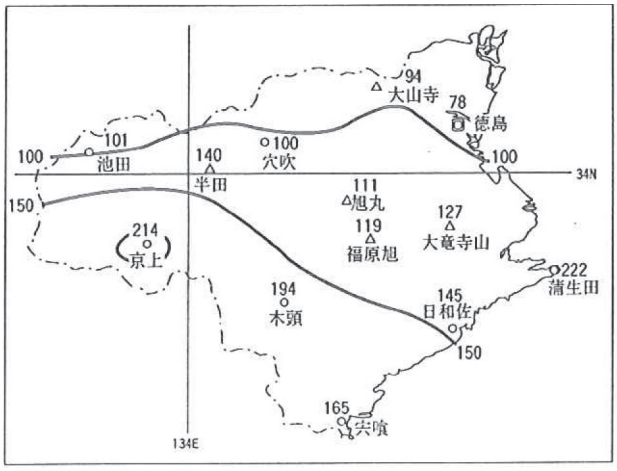


郡山城町の県道新居浜－山城線と菅生－伊良原線でも山腹崩壊のため通行止めになった。

鉄道では 08 時 30 分ごろ，JR 佐古駅構内の信号機が落雷のため故障し運休や遅れが出た。

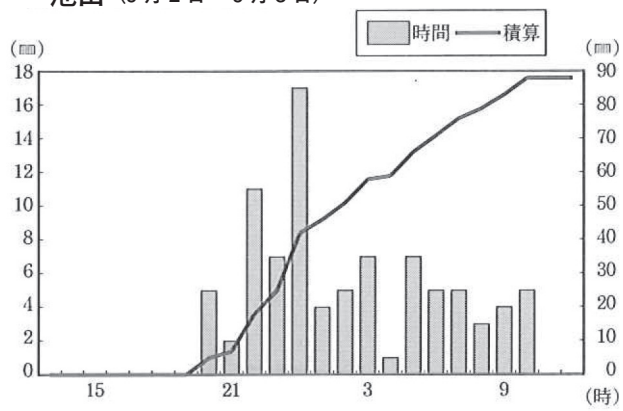
1989 年（平成元年）9 月 1 日～ 3 日　山崖崩れ



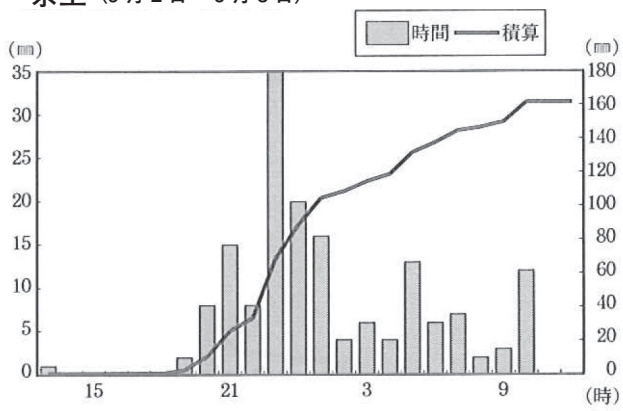


総雨量（mm）

池田（9 月 2 日～ 9 月 3 日）



京上（9 月 2 日～ 9 月 3 日）



（徳島新聞社提供）

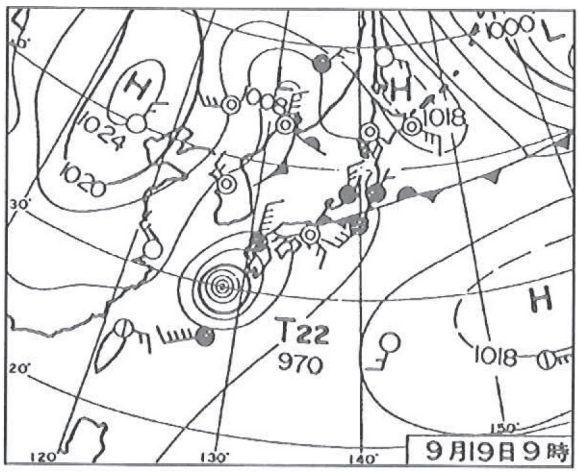
秋雨前線が南下し，1 日から 3 日にかけて西日本を通過して大雨が降った。特に 2 日の夕方から 3 日の昼前にかけては，県の南部や西部を中心として局地的に強い雨が降り山崩れや崖崩れが発生した。

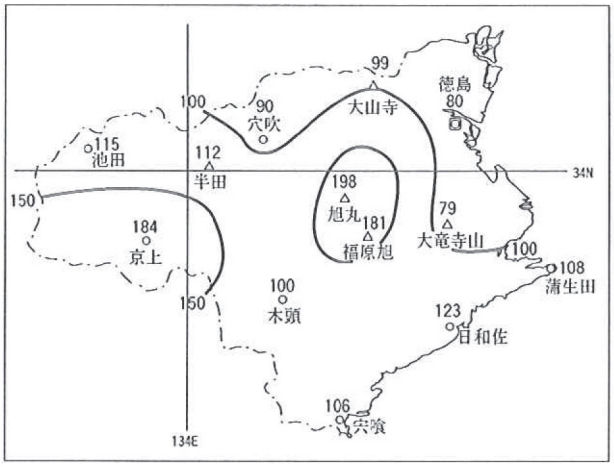
総降水量の最大値は阿南市の蒲生田で 1 日 12 時から 3 日 12 時の間に 222㎜を観測，日降水量の最大値は阿南市の蒲生田で 3 日に 183㎜を観測した。また，1 時間降水量の最大値は，阿南市の蒲生田で 3 日 07 時から 08 時の間に 46㎜を観測した。

3 日 11 時 30 分頃，三好郡西祖谷山村の JR 大歩危駅北 150m の所で山腹が崩壊し，線路が埋まって運休と遅延が発生した。同日 12 時 50 分頃，三好郡三加茂町の江口駅東で線路の路床が長さ 4m にわたって流失し，運休と遅延が発生した。3 日 15 時頃，阿波郡市場町の県道津田－川島線で，道路が長さ 20m にわたって崩れ落ち通行止めになった。

1989 年（平成元年）9 月 18 日～ 20 日　台風第 22 号

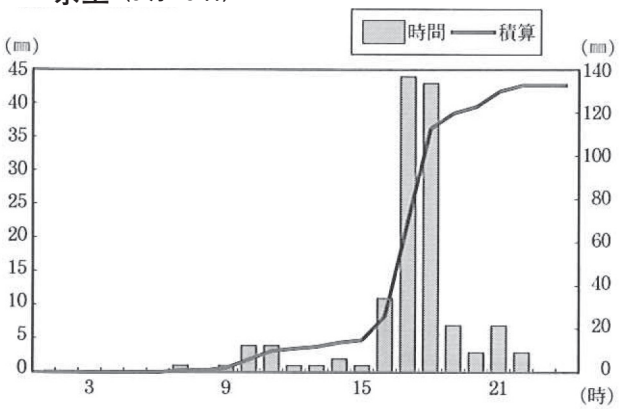
中型で並の強さの台風第 22 号は，19 日 13 時 30 分頃，鹿児島県大隅半島南部に上陸した。その後，四国沖を東北東に進んで紀伊半島南端をかすめ，20 日 03 時 30 分頃に伊豆半島南部に再上陸した。



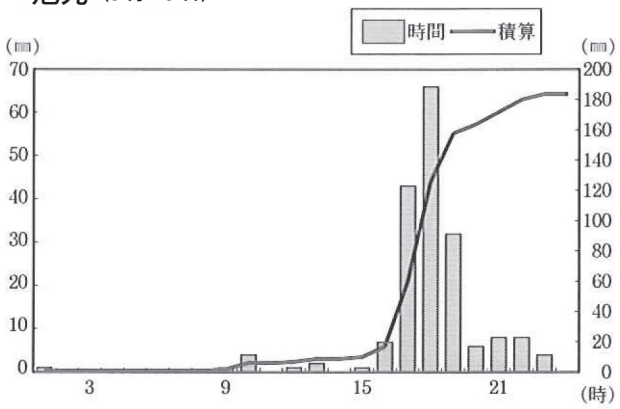


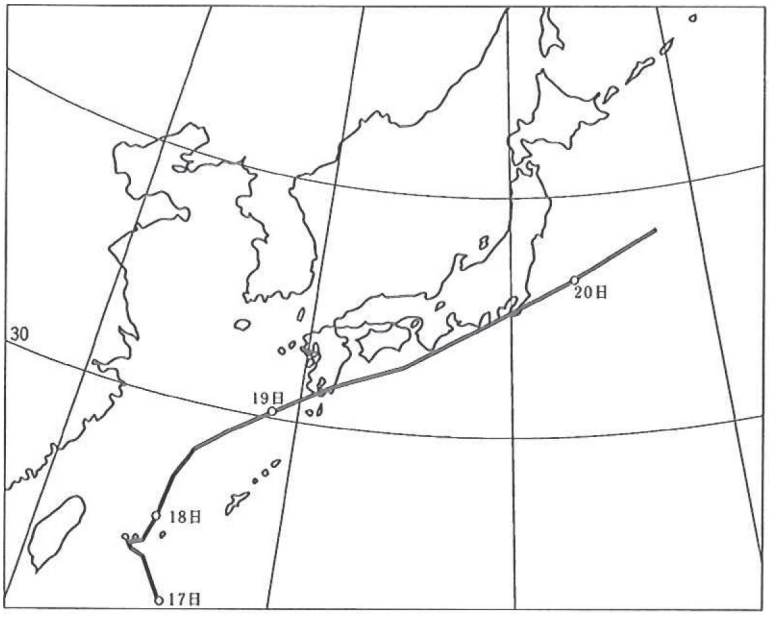
総雨量（mm）

京上（9 月 19 日）



旭丸（9 月 19 日）





台風第 22 号　経路図

この台風と西日本に停滞した秋雨前線の影響で，県南山間部を中心に大雨になり短時間で強い雨が降った。

総降水量の最大値は神山町の旭丸で 18 日 09 時から 19 日 23 時までの間に 198㎜を観測，日降水量の最大値は神山町の旭丸で 19 日に 184㎜を観測した。1 時間降水量の最大値は上勝町の福原旭で，19 日 17 時から 18 時の間に 68㎜を観測した。

最大風速は阿南市の蒲生田で 19 日 21 時に北東の風 10m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 19 日 16 時 49 分に北北東の風 15.0m/s を観測した。

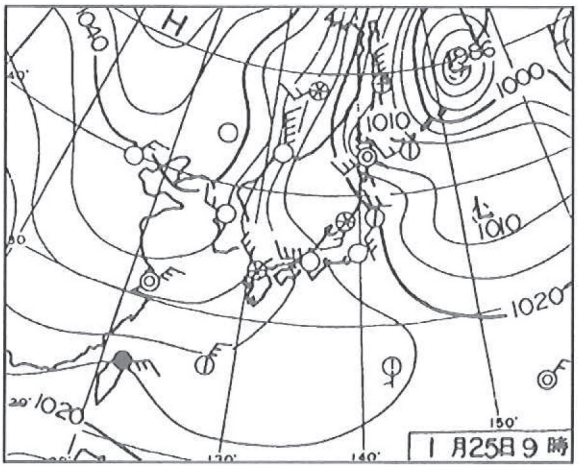
大雨により，国道 438 号や県道穴吹－木屋平線，神山－鮎喰線，中部山渓轟公園線など，合計 8 ヵ所で崖崩れや落石などのため通行止めになった。また，三好郡三好町と美馬郡半田町で山崩れがあり，納屋と非住家各 1 棟が倒壊した。

大雨と強風のため，陸・海・空の交通が乱れ，運休や欠航が相次いだ。

1990年

［平成２年］

1990 年（平成 2 年）1 月 24 日～ 27 日　凍結



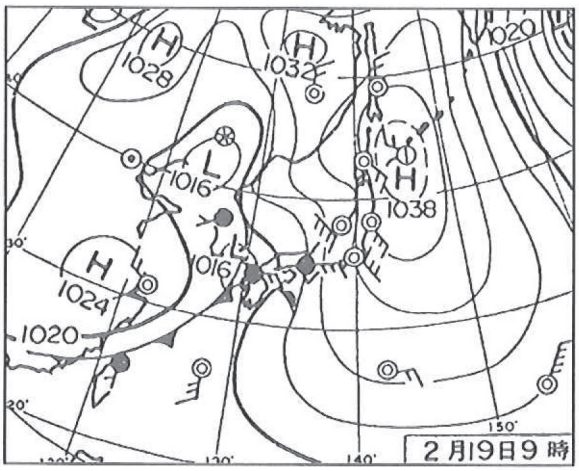
強い冬型の気圧配置になり寒気が流入した。このため，山間部を中心に雪が降り，積雪によるスリップや凍結などの被害が発生した。

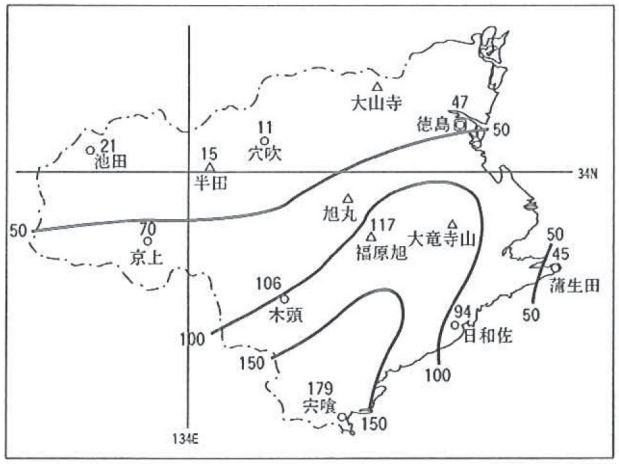
最低気温は木頭で 26 日 07 時に，平年より 4.3℃低い氷点下 7.6℃を観測した。24 日から 27 日までの平均気温では，京上で氷点下 3.7℃と平年より 3.9℃低かった。

09 時の積雪は，24 日京上 10cm，25 日京上 19cm，26 日京上 24cm，27 日京上 10cmであった。

県西部では雪のため交通が乱れ，バスが運休や折り返し運転となって，高等学校 3 校が休校した。24 日から 26 日にかけては，積雪や凍結によるスリップ事故が 22 件発生し，徳島市内では水道管の破裂が 213 件発生した。

1990 年（平成 2 年）2 月 19 日～ 20 日　山崖崩れ

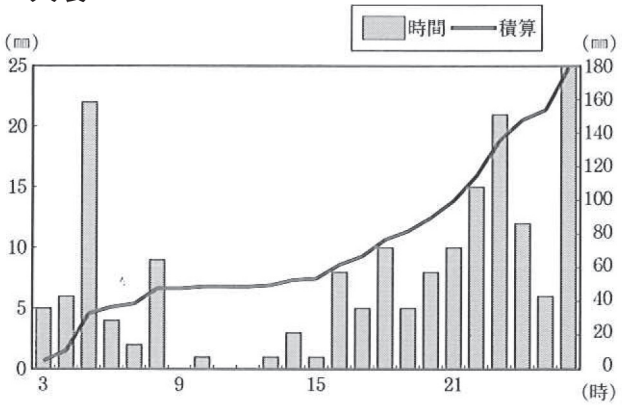




総雨量（mm）

低気圧が発達しながら日本海を通ったため，徳島県には南よりの暖湿気が流入した。そこへ寒冷前線が通過したため大気が不安定になり，積乱雲が発生して県南部を中心に強い雨が降った。

宍喰（2 月 19 日～ 2 月 20 日）

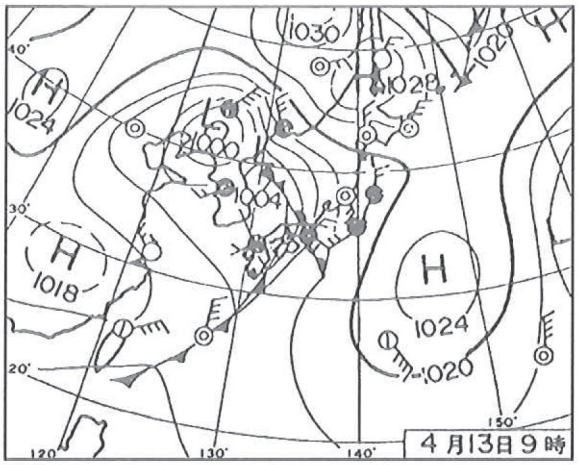


総降水量の最大値は宍喰で 19 日 02 時から 20 日 02 時までの間に 179mmを観測，日降水量の最大値は宍喰で 19 日に 148mmを観測した。1 時間降水量の最大値は，宍喰で 20 日 01 時から 02 時の間に 25mmを観測した。

最大風速は徳島で 20 日 00 時 30 分に南南東の風 12.3m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 20 日 00 時 35 分に南の風 22.0m/s を観測した。

19 日 18 時 30 分頃，海部郡海南町の国道 193 号で山腹が崩壊し，通行止めとなった。19 日午後からは強風のため，航空便に欠航と遅延が発生した。

1990 年（平成 2 年）4 月 13 日　強風

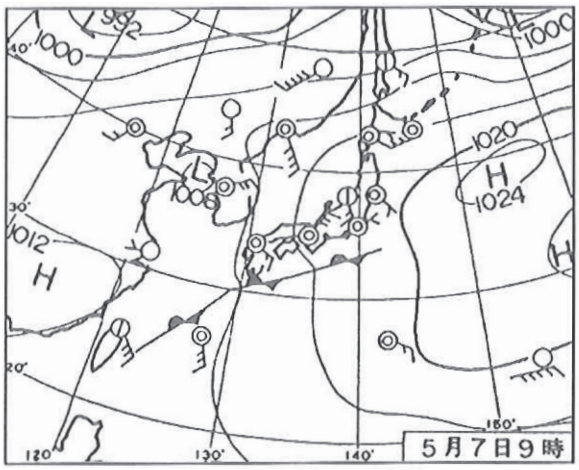


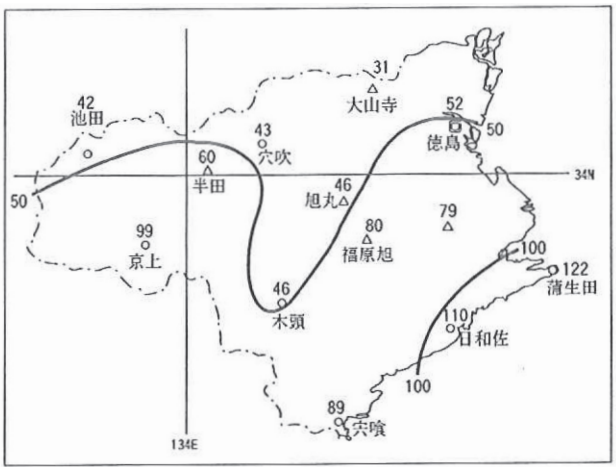
低気圧が日本海にあり，南西に延びる寒冷前線が通過した。徳島県では日本海の低気圧に向かって吹き込む南よりの強い風が吹き荒れ，寒冷前線の通過時には強い突風が吹いた。

最大風速は徳島で 10 時 10 分に南南東の風 13.2m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 10 時 25 分に南の風 25.3m/s を観測した。

この強風によりフェリー 9 便・航空 16 便が欠航した。

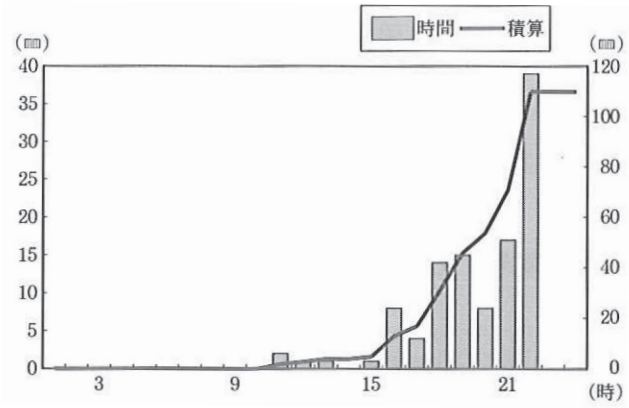
1990 年（平成 2 年）5 月 7 日　山崖崩れ



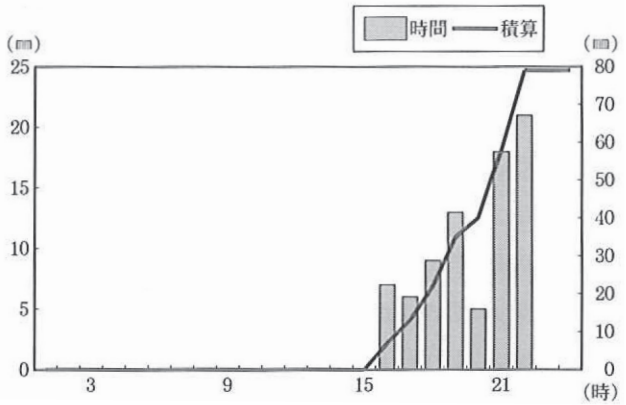


総雨量（mm）

日和佐（5 月 7 日）



太竜寺山（5 月 7 日）

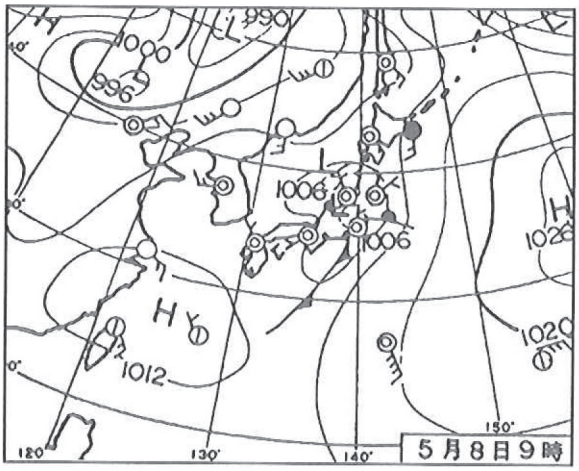


前線が本州の南岸沿いに東西に延びており，前線上の九州西岸に低気圧が発生して四国を通った。このため，海上から暖湿気流が流入して，県南部を中心に大雨が降り，山崩れや崖崩れが発生した。

総降水量の最大値は阿南市の蒲生田で 12 時から 23 時の間に 122㎜を観測，1 時間最大降水量は阿南市の蒲生田で 21 時から 22 時までの間に 40㎜を観測した。

強い雨のため，海部郡の海南町と日和佐町で山腹が崩壊し通行止めになった。また，阿南市と小松島市の 3 カ所で道路が冠水した。

1990 年（平成 2 年）5 月 8 日　ヒョウ

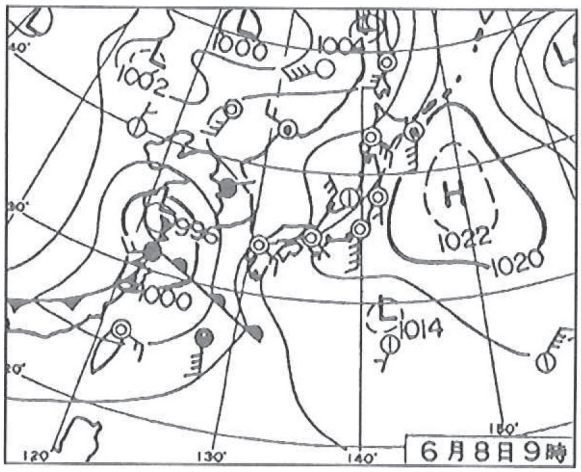


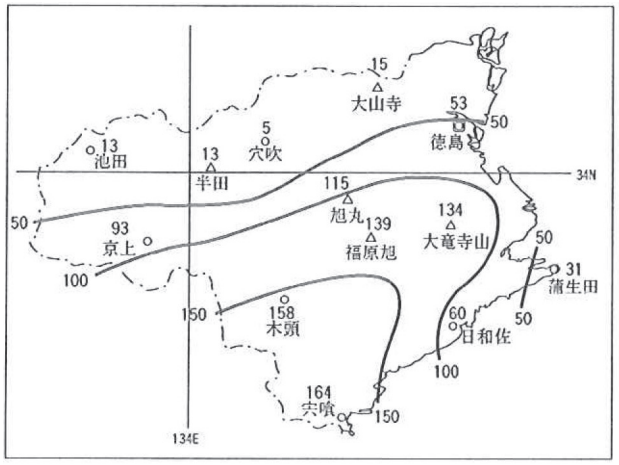
寒冷前線が通過した後，上空に強い寒気が流入して大気が不安定になった。このため，積乱雲が発達し県南部の山沿いでヒョウが降った。この日は，他県でも積乱雲が発達して降雹が多く，荒れ模様の天気となった。

徳島の平均気温は 18.8℃で平年より 1.4℃高く，最高気温は 24.7℃で平年より 2.8℃高かった。

ヒョウの大きさは直径 9㎜～ 30㎜で，那賀郡丹生谷ではフキや葉タバコ等に被害があり，阿南市ではフキに被害が発生した。

1990 年（平成 2 年）6 月 8 日～ 9 日　大雨・強風





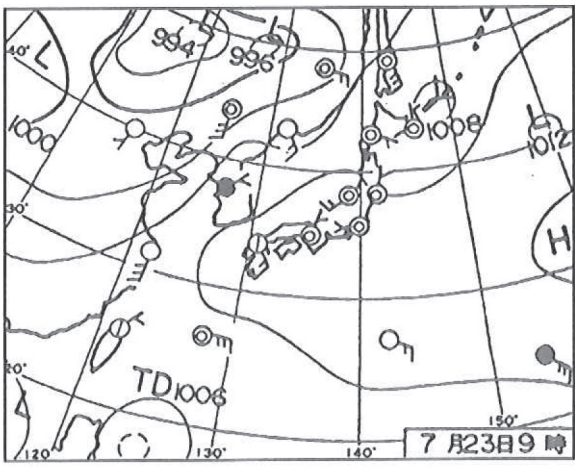
総雨量（㎜）

低気圧が発達しながら日本海を北東に進み，低気圧から南西に延びる寒冷前線が 9 日早朝に徳島県を通過した。このため，徳島県では 8 日から 9 日にかけて南よりの強風が吹き荒れ，海上からの暖湿気の流入により，県南部を大雨が降った。

最大風速は徳島で 9 日 01 時 00 分に南南東の風 12.3m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 9 日 05 時 32 分に南南東の風 23.4m/s を観測した。

総降水量の最大値は木頭で 8 日 13 時から 9 日 15 時までの間に 158㎜を観測，日降水量の最大値は宍喰で 9 日に 145㎜を観測した。1 時間降水量の最大値は宍喰で，9 日 07 時から 08 時の間に 23㎜を観測した。

強風により海と空の便に欠航が相次いだ。県南部では大雨により，国道の警戒雨量を超えたため，193 号で 9 日 08 時から 10 日 08 時まで通行止めとなり，国道 195 号は 9 日 08 時から 10 日 17 時まで通行止めとなった。



1990年（平成2年）7月4日～8月21日　高温・少雨

四国地方は平年より早く，5 月下旬の後半に梅雨入りした。梅雨入り後しばらくは梅雨前線が四国の南岸付近に停滞して梅雨らしい天気が続き，平年を上回る降水量があった。6 月中旬には梅雨

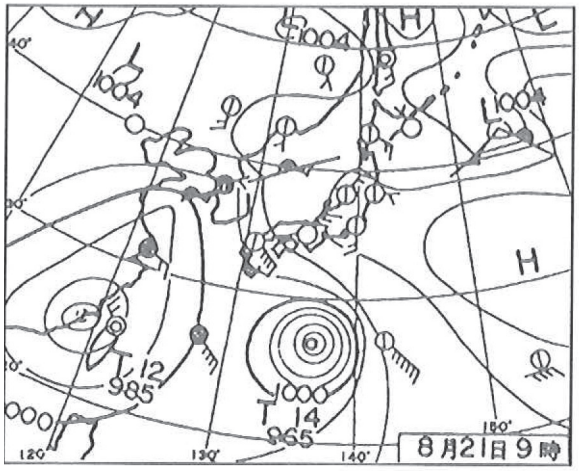
前線が四国沖へ南下して消滅し，新たな梅雨前線が日本海で形成された。しかし，四国付近まで南下することは少なく，四国地方は太平洋高気圧におおわれて梅雨明けを思わせる真夏のような晴天が多かった。梅雨明けは平年並みであったが，梅雨期間中の少雨が真夏の干ばつ災害を引き起こした。また，雨が少ない上に記録的な高温になったため，暑熱による被害も発生した。

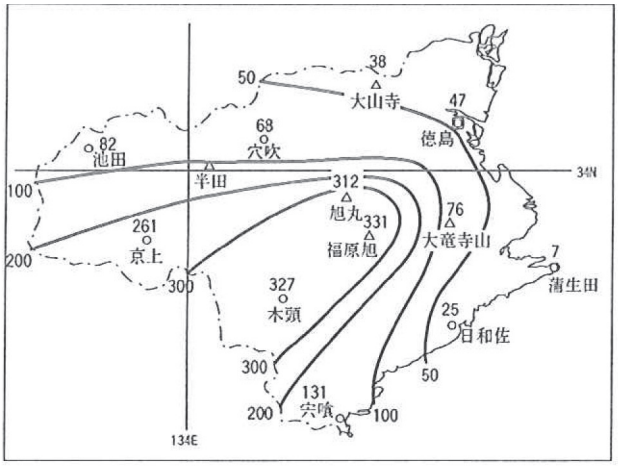
徳島の6月と7月の梅雨期間中の降水量は240.0㎜で平年比60％であった。7月は1日～3日に10㎜を超える雨が降ったほかは，12日に6㎜降った程度で雨らしい雨はなった。7月の合計雨量は51.0㎜で平年比26％と極端に少なかった。梅雨明け後は太平洋高気圧におおわれて安定した夏型の天気になり，日照時間は平均比133％であった。

干ばつは8月22日の台風第14号による降雨まで続いた。徳島の7月の平均気温は平年より1.4℃高い27.5℃で，8月の月平均気温は平年より1.5℃高い28.7℃であった。また，徳島の7月の最高気温の月平均値は平年より1.9℃高い31.6℃で，8月は平年より2.1℃高い33.2℃であった。

少雨に加えての猛暑が農業被害を大きくし，サツマイモ280ha・ネギ20ha・柑橘類420haなど，農作物全般に大被害が発生した。また，暑熱による家畜被害は，ブロイラ―3万羽余りを主として乳牛50余頭・肉牛20余頭・豚20余頭などに熱射病が発生した。

1990年（平成2年）8月21日～22日　台風第14号



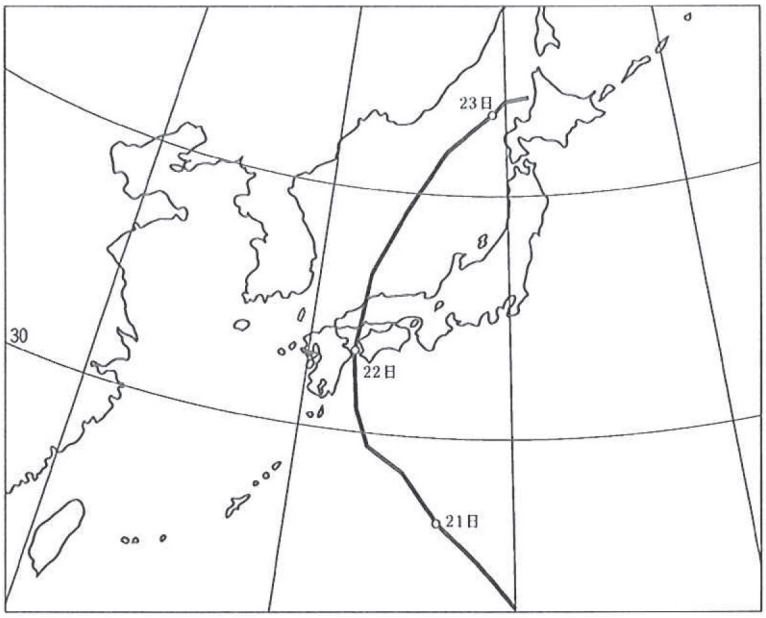


総雨量（㎜）

（徳島新聞社提供）

8月16日15時にサイパン島の東方洋上で発生した弱い熱帯低気圧は，17日15時に台風第14号となった。22日には四国の南海上から豊後水道を通り，13時頃広島市付近に上陸した。徳島県への最接近は22日12時過ぎであった。

最大風速は徳島市で南南東の風17.9m/s，最大瞬間風速は徳島市で22日11時05分に南南東の風34.5m/sを観測した。

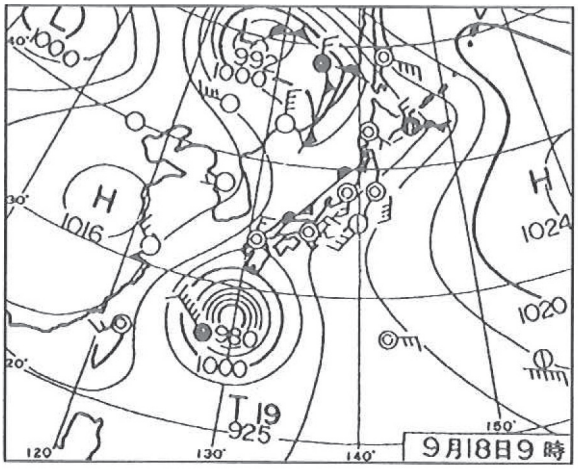


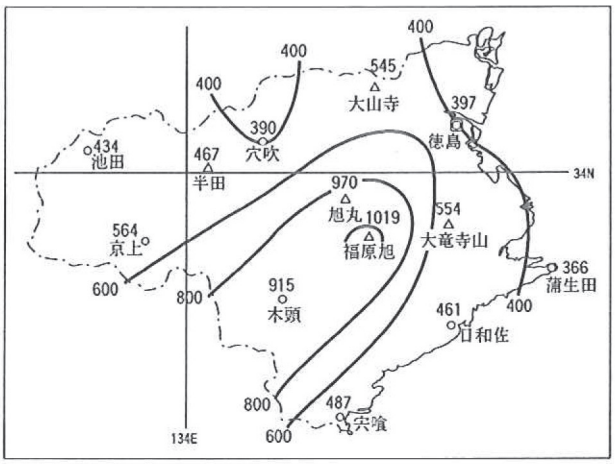
台風第 14 号　経路図

総降水量の最大値は福原旭で，21 日 17 時から 22 日 23 時までの間に 331㎜を観測，日降水量の最大値は福原旭で 22 日に 289㎜を観測した。1 時間降水量の最大値は木頭で，20 日 03 時から 04 時の間に 45㎜を観測した。

被害の大部分 . は農作物が占めており，被害額は 12 億円余り。被害発生地域は県下全域に及んだ。また，交通機関に欠航や運休が相次ぎ，定期路線バス約 60 便，船舶は約 90 便，航空は 29 便が欠航した。また，道路損壊 127 箇所・橋梁損壊 4 箇所・河川の護岸損壊 93 箇所・防波堤損壊 2 箇所等の被害が発生した。

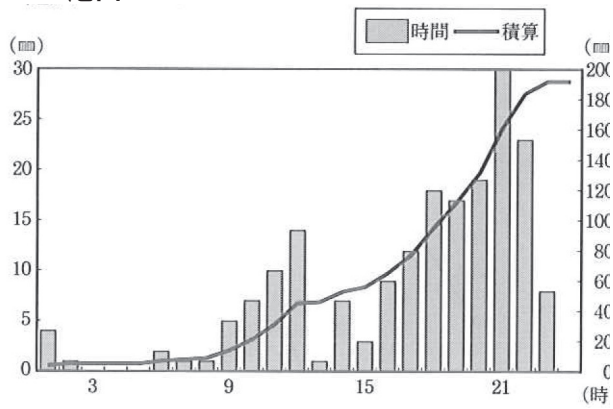
1990 年（平成 2 年）9 月 16 日～ 20 日　台風第 19 号



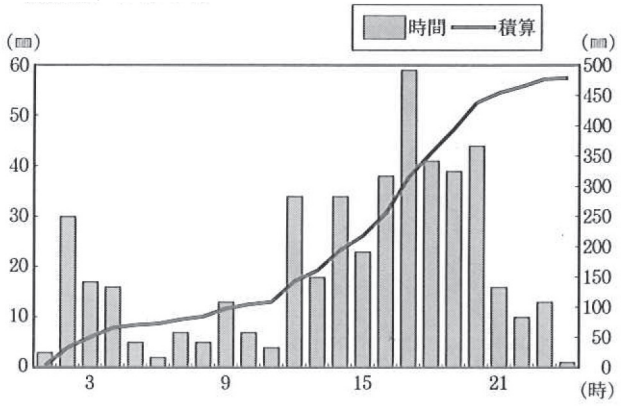


総雨量（㎜）

池田（9 月 19 日）

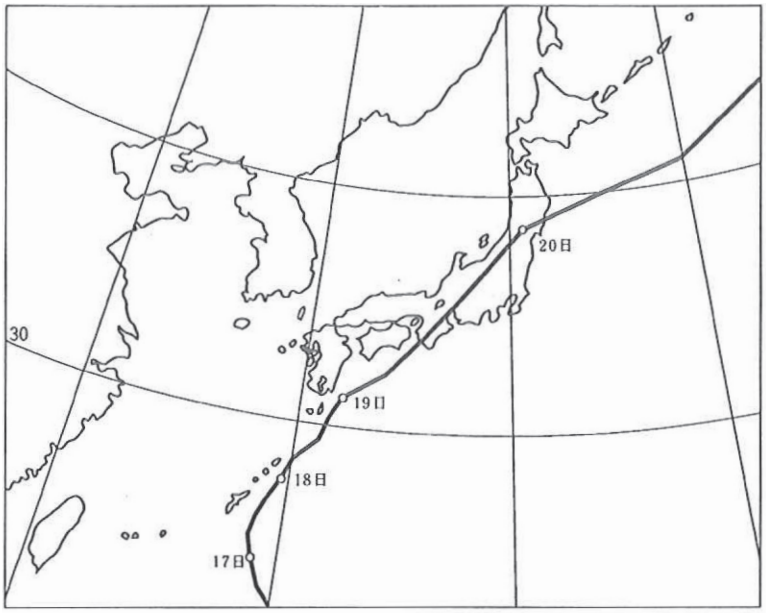


福原旭（9 月 19 日）



9 月 12 日 09 時にマリアナ諸島近海で発生した弱い熱帯低気圧は，13 日 09 時にグアム島付近で台風第 19 号となった。17 日には沖縄本島の東海上，18 日には奄美大島の東海上を通過して，19 日 20 時 00 分過ぎに和歌山県白浜町の南に上陸，徳島県への最接近は 19 日 20 時前であった。

最大風速は徳島で 19 日 20 時 00 分に北の風 14.2m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 19 日 19 時

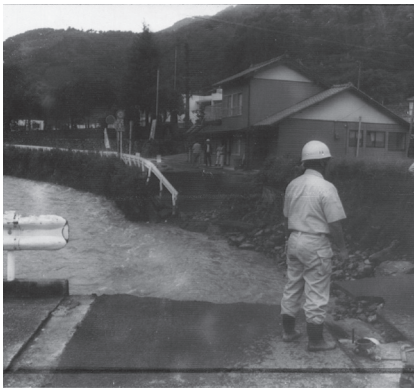


台風第 19 号　経路図

10 分に北の風 31.6m/s を観測した。

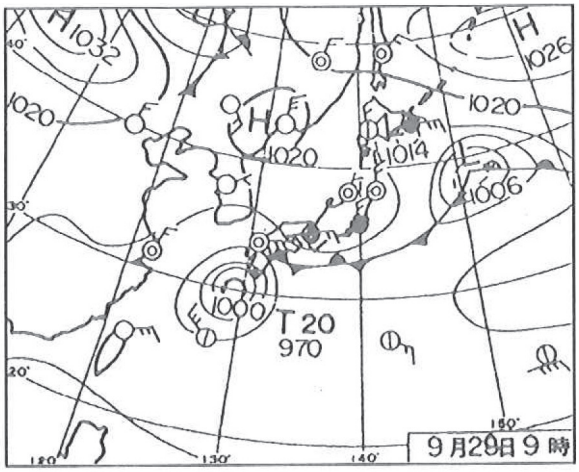
総降水量の最大値は福原旭で，16 日 20 時から 20 日 02 時までの間に 960㎜を観測，日降水量の最大値は福原旭で 19 日に 479㎜を観測した。1 時間降水量の最大値は福原旭で，19 日 16 時から 17 時の間に 59㎜を観測した。

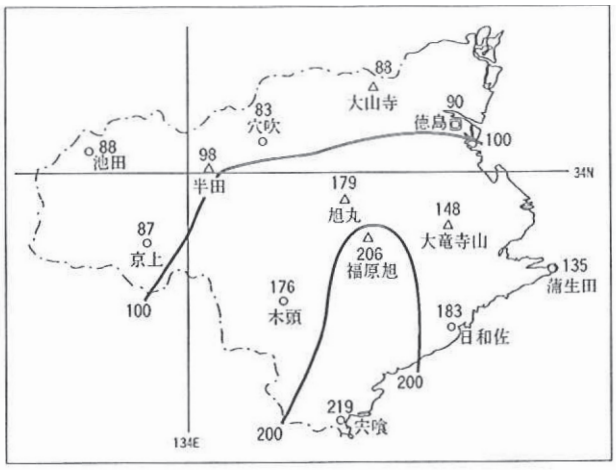
台風と秋雨前線の影響で記録的な大雨となり，三好郡池田町では町内の見回りに出た警察官が車ごと川に転落死亡した。19 日夜半ごろ，勝浦町で住宅の裏山が崩れて，住家 1 棟が全壊した。また，床上浸水 60 棟･床下浸水 852 棟･道路損壊 769 棟・防湖堤損壊 2 箇所・農業被害面積 1,420ha などあった。



（徳島新聞社提供）

1990 年（平成 2 年）9 月 28 日～ 30 日　台風第 20 号



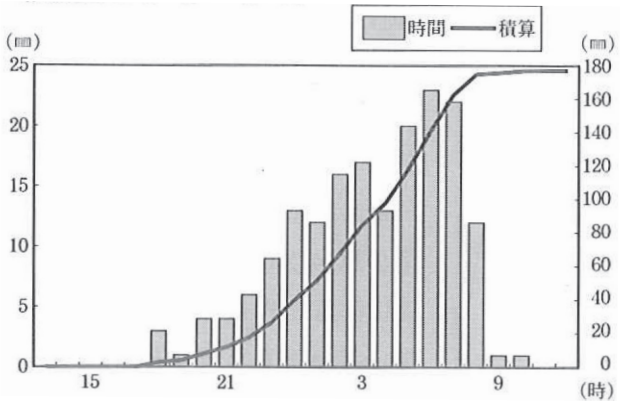


総雨量（㎜）

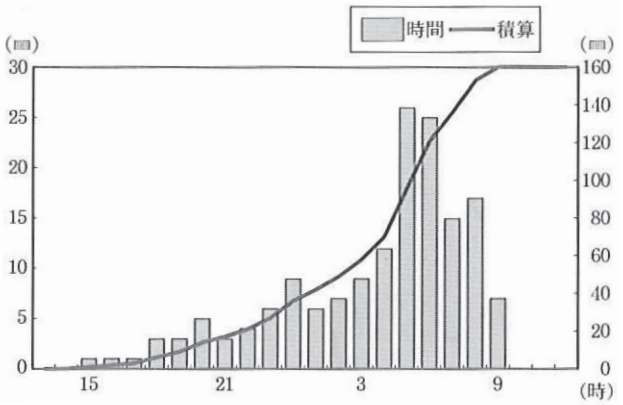
9 月 22 日 09 時にフィリピン東方洋上で発生した弱い熱帯低気圧は，24 日 09 時に台風第 20 号となった。29 日 17 時頃に宮崎県都井岬付近を通過し，30 日 09 時 30 分頃に和歌山県白浜町付近に上陸した。徳島県への最接近は 30 日 08 時過ぎであった。

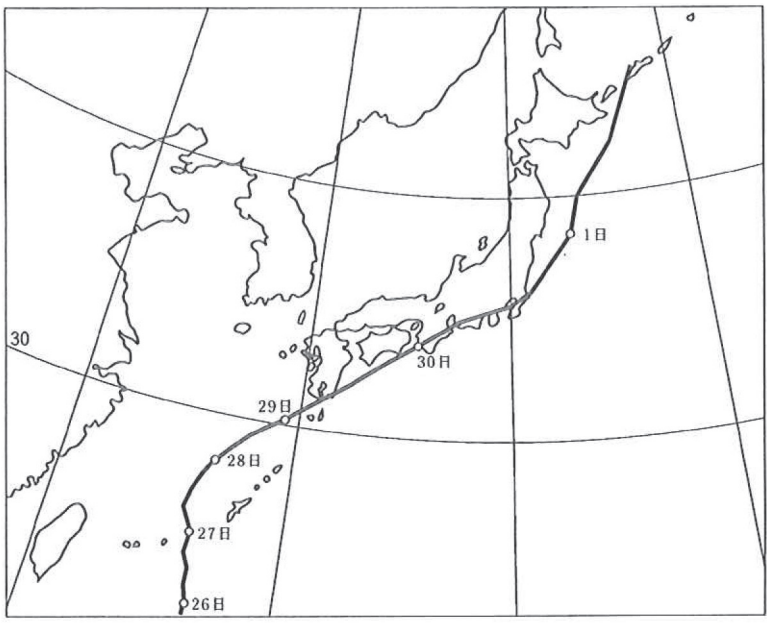
最大風速は蒲生田で 30 日 08 時に北東の風 15m/s，最大瞬間風速は徳島で 30 日 07 時 47 分に東

福原旭（9 月 29 日～ 9 月 30 日）



日和佐（9 月 29 日～ 9 月 30 日）





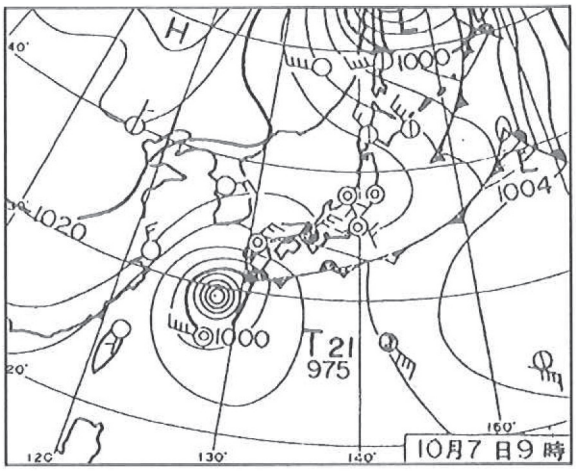
台風第 20 号　経路図

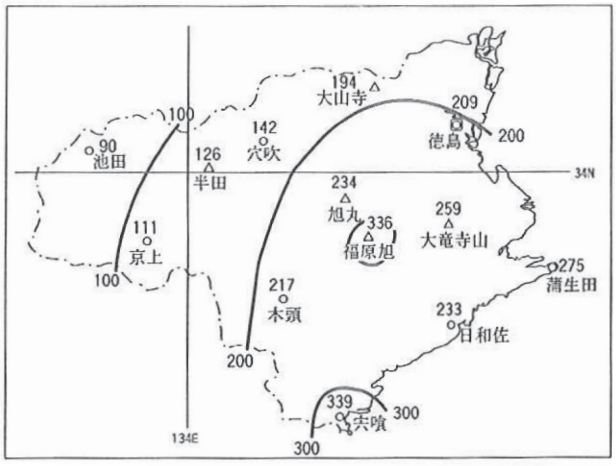
北東の風 21.6m/s を観測した。

総降水量の最大値は宍喰で 28 日 06 時から 30 日 09 時までの間に 219㎜，日降水量の最大値は福原旭で 30 日に 137㎜を観測した。

県下では家屋浸水や崖崩れなどの被害はなかったが，バス 9 便・鉄道 11 便が運休，船舶 33 便・航空 5 便が欠航するなどの被害があった。

1990 年（平成 2 年）10 月 4 日～ 8 日　台風第 21 号

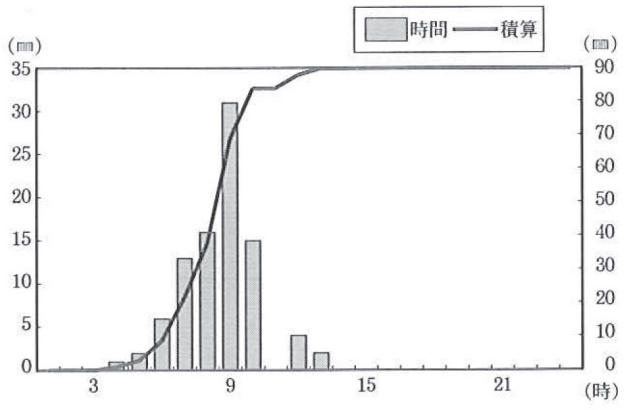




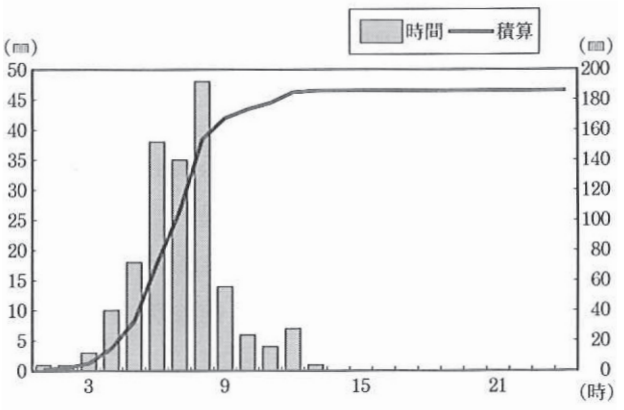
総雨量（㎜）

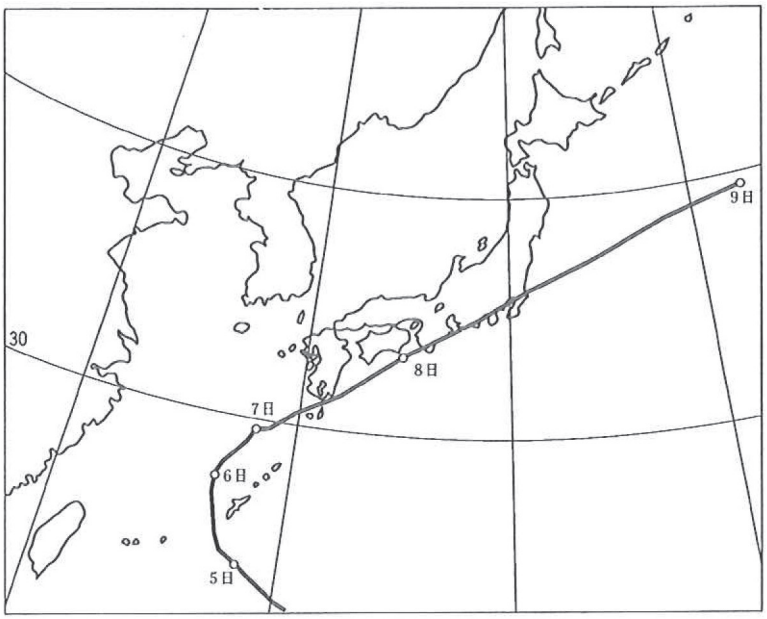
9 月 30 日 15 時にサイパン島の東方洋上で発生した弱い熱帯低気圧は，10 月 1 日 21 時に台風第 21 号となった。5 日には沖縄本島の南海上に達し，進路を北から北東に変えながら奄美大島の西方海上から大隅海峡を通過，8 日 10 時半ごろ和歌山県田辺市付近に上陸した。徳島県には 8 日 08 時過ぎに最接近した。

徳島（10 月 4 日）



福原旭（10 月 4 日）





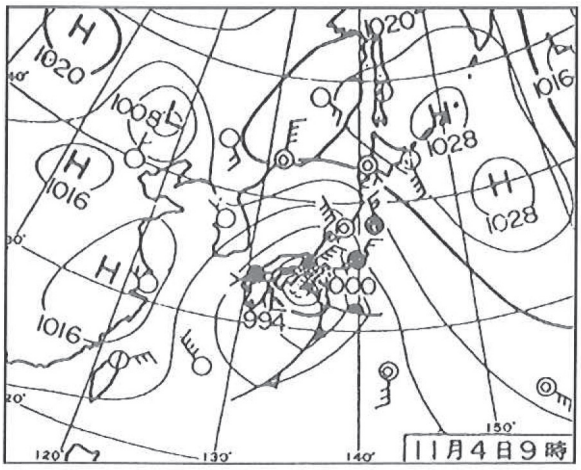
台風第 21 号　経路図

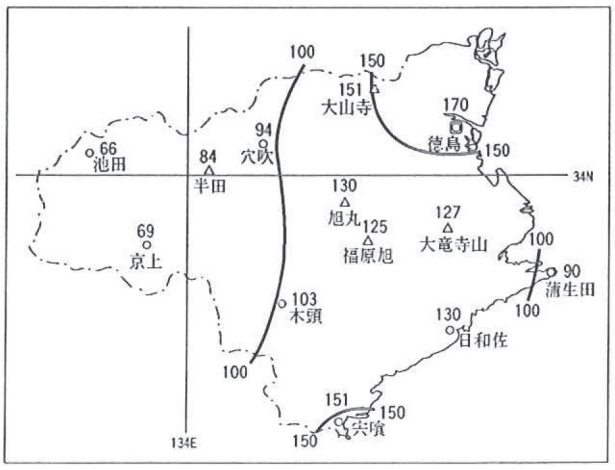
総降水量の最大値は宍喰で 4 日 02 時から 8 日 10 時までの間に 339㎜，日降水量の最大値は宍喰で 4 日に 232㎜を観測した。1 時間降水量の最大値は阿南市の蒲生田で，8 日 09 時から 10 時の間に 79㎜を観測した。

最大風速は日和佐で 8 日 11 時に北西の風 16m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 8 日 09 時 29 分に北の風 19.3m/s を観測した。

鳴門市北灘町の国道 11 号線で重さ約 1.5 トンの落石が観光バスを直撃，乗客・乗員合計 3 名が死亡，11 名が負傷した。また，大雨により床上浸水 121 棟・床下浸水 687 棟，交通機関ではバス 71 便・鉄道 7 便が運休し，船舶 8 便・航空 12 便が欠航した。

1990 年（平成 2 年）11 月 4 日　大雨・強風





総雨量（㎜）

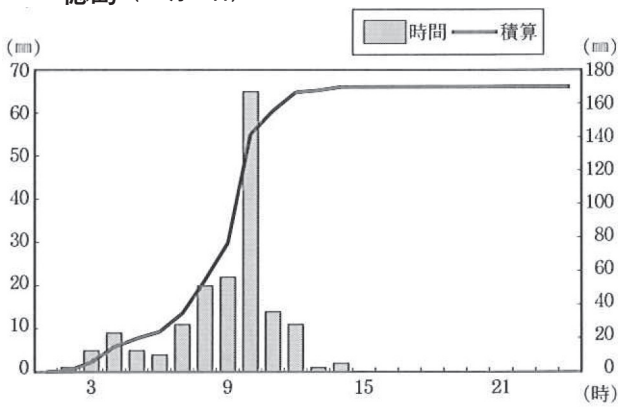
2 日午後に華南で発生した低気圧が発達しながら東北東進し，四国南岸を通過した。4 日 09 時には紀伊水道に入り，中心気圧は 990mb にまで発達した。この低気圧の影響で，徳島県には暖湿気が流入し大雨が降った。

総降水量の最大値は宍喰で 01 時から 11 時までの間に 151㎜，最大 1 時間降水量は宍喰で 08 時から 09 時までの間に 55㎜を観測した。

最大風速は徳島で 11 時 40 分に西北西の風 11.4m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 11 時 45 分に西北西の風 22.3m/s を観測した。

大雨と短時間での強風のため，床上浸水 34 棟，床下浸水 709 棟が発生した他，道路の全面通行止め 14 箇所と片側通行 1 箇所が発生し，バス 99 便と鉄道 12 便が運休した。また，強風と突風のため，阿南市富岡港沖合 3㎞で遊業船が転覆し，漂流中のところを救助された。

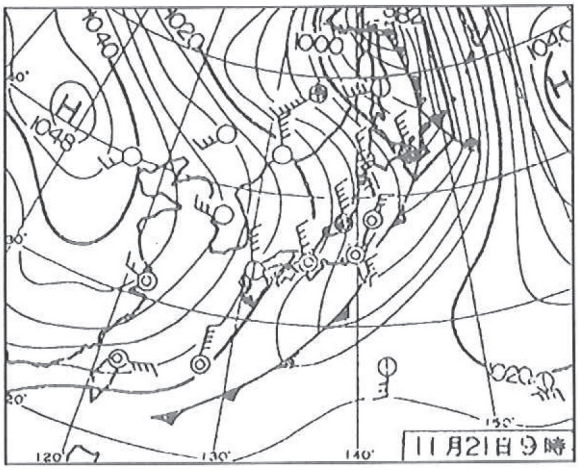
徳島（11 月 4 日）



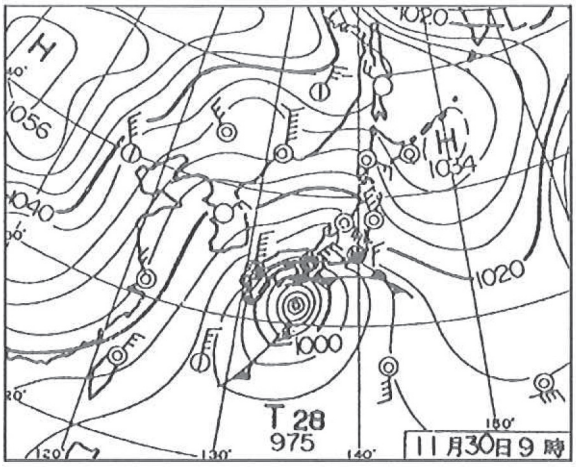
1990 年（平成 2 年）11 月 21 日　強風

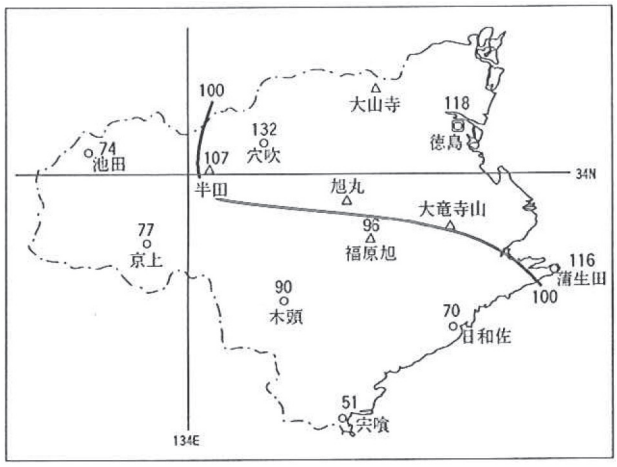
大陸から優勢な高気圧が張り出して，強い冬型の気圧配置になった。このため，北西の強風が吹き，最大風速は徳島で 06 時 30 分に北西の風 10.1m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 06 時 27 分に北西の風 19.3m/s を観測した。

この強風と突風のため，07 時 30 分頃，一人乗り小型漁船が阿南市伊島漁港を出た直後に波を受けて転覆し水死した。



1990 年（平成 2 年）11 月 29 日～ 30 日　台風第 28 号





総雨量（㎜）

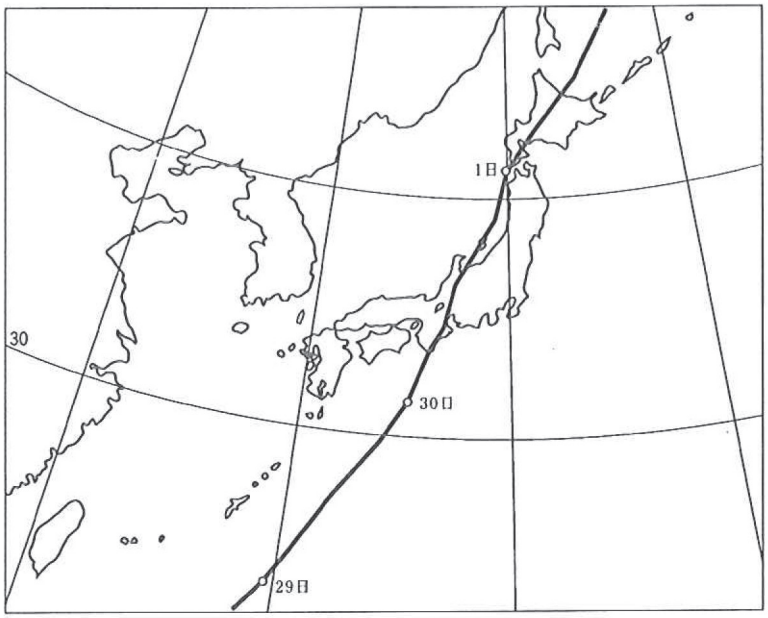
11 月 20 日グアム島の南方洋上で発生した弱い熱帯低気圧は，22 日 15 時にグアム島の南南西約 390㎞の洋上で台風第 28 号となった。29 日には沖縄の南東海上に達し，30 日 14 時ごろ和歌山県白浜町の南に上陸した。徳島県には 30 日 14 時前に最接近した。11 月末になっての台風の接近上陸は初めてで，一日遅ければ師走であり台風上陸の最も遅い記録となった。

総降水量の最大値は穴吹で，29 日 15 時から 30 日 17 時までの間に 132㎜，日降水量の最大値は穴吹で 30 日に 117㎜を観測した。

最大風速は日和佐で 30 日 17 時に北西の風 15m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 30 日 13 時 07

分に北北西の風 19.7m/s を観測した。

県下では大きな被害は免れたが，ビニールハウスの損壊や道路損壊 8 箇所，山崖崩れ 2 箇所などが発生した。また，交通機関では道路の冠水によりバス 12 便が運休し，強風と波浪により航空 27 便と船舶 26 便が欠航した。

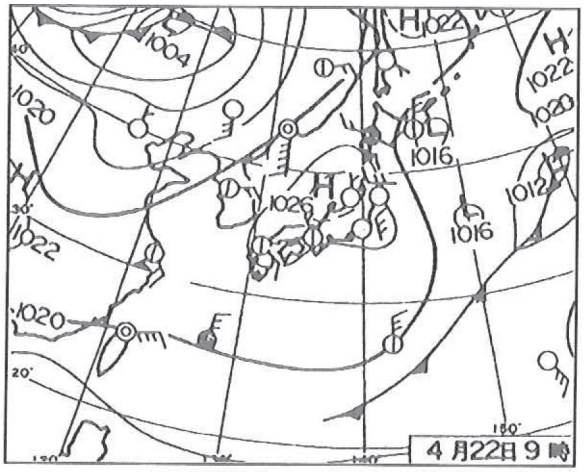


台風第 28 号　経路図

1991年

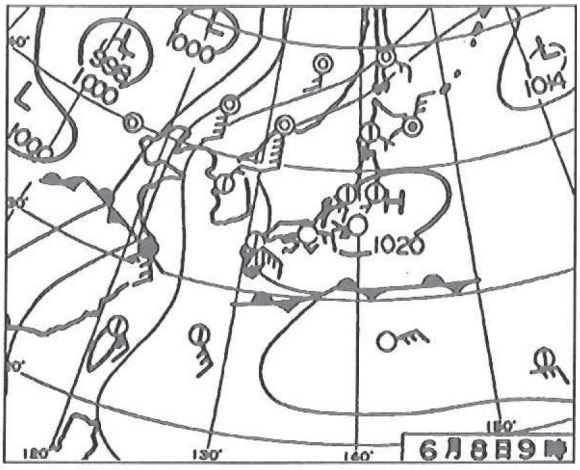
［平成３年］

1991 年（平成 3 年）4 月 21 日～ 23 日　山火事



移動性高気圧におおわれて晴天が続き，22 日 15 時 11 分に徳島で期間中の最小湿度 23％を観測した。空気が乾燥した状態の中，美馬郡脇町で山火事が発生した。現場は標高 200 ～ 600m で水の便が悪く，消火活動に難儀して 3 日間にわたって延焼，檜と雑木林 30ha を焼いて 23 日 10 時 40 分に鎮火した。

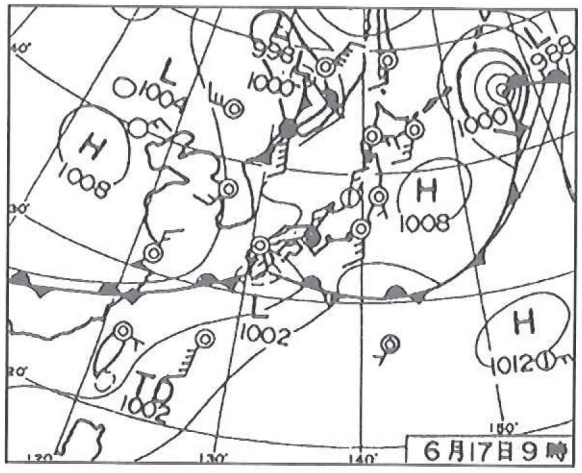
1991 年（平成 3 年）6 月 8 日～ 10 日　崖崩れ



太平洋高気圧の縁辺を廻って流入する積乱雲群により，県南部を中心に強い雨が降った。

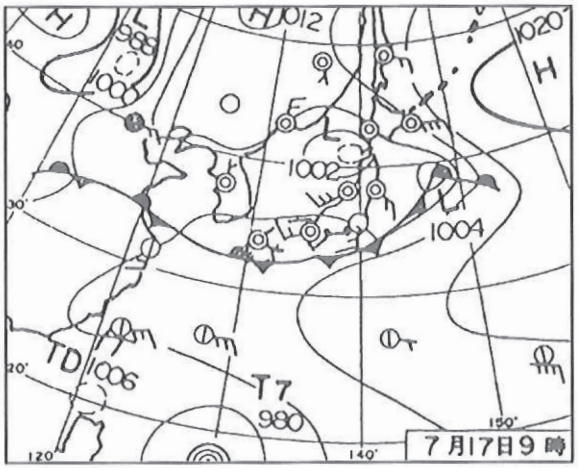
総降水量の最大値は宍喰で，8 日 15 時から 10 日 14 時までの間に 368㎜を観測した。日降水量の最大は宍喰で 9 日 321㎜を観測，1 時間降水量の最大値は宍喰で 9 日 06 時から 07 時の間に 89㎜を観測した。この大雨により，9 日 09 時ころ那賀郡上那賀町の国道 195 号の山肌が高さ 200m，幅 30 m にわたって崩壊し，10 日まで通行止めとなった。また，9 日 16 時ころには海部郡日和佐町の県道 147 号線沿いで山腹が崩壊し，片側通行となった。

1991 年（平成 3 年）6 月 17 日　落雷



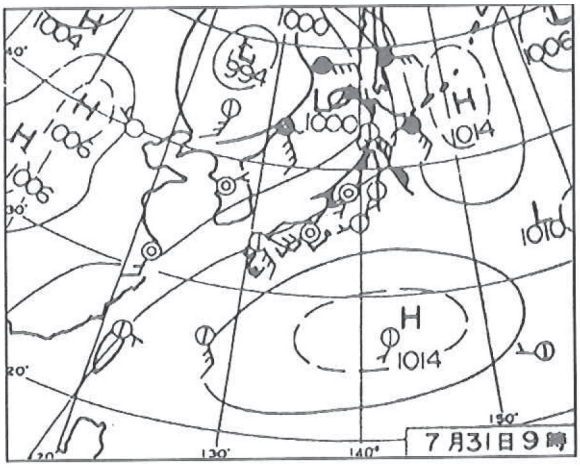
梅雨前線の南下で上空に寒気が流入し，日中の気温の上昇で大気不安定になった。日最高気温の最高値は穴吹で，13 時に 33.6℃を観測した。昼過ぎから県北部を中心に積乱雲が発達し，雷の発生や落雷があった。15 時 50 分ころ，徳島市と名西郡石井町で落雷のため合計 2,900 戸が停電した。また，18 時 50 分ころには，徳島市と板野郡で落雷のため合計 22,800 戸が停電した。

1991 年（平成 3 年）7 月 17 日　落雷



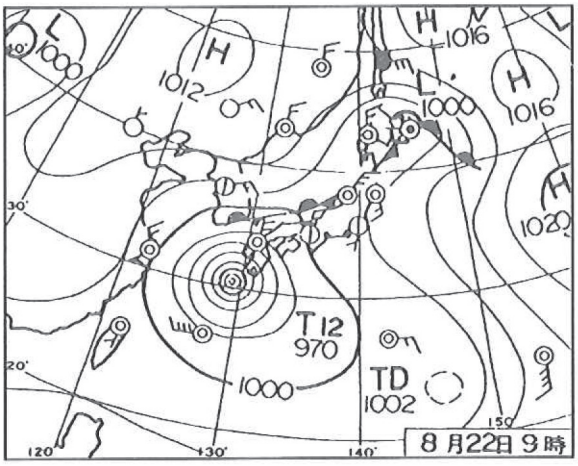
梅雨明けを思わせる晴天で気温が上がり，最高気温は穴吹で 14 時に 33.0℃を観測した。強い日差しのため地上付近の気温が上昇し，大気不安定となって，県北部を中心に雷が発生した。16 時 50 分ころ JR 学駅で雷雨により信号機が故障，急行 1 便と普通列車 4 本に 17 分から 60 分の遅れが出た。17 時過ぎには，徳島市と名西郡・板野郡・麻植郡で落雷のため合計 4,670 戸が停電した。

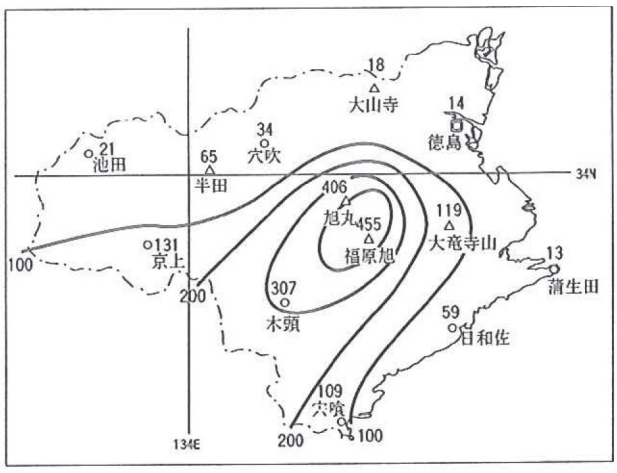
1991 年（平成 3 年）7 月 31 日　落雷



太平洋高気圧におおわれて暑い晴天となり，南海上からは湿った空気が流入して大気は不安定となった。また，日中の強い日射により地上付近の気温が上昇して，最高気温は徳島で 14 時 38 分に 34.8℃を観測した。このため積乱雲が発達して雷が発生し，16 時 30 分ころから約 30 分間，鳴門市で落雷が相次いだ。この落雷により鳴門市で 2,100 戸あまりが停電した。鳴門市の JR 池谷駅では，落雷のために構内の信号機が故障し，特急 1 便と普通列車 4 便に遅れが出た。

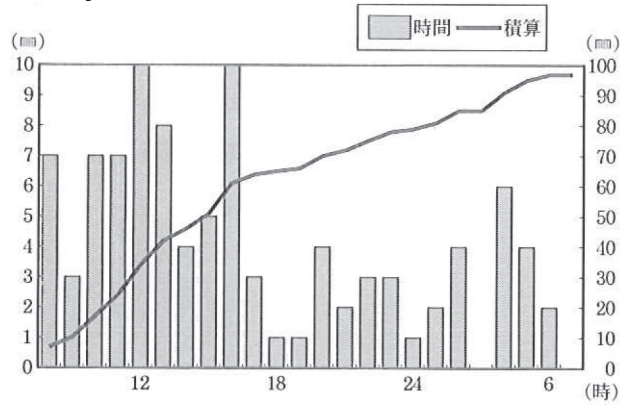
1991 年（平成 3 年）8 月 20 日～ 23 日　台風第 12 号



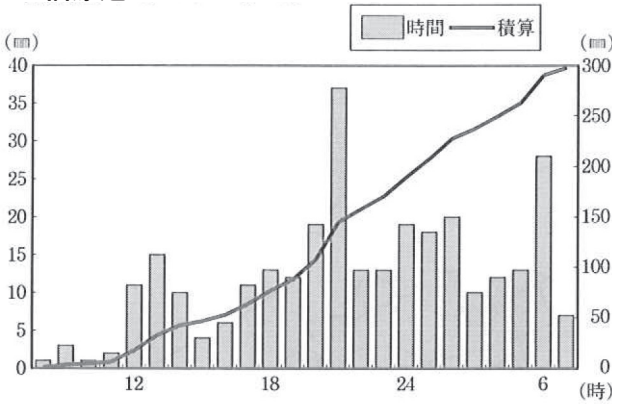


総雨量（㎜）

京上（8 月 22 日～ 8 月 23 日）

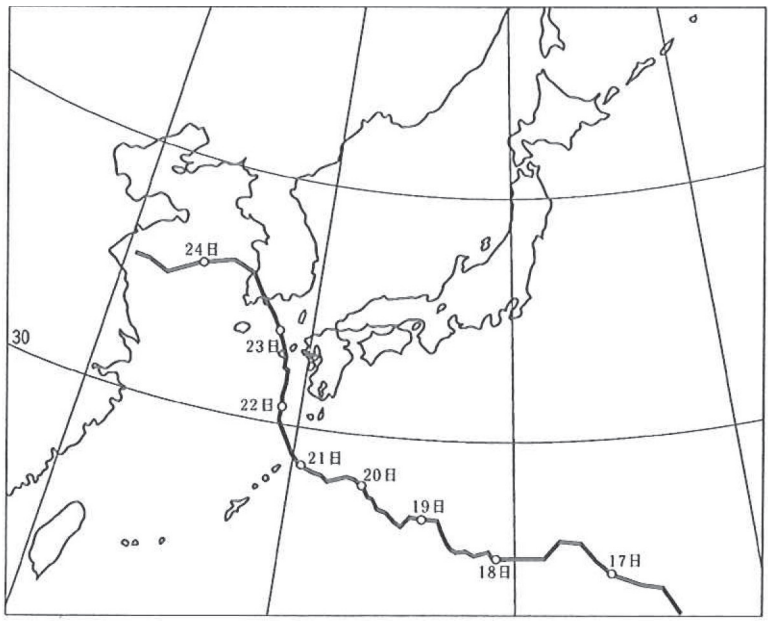


福原旭（8 月 22 日～ 8 月 23 日）



8 月 15 日 09 時に南鳥島の南西海上で発生した弱い熱帯低気圧は，16 日 09 時に父島の南東洋上で台風第 12 号となった。その後，西北西進して奄美大島近海を経て北よりに進路を変更し，21 日から 22 日にかけて九州の南海上で最も発達して大型で並の強さとなった。23 日 03 時ころには福江市付近を通過し，23 日 15 時ころ朝鮮半島南部に上陸した。その後は黄海に進み，24 日 09 時に弱い熱帯低気圧になった。

徳島県では 22 日 23 日にかけて山間部を中心に大雨が降ったが，強風による被害はほとんどなかった。総降水量の最大値は上勝町の福原旭で 20 日 00 時から 23 日 23 時までの間に 455㎜を観測，

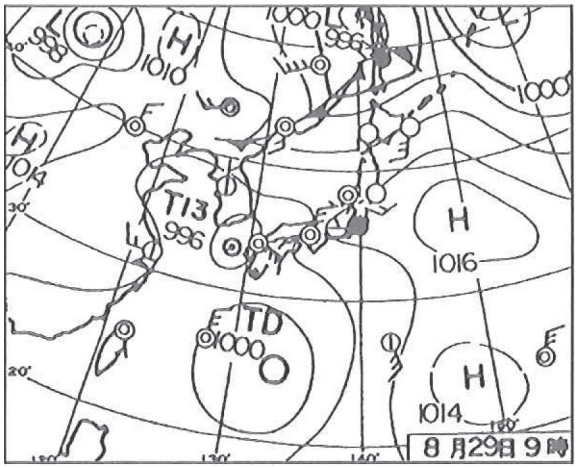


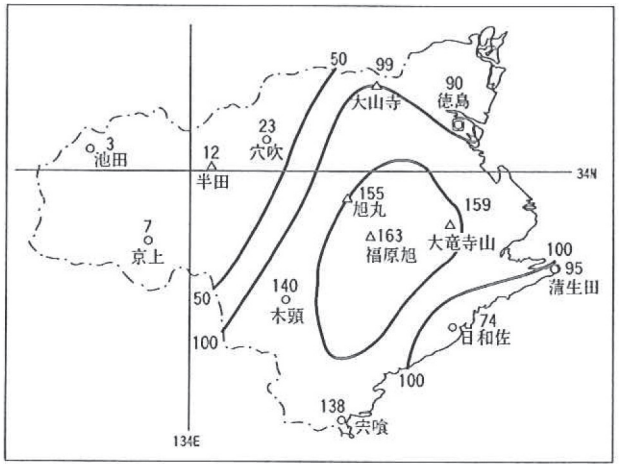
台風第 12 号　経路図

日降水量の最大値は福原旭で 22 日に 198㎜を観測した。1 時間降水量の最大は福原旭で 22 日 20 時から 21 時までの間に 37㎜を観測した。

大雨により，22 日に三好郡西祖谷山村の県道山城－東祖谷山線で，路肩損壊のため通行止め。また三好郡山城町の県道上名－西宇線で山腹が崩壊したため通行止め。三好郡井川町の県道大利－辻線で落石の恐れが生じて通行止めとなった。

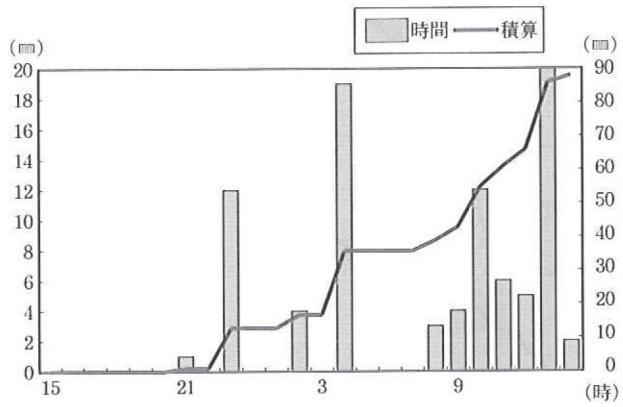
1991 年（平成 3 年）8 月 28 日～ 30 日　台風第 13 号



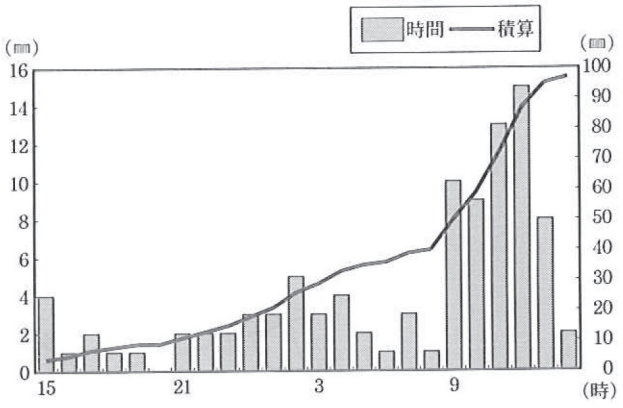


総雨量（㎜）

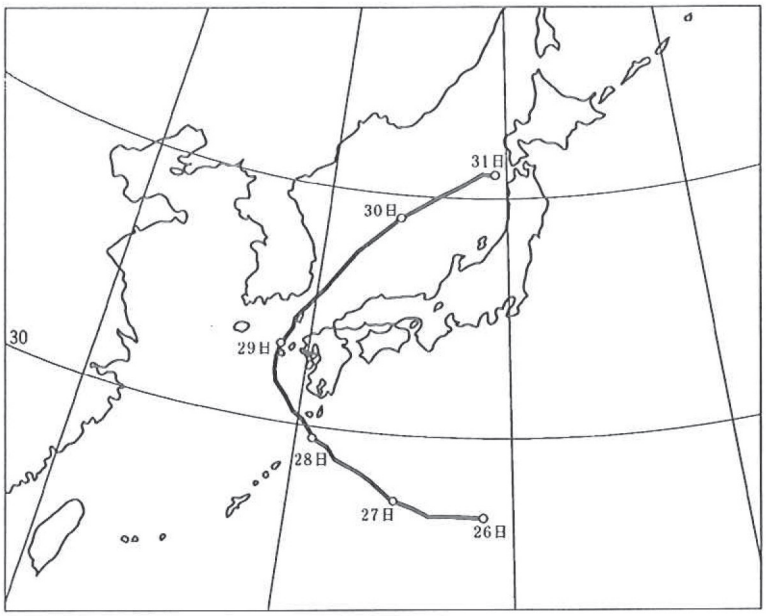
宍喰（8 月 29 日～ 8 月 30 日）



木頭（8 月 29 日～ 8 月 30 日）



26 日 09 時に日本の南海上で発生した弱い熱帯低気圧は，28 日 06 時に屋久島の南海上で台風 13 号となった。ごく弱い台風から勢力を強めることなく東シナ海で進路を北に変えて進み，五島列島付近を通過した後，29 日 12 時に対馬付近で弱い熱帯低気圧となった。その後北東進して 30 日 15 時に日本海中部で温帯低気圧となった。徳島県では 30 日に大雨と短時間強雨に見舞われたが，強



台風第 13 号　経路図

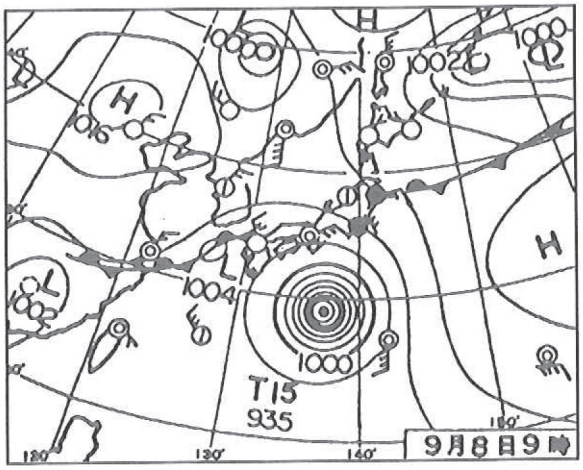
風による被害はほとんどなかった。

総降水量の最大値は上勝町の福原旭で 28 日 12 時から 30 日 20 時までの間に 163㎜を観測，日降水量の最大値は阿南市の太龍寺山で 30 日 124㎜を観測した。1 時間降水量の最大は阿南市の蒲生田で 30 日 11 時から 12 時までの間に 38㎜を観測した。

30 日に海部郡海南町の国道 193 号で山腹が崩壊し全面通行止めとなった。また那賀郡上那賀町の国道 195 号でも山腹崩壊により一時通行止めとなった。

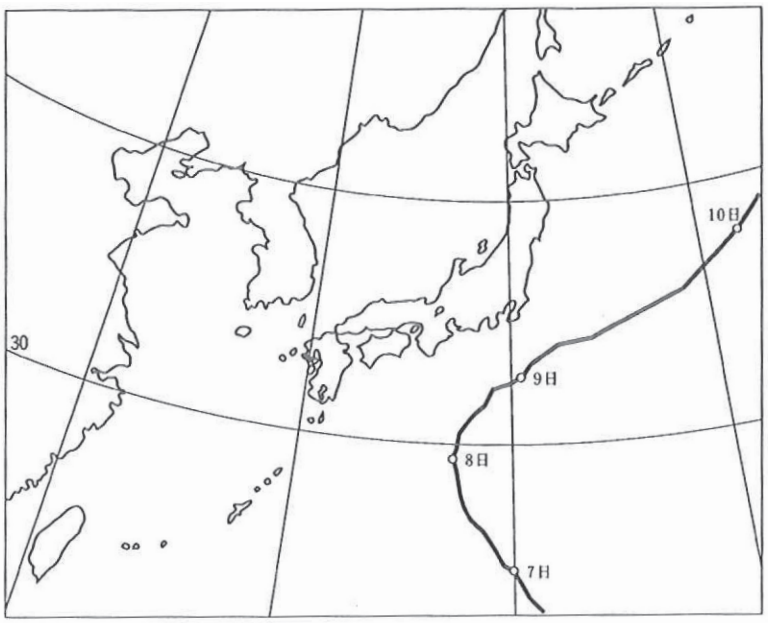
1991 年（平成 3 年）9 月 8 日～9 日　台風第 15 号

2 日 15 時にトラック島の東で発生した弱い熱帯低気圧は，3 日 03 時に台風第 15 号となり，その後発達しながら北西に進んで，7 日には大型で非常に強い勢力となった。8 日には進路を北東に変え，9 日には徐々に勢力を弱めながら八丈島の南海上に達した。その後速度を速めながら遠ざかり，11 日 3 時に日本の遙か東海上で温帯低気圧になった。



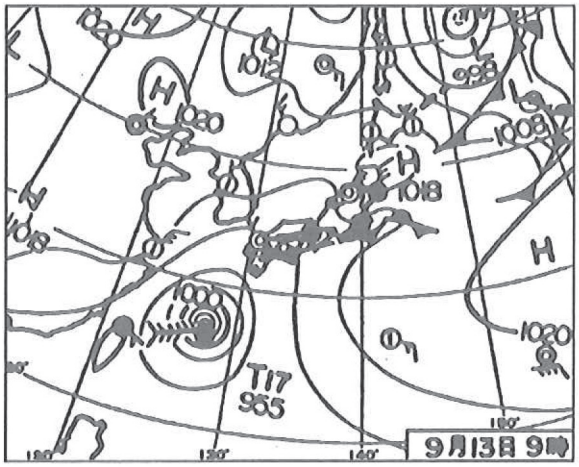
最大風速は徳島で 9 日 14 時 00 分に北北西の風 7.4m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 9 日 14 時 11 分に北北西の風 13.1m/s を観測した。

徳島県では雨による被害はほとんどなかったが，強風のため今切川河口の沖合で釣り船が転覆し乗っていた 1 名が死亡した。また，強風のためフェリー 6 便と航空 2 便が欠航した。



台風第 15 号　経路図

1991 年（平成 3 年）9 月 13 日～ 14 日　台風第 17 号



10 日 09 時にマリアナ諸島近海で発生した弱い熱帯低気圧は，11 日 15 時に台風第 17 号となった。13 日には中型で強い勢力に発達し，沖縄本島を通って向きを北に変え，14 日 05 時半ころ同じ勢力で長崎市付近に上陸した。その後，急速に勢力を弱めながら北東から北北東に進み，山陰，北陸地方を経て 14 日 21 時に東北地方で温帯低気圧になった。

徳島県では 13 日から 14 日にかけて風雨が強く波が高くなった。

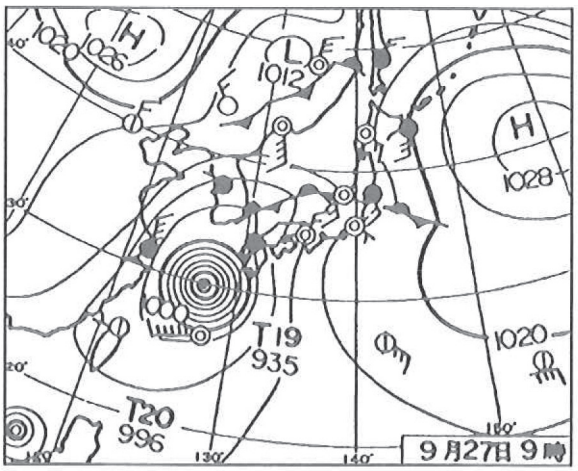
総降水量の最大値は宍喰で 13 日 00 時から 14 日 15 時までの間に 273㎜を観測，日降水量の最大値は宍喰で 13 日に 173㎜を観測した。1 時間降水量の最大値は阿南市の太竜寺山で 13 日 11 時から 12 時までの間に 48㎜を観測した。

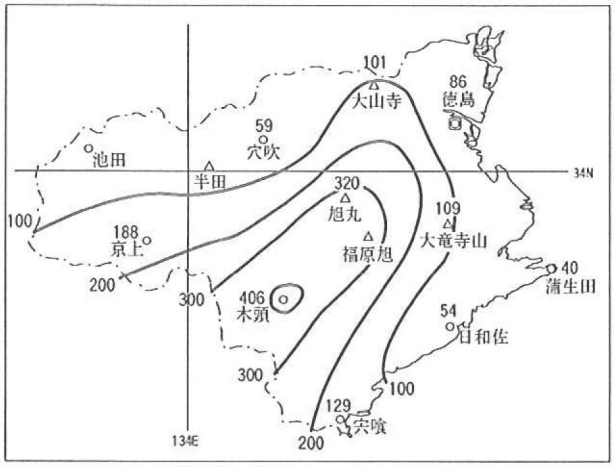
最大風速は徳島で 14 日 09 時 50 分に南南東の風 10.6m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 14 日 08 時 53 分に南南東の風 25.8m/s を観測した。

大雨と短時間強雨のため，由岐町の県道赤松－由岐線で路肩が損壊し全面通行止め。海南町の国道 55 号で落石の恐れが生じ，全面通行止めとなった。JR 牟岐線では短時間強雨のため普通列車 2 本が部分運休した。

強雨と波浪により航空 24 便が欠航し，フェリー 38 便が欠航した。

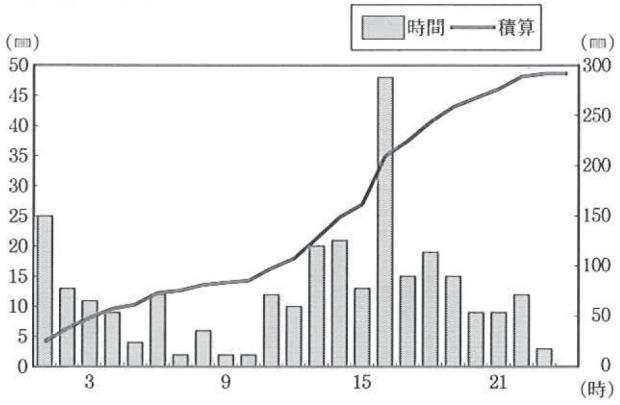
1991 年（平成 3 年）9 月 26 日～ 28 日　台風第 19 号



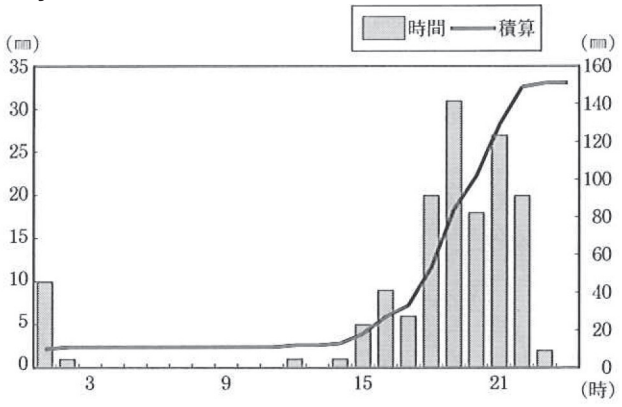


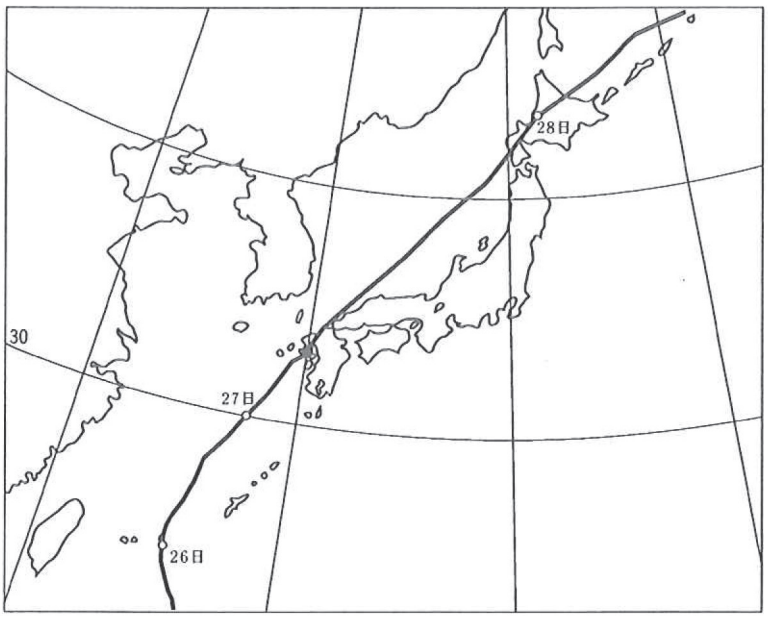
総雨量（㎜）

木頭（9 月 27 日）



京上（9 月 27 日）





台風第 19 号　経路図

13 日 09 時にマーシャル諸島の東で発生した弱い熱帯低気圧は 16 日 09 時にマーシャル諸島の西で台風第 19 号となった。発達しながら 22 日にフィリピンの東で進路を北西に変え，大型で非常に強い勢力となった。26 日に宮古島の東を北上し，進路を北東に変えて 27 日 16 時過ぎに大型で非常に強い勢力を保ちながら佐世保の南に上陸した。上陸後は速度を速めながら日本海を北東に進み，28 日 08 時前に大型で強い勢力で北海道の渡島半島に再上陸し 28 日 15 時に千島近海で温帯低気圧に変わった。

徳島県への最接近は 27 日 19 時 30 分ころで，27 日の夕方から暴風圏に入り夜半にかけてピークを迎えた。最大風速は徳島で 27 日 18 時 50 分に南南東の風 21.2m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 27 日 19 時 25 分に南南東の風 39.7m/s を観測した。

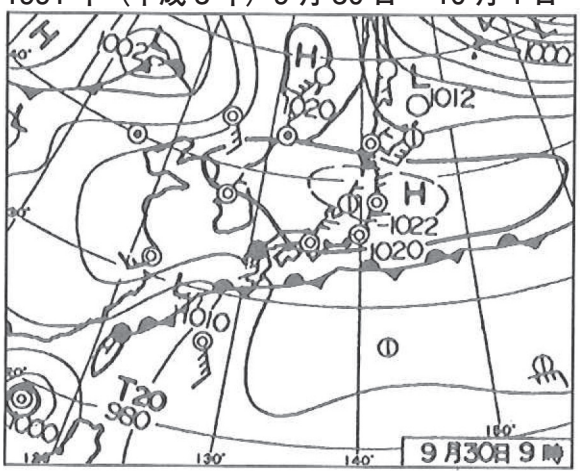
雨は県中部を中心に降り，26 日から 27 日にかけて大雨が降った。総降水量の最大値は木頭で 26 日 02 時から 27 日 23 時までの間に 406㎜を観測，日降水量の最大値は木頭で 27 日に 292㎜を観測した。1 時間最大値は上勝町の福原旭 27 日 19 時から 20 時までに 54㎜を観測した。

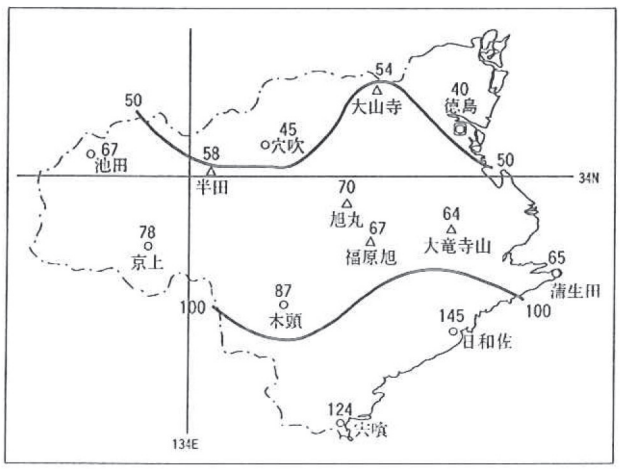
27 日に三好郡池田町の県道で通行人 1 人とバイクで走行中の 1 人に，強雨で飛ばされてきた屋根の破片があたり負傷した。27 日三好町で突風により家屋一棟が全壊，県下全域で半壊や破損など 98 棟が家屋被害を受けた。また，強風のため 35,841 世帯が停電した。

航空便は 27 日に 14 便，28 日に 2 便が欠航。海上では 27 日にフェリー 25 便が欠航 ,28 日に 15 便が欠航した。陸上交通では JR が 27 日に特急 13 本・普通列車 80 本，28 日には特急 8 本・普通列車 23 本が運休した。定期路線バスでは 27 日に 285 本 28 日に 19 本が運休した。

大雨による山崖崩れ 18 箇所，道路損壊が 8 箇所，県北部で床上浸水 2 戸，床下浸水 38 戸などの被害が発生した。農業関係では水稲の倒伏やビニールハウスの損壊などがあった。林業関係では風による倒木や折損があり，漁業関係では定置網の流出などの被害が発生した。特に林業関係の被害が大きく，県西部の東祖谷山村・西祖谷山村・池田町・山城町，県南部の木頭村・木沢村などで強風による杉や桧などの折損・倒木の大被害が発生した。

1991 年（平成 3 年）9 月 30 日～ 10 月 1 日　大雨

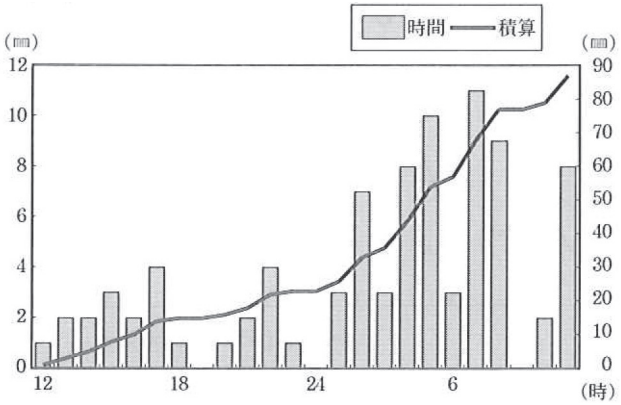




総雨量（㎜）

四国の南に停滞していた秋雨前線が次第に北上して活発になり，1日は前線上を低気圧が通って大雨が降った。総降水量の最大値は日和佐で30日13時から1日12時の間に145㎜を観測，日降水量の最大値は日和佐で1日に104㎜を観測した。1時間降水量の最大値は日和佐で，1日10時から11時の間に58㎜を観測した。この雨で那賀郡相生町の県道西納－大久保線で山腹が幅15m，高さ20mに渡って崩壊し全面通行止めとなった

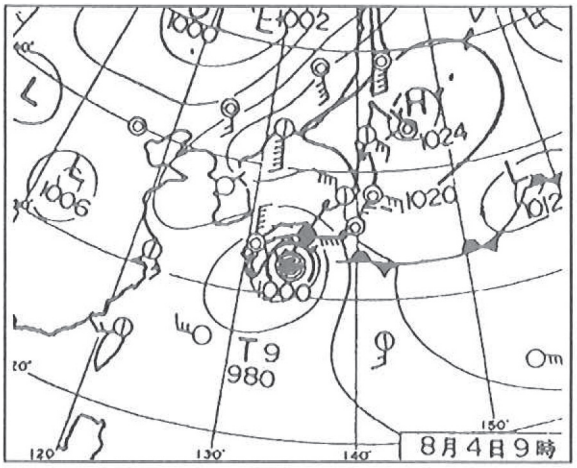
木頭（9月30日～10月1日）

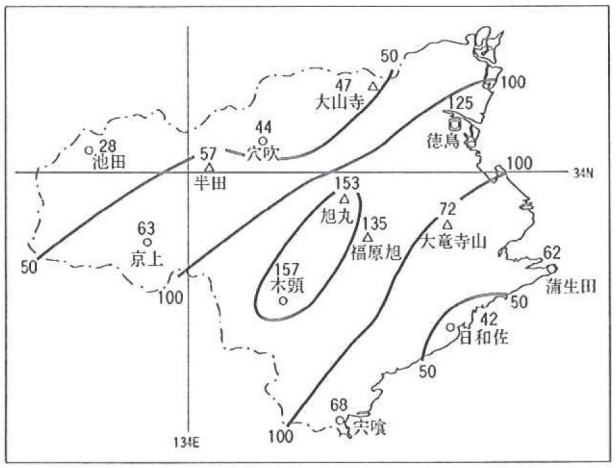


1992年

［平成 4 年］

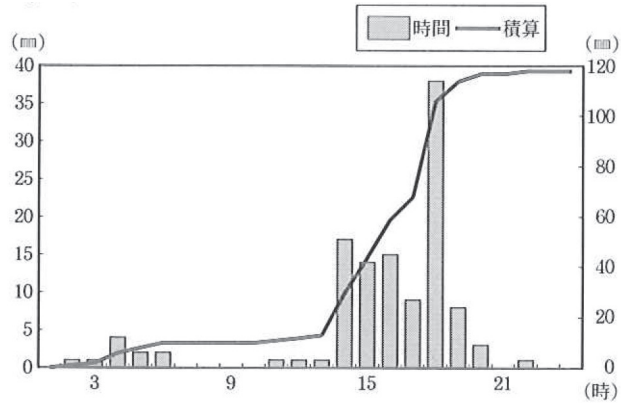
1992年（平成4年）8月3日～4日　台風第9号



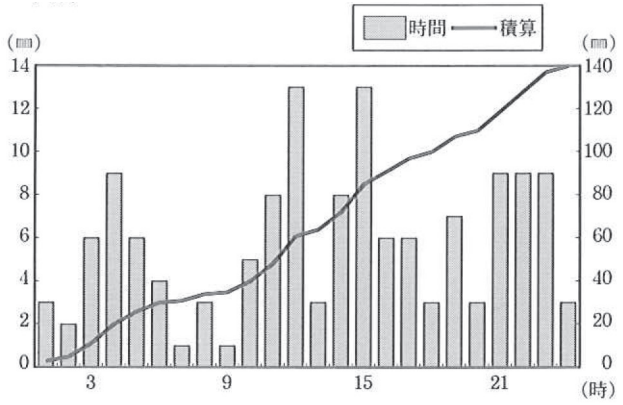


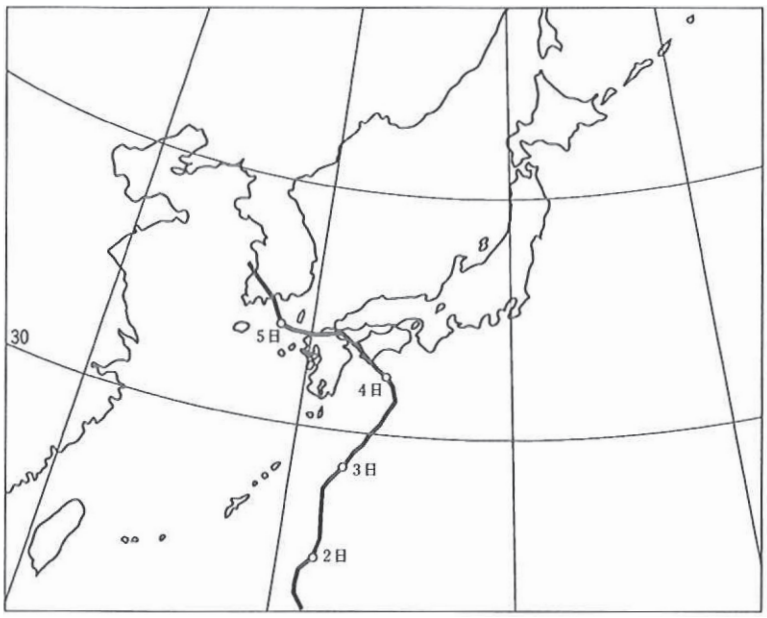
総雨量（mm）

徳島（8月4日）



木頭（8月4日）





台風第9号　経路図

7月31日09時に沖の鳥島の西海上で発生した弱い熱帯低気圧は北に進み，2日09時に南大東島の南海上で台風第9号となった。やや発達しながら3日に四国沖を北東に進んで，4日には中型で並の強さに発達，進路を北西に変えて13時頃小型の弱い勢力で足摺岬付近に上陸した。その後も北西進を続け，19時30分ころ福岡県行橋市付近に再上陸，対馬海峡に出て21時に弱い熱帯低気圧になった。徳島県では4日に雨風ともピークになった。

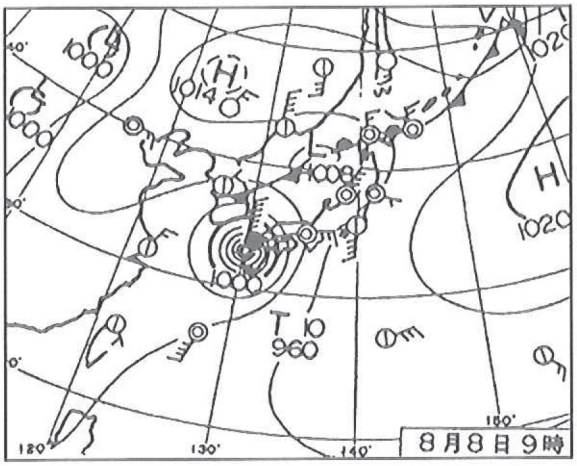
最大風速は日和佐で4日12時に東南東の風17m/sを観測，最大瞬間風速は徳島で4日15時50分に南南東の風20.5m/sを観測した。

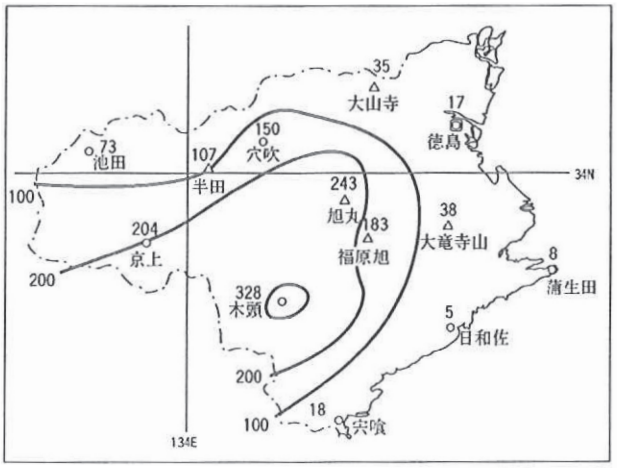
総降水量の最大値は木頭で3日13時から4日24時までの間に157mmを観測，日降水量の最大値は神山町旭丸と木頭で4日に140mmを観測した。1時間降水量の最大値は徳島で，4日16時50分から17時50分までの間に40mmを観測した。

強風により，航空17便とフェリー33便が欠航した。大雨により那賀郡相生町の県道，西納－大

久保線が山腹崩壊により全面通行止めとなった。美馬郡木屋平村の国道439号で，山腹崩壊のため全面通行止めとなった。徳島市北島田町で県道，徳島－吉野線が冠水のため全面通行止めとなった。

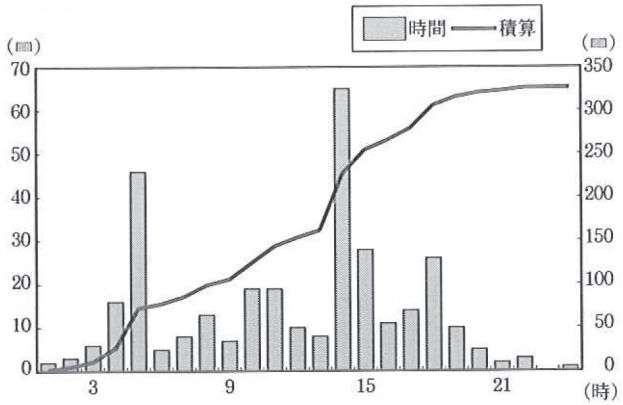
1992年（平成4年）8月7日～8日　台風第10号



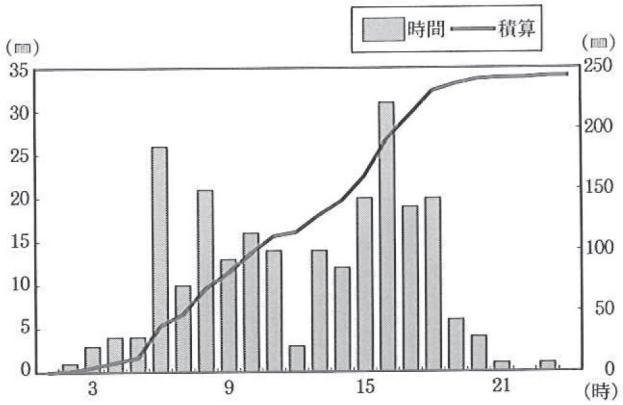


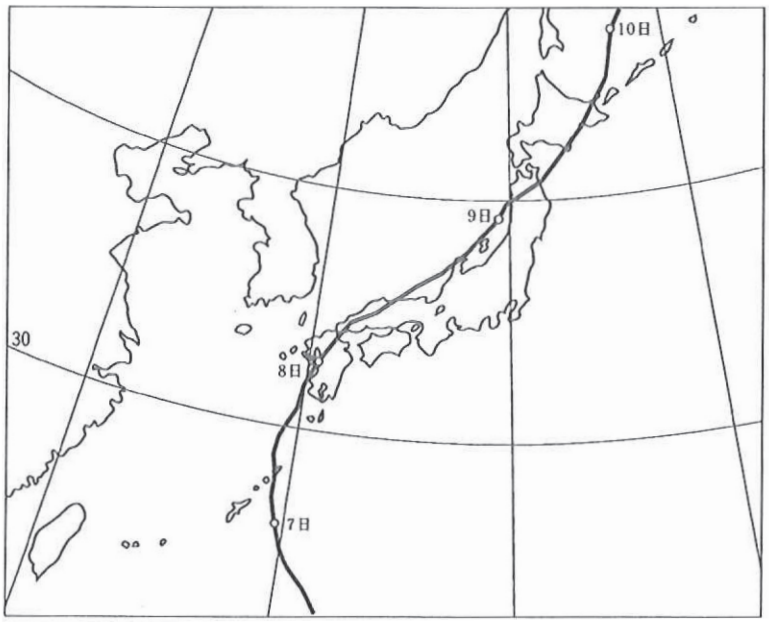
総雨量（mm）

木頭（8月8日）



旭丸（8月8日）





台風第10号　経路図

3日09時にグアム島の南で発生した弱い熱帯低気圧は，4日03時にグアム島の西で台風第10号となった。発達しながら北西進し，7日16時ころ中型で非常に強い勢力となり奄美大島を通過した後，進路を北北東に変えて8日09時30分ころ熊本県玉名市付近に中型の強い勢力で上陸した。その後，九州北部，周防灘を経て13時過ぎに山口県宇部市付近に再上陸，中国地方を縦断し山陰沖に出て9日12時に秋田沖で温帯低気圧になった。

徳島県では8日に雨風ともピークになった。最大風速は徳島で8日15時50分に南の風19.8m/sを観測，最大瞬間風速は徳島で8日15時48分に南南東の風37.1m/sを観測した。

総降水量の最大値は木頭で，7日22時から8日24時までの間に328㎜を観測，日降水量の最大

は木頭で 8 日に 327㎜を観測した。1 時間降水量の最大値は木頭で 8 日 13 時から 14 時までの間に 65㎜を観測した。

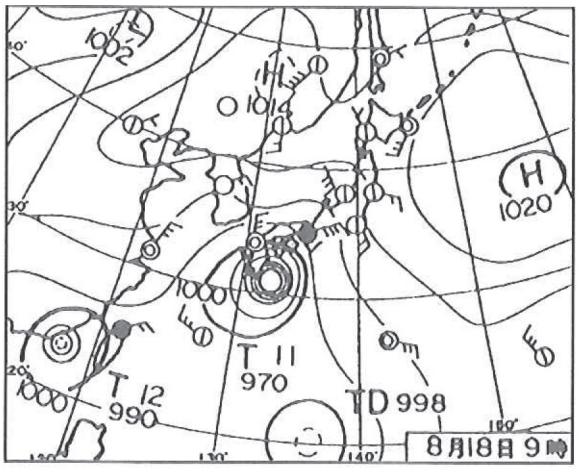
交通機関は陸・空・海ともに混乱し，航空 22 便・フェリー 50 便が欠航，JR29 本が運休した。

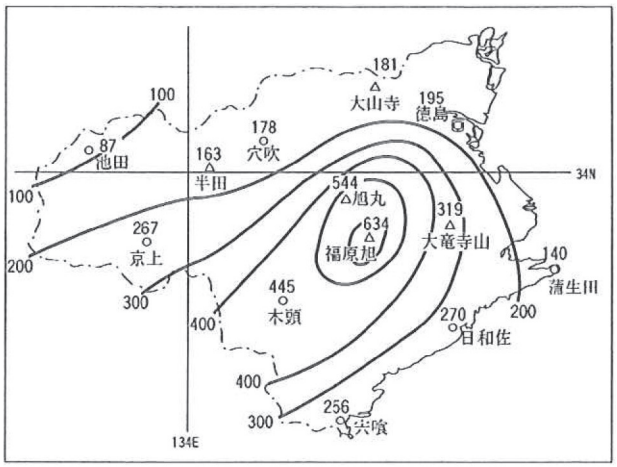
強風と大雨のため，文教施設 1 棟と公共土木施設 92 箇所で被害が発生した。また，大雨による山崖崩れ 5 箇所や道路損壊 2 箇所，倒木･落石･冠水などのため 29 箇所で道路が全面通行止めになった。

農作物では梨や栗などの果実の落下と，さつまいも等が塩風害を受けた。

1992 年（平成 4 年）8 月 17 日～ 19 日　台風第 11 号

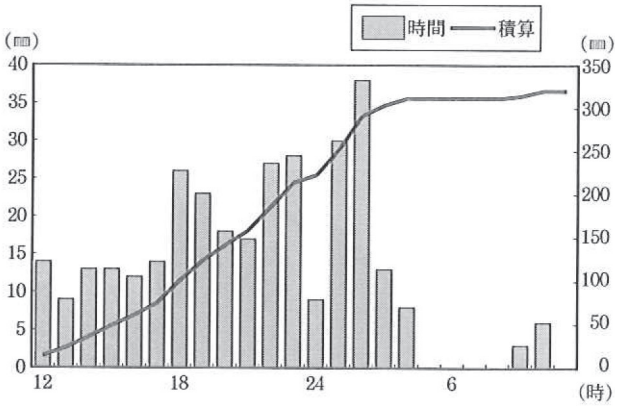
5 日 15 時にマーシャル諸島で発生した弱い熱帯低気圧は，6 日 15 時に同海域で台風第 11 号となった。



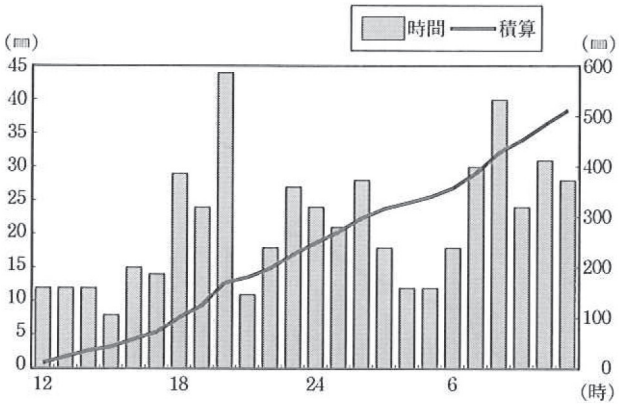


総雨量（㎜）

木頭（8 月 18 日～ 8 月 19 日）



福原旭（8 月 18 日～ 8 月 19 日）

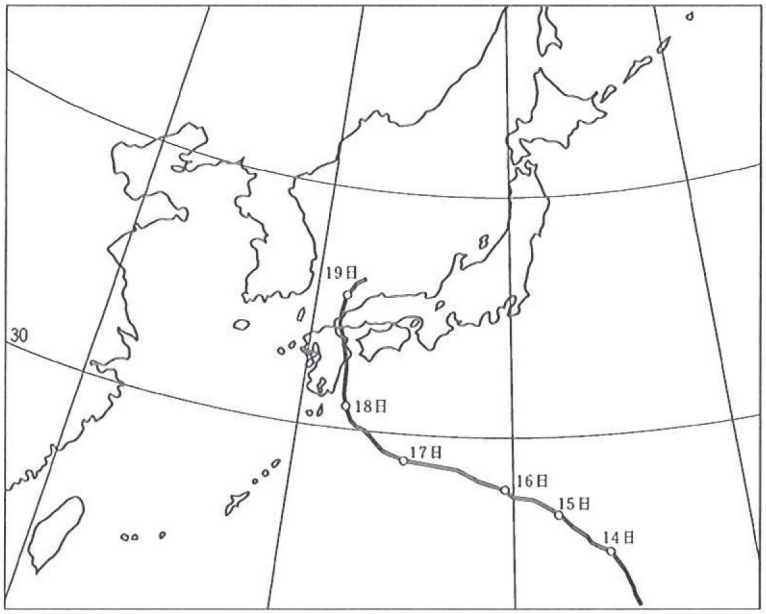


その後も発達しながら西北西に進み，南鳥島の南海上を通って 12 日には中型で非常に強い勢力となり，父島の南東海上を北西進した。18 日に種子島の東海上で進路を北北西に変え，21 時前に中型の弱い勢力で宮崎県と大分県の県境付近に上陸した。19 日 02 時 30 分ころ山口県宇部市付近に再上陸し，15 時に山口県沖で弱い熱帯低気圧になった。

徳島県では 17 日から波浪が高くなり，18 日から 19 日にかけては時化もようになった。徳島への最接近は 19 日 15 時ころであった。

最大風速は日和佐で 18 日 19 時に南東の風 14m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 18 日 21 時 55 分に南東の風 25.2m/s を観測した。

総降水量の最大値は上勝町の福原旭で，17 日 15 時から 19 日 24 時までの間に 634㎜を観測，日降水量の最大は神山町の旭丸で 18 日に 345㎜を観測した。1 時間降水量の最大値は日和佐で 19 日



台風第 11 号　経路図

02 時から 03 時までの間に 47㎜を観測した。

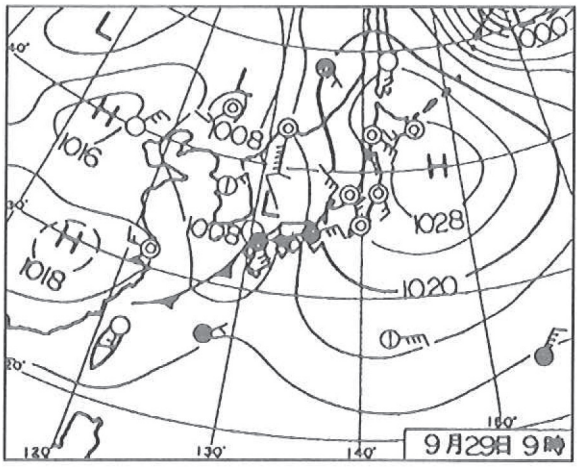
強風と大雨のために陸・海・空の交通が乱れ，フェリーは 66 便が欠航，鉄道は 56 本が運休，航空は 4 便が欠航した。

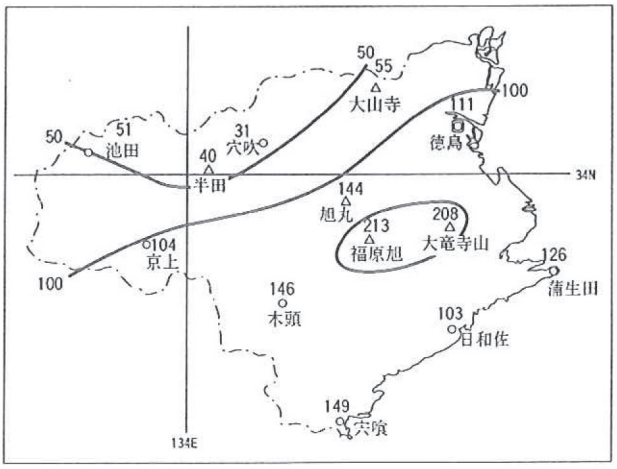
大雨のため 36 棟が床下浸水し，19 箇所で山崖崩れが発生した。その他，道路損壊 5 箇所や冠水・落石などにより，合計 62 箇所で全面通行止めとなった。

農作物では水稲や野菜・果樹などに被害が発生し，公共土木施設では 424 箇所に被害があった。

また，海部郡海南町でサーファー 1 名が行方不明となり，徳島市の大神子海岸では帰省中の家族ら 6 人が高波にさらわれ 5 名が死亡した。板野郡松茂町では堤防上の車が高波で流され 1 名が死亡した。

1992 年（平成 4 年）9 月 29 日　低気圧





総雨量（㎜）

前線を伴った低気圧の通過で雨風とも強く，交通機関に影響が出た。

最大風速は徳島で 11 時 50 分に南南東の風 12.4m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 11 時 45 分に南南東の風 22.9m/s を観測した。

日降水量の最大値は上勝町の福原旭で 213㎜を観測，1 時間降水量の最大値は阿南市の太竜寺山で 15 時から 16 時までの間に 70㎜を観測した。

風のため航空 16 便が欠航し，フェリー 10 便が欠航した。陸上交通は山腹崩壊 4 箇所や路肩の損壊 1 箇所，落石・冠水などのため，合計 21 箇所で全面通行止めとなった。

1993年

［平成５年］

1993 年（平成 5 年）3 月 24 日～ 25 日　季節風

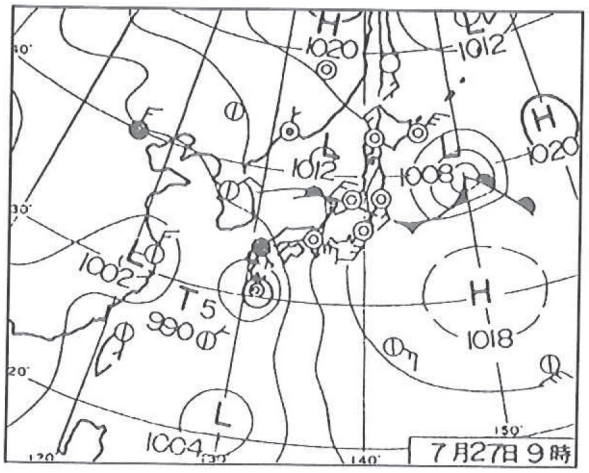
低気圧が通過した後，大陸からは優勢な高気圧が張り出して，強い冬型の気圧配置になった。

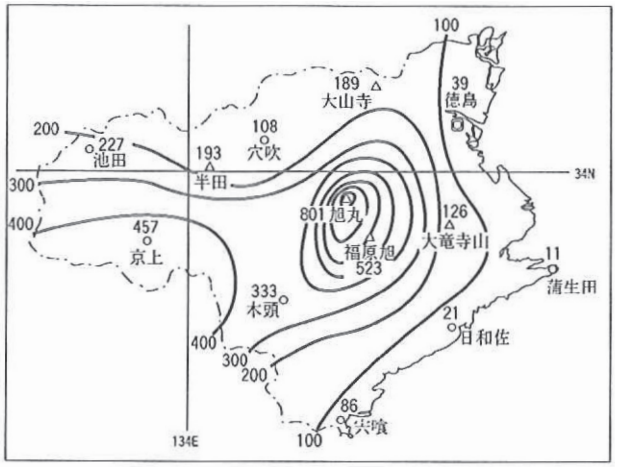
最大風速は阿南市の蒲生田で 24 日 18 時に南西の風 8m/s を観測，最大瞬間風速は，徳島で 24 日 22 時 05 分に西の風 20.6m/s を観測した。

24 日夜半前から 25 日朝にかけて，阿南市伊島沖で航行中の中国の貨物船が沈没し，17 名が死亡し 12 名が行方不明となった。

事故が発生したと思われる時間帯の高知県室戸市佐喜浜の波浪計では，24 日 23 時に最大波高 180cm，25 日 00 時に有義波高 163cmを観測した。

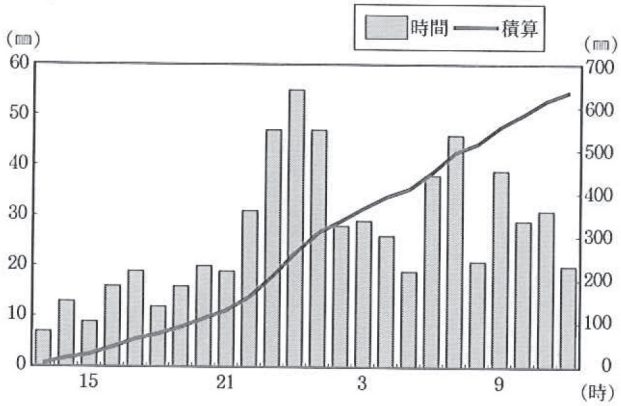
1993 年（平成 5 年）7 月 26 日～ 28 日　台風 5 号



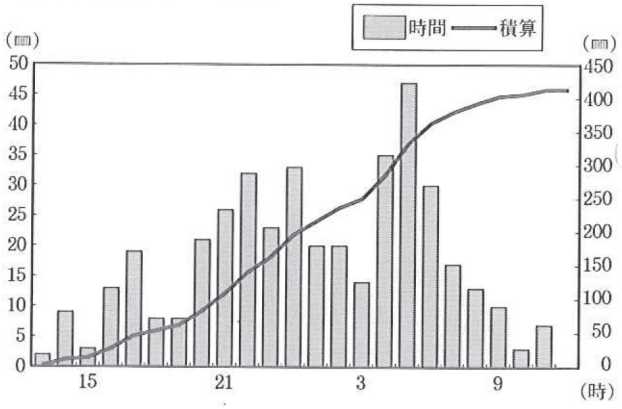


総雨量（mm）

旭丸（7 月 27 日～ 7 月 28 日）



京上（7 月 27 日～ 7 月 28 日）



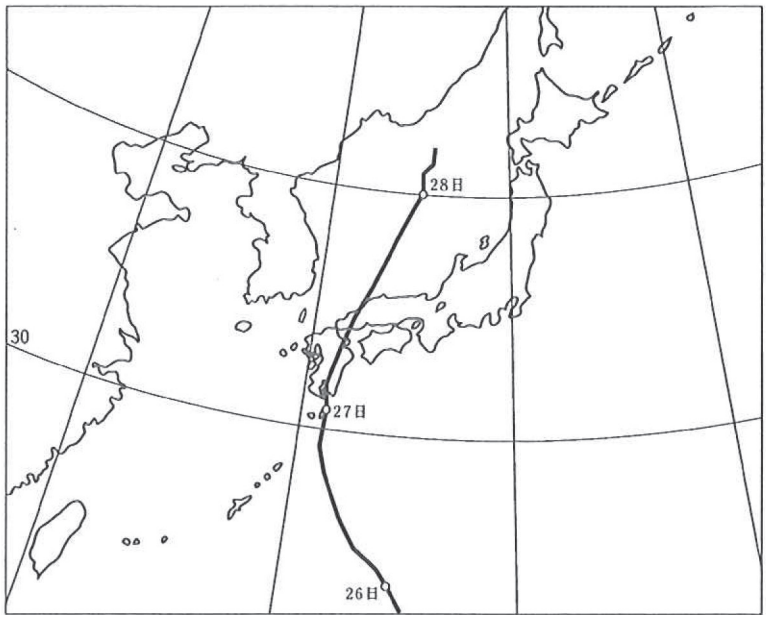
26 日 03 時に沖の鳥島の北で発生した台風第 5 号は，27 日には，奄美大島の東海上を北上し，27 日 11 時過ぎに鹿児島県大隅半島に上陸した。その後，九州東部を縦断して山口県に再上陸し，島根県益田市付近から出雲市付近を通って，22 時に日本海で弱い熱帯低気圧になった。

徳島県で 26 日の夕方前から雨になり，27 日夜には風雨ともに強まった。最接近は 27 日 17 時過ぎだが，台風が遠ざかり弱い熱帯低気圧に変わった後も南海上からの暖湿気の流入で，28 日夕方まで強い雨が降り続いた。

最大風速は徳島で 27 日 16 時 30 分に南南東の風 13.2m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 27 日 19 時 50 分に南南東の風 23.0m/s を観測した。

総降水量の最大値は神山町の旭丸で 26 日 16 時から 28 日 23 時までの間に 801㎜を観測，日降水量の最大値は神山町の旭丸で 28 日に 379㎜を観測した。1 時間降水量の最大値は神山町の旭丸で，27 日 23 時から 24 時までの間に 55㎜を観測した。

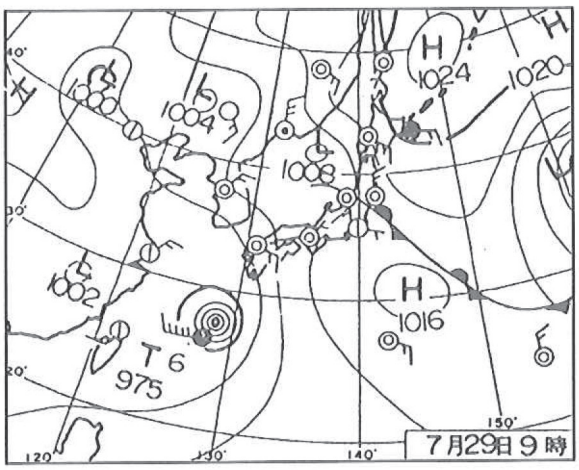
28 日 02 時ころ三好郡山城町で山崩れが発生し，母屋と納屋が潰されて 2 名が生き埋めになり死

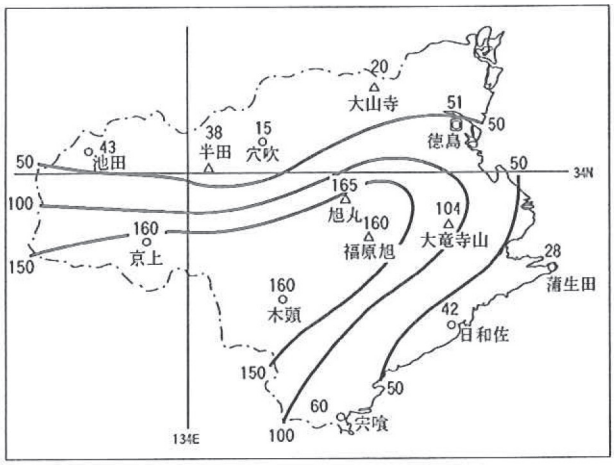


台風第5号　経路図

亡した。三好郡井川町ではお年寄りが増水した川に転落し，行方不明となった。その他の主な被害は，山崖崩れ13箇所・道路損壊13箇所・床上浸水25棟・床下浸水44棟・停電480戸・断水256戸・公共文教施設被害5件・公共土木施設被害656箇所・通行止め49箇所などが発生した。また，強風のため航空11便とフェリー33便が欠航，強風と大雨のため鉄道17便が運休した。

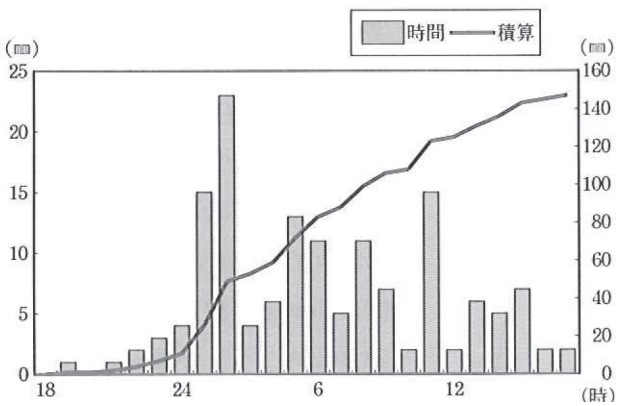
1993年（平成5年）7月29日～30日　台風第6号



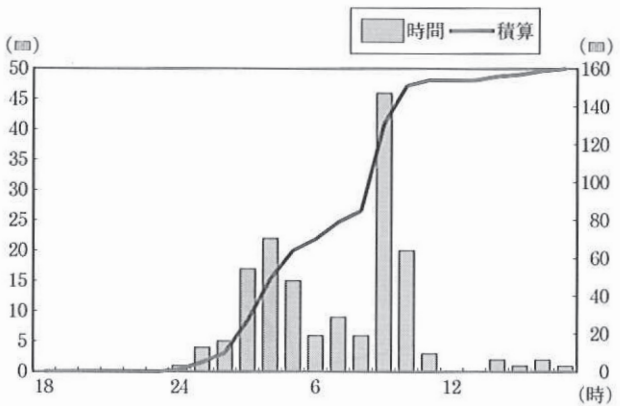


総雨量（mm）

木頭（7月29日～7月30日）

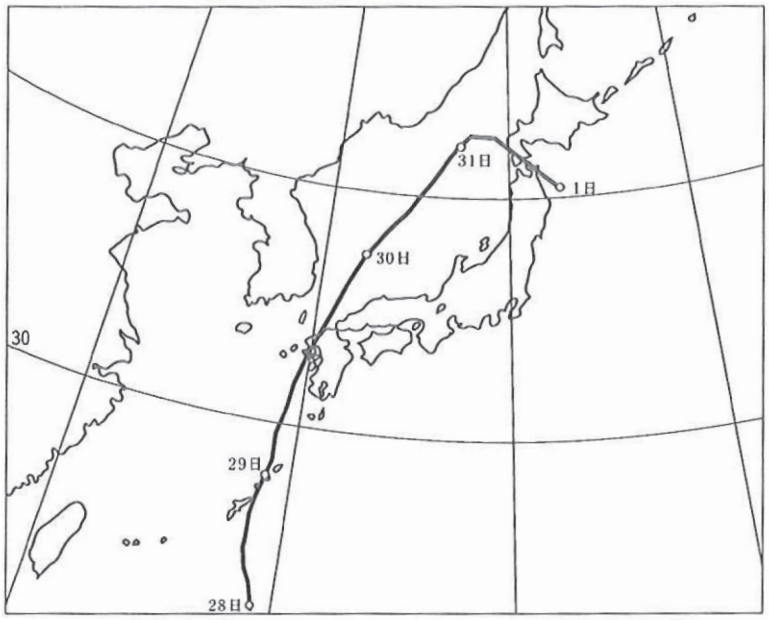


京上（7月29日～7月30日）



28日12時に南大東島の南西海上で発生した台風第6号は，29日に九州の西海上を北上し，30日00時ころ長崎市付近に上陸した。その後，玄界灘を通って日本海に入り，30日21時ころ日本海中部で温帯低気圧になった。

徳島県への最接近は30日05時前で，29日昼前から30日夜半前にかけて風が強まった。雨は29



台風第6号　経路図

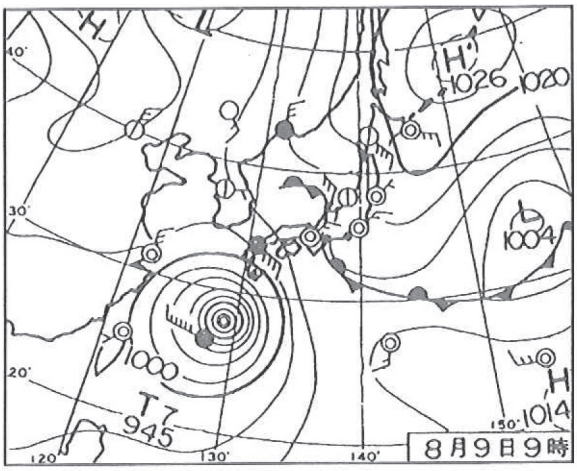
日夜から30日の昼過ぎにかけて強く降った。

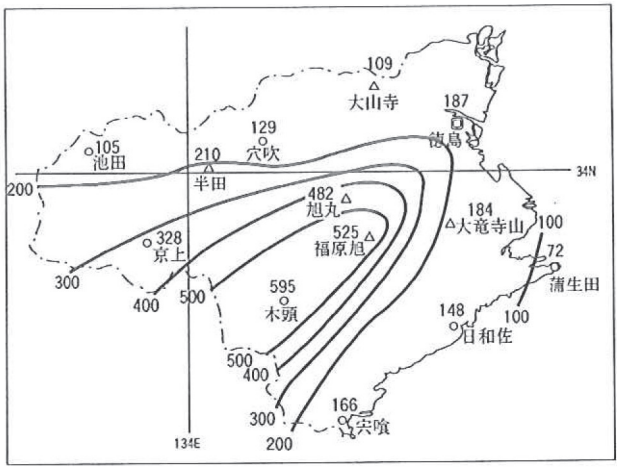
最大風速は徳島で30日01時40分に南南東の風14.0m/sを観測，最大瞬間風速は徳島で30日04時43分に南南東の風23.0m/sを観測した。

総降水量の最大値は神山町の旭丸で，29日14時から30日11時までの間に165㎜を観測，日降水量の最大は東祖谷山村の京上で30日に159㎜を観測した。1時間降水量の最大値は京上で30日08時から09時までの間に46㎜を観測した。

大雨により山崖崩れ5箇所，道路損壊6箇所などが発生した。また，強風のため航空8便とフェリー16便が欠航した。

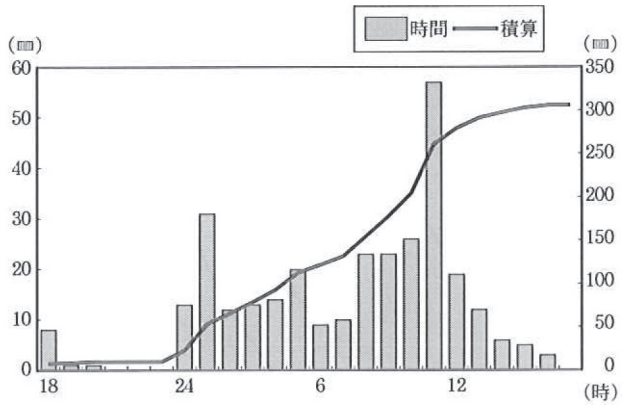
1993年（平成5年）8月8日～10日　台風第7号



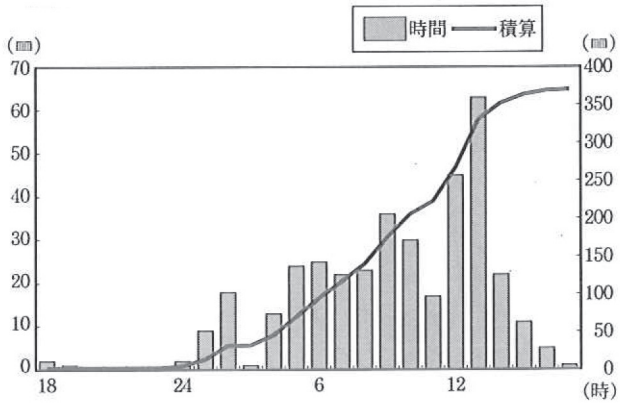


総雨量（㎜）

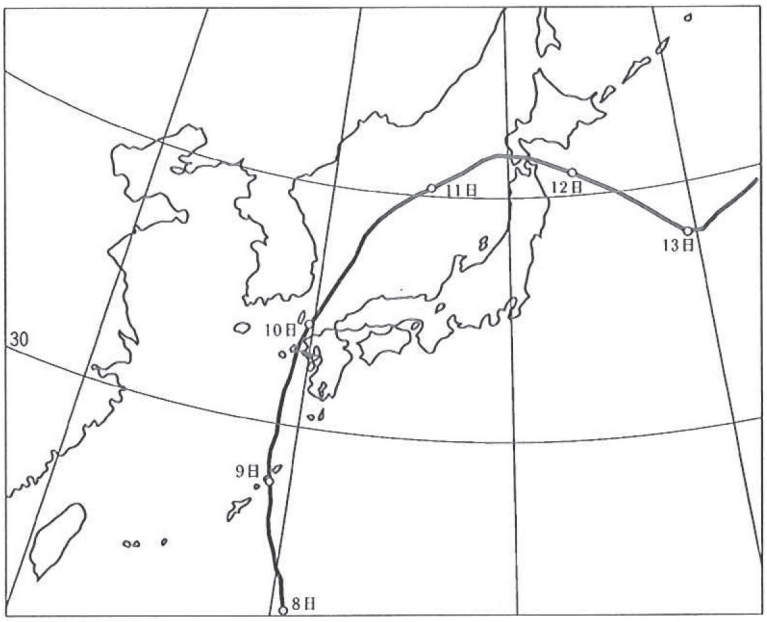
京上（8月9日～8月10日）



福原旭（8月9日～8月10日）



2日15時にグアム島の南東海上で発生した台風第7号は，9日夜半前から10日の早朝にかけて九州の西海上を北上し，10日06時前に長崎県平戸島付近を通過して，福岡市の北西海上を北に進んだ。12時には山口県萩市の北西およそ130㎞の海上に達し，日本海を通って11日18時に青森



台風第7号　経路図

県の西北西の海上で温帯低気圧になった。徳島県への最接近は10日15時過ぎであった。

最大風速は徳島で10日10時00分に南南東の風18.8m/sを観測，最大瞬間風速は徳島で10日09時50分に南南東の風34.9m/sを観測した。

総降水量の最大値は木頭で8日07時から10日24時までの間に595㎜を観測，日降水量の最大値は上勝町の福原旭で10日に365㎜を観測した。1時間降水量の最大値は木頭で，10日09時から10時までの間に77㎜を観測した。

強い風と雨のため航空は10日に24便が欠航，フェリーは9日から10日にかけて53便が欠航し，JRは県内全路線で運休した。

10日09時55分ころ鳴門市瀬戸町北泊りの小鳴門橋で，走行中のトラックが強風に煽られて横転し運転手が重傷を負った。10日11時ころには美馬郡木屋平村で裏山が崩れ，土砂が住宅に流入して避難中の女性が負傷した。10日16時50分ころ麻植郡鴨島町で幼児が冠水した田圃に落ちて水死した。

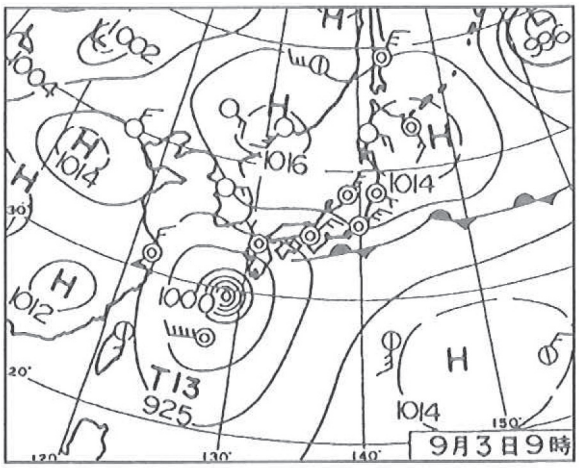
公共土木施設591箇所と，山崖崩れ18箇所，道路の損壊2箇所などが発生した。

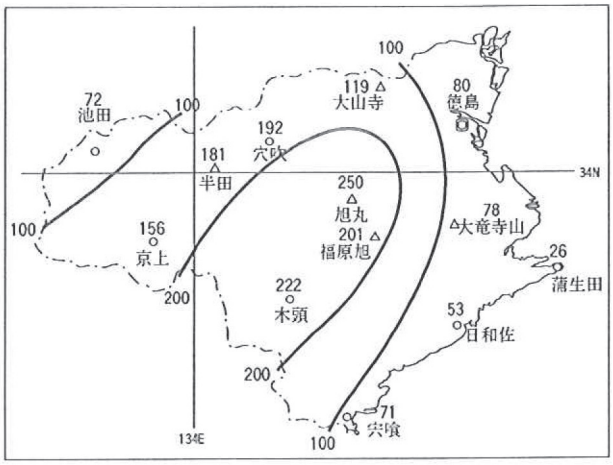
1993年（平成5年）9月2日～4日　台風第13号

8月30日09時に沖の鳥島の西方洋上で発生した台風第13号は，急速に発達して2日15時には沖縄県那覇市の西およそ140㎞の海上に達した。3日09時には鹿児島県屋久島の西海上を通過し，16時前に鹿児島県薩摩半島に上陸した。その後，九州南部を通り23時30分に愛媛県八幡浜市付近に再上陸し，瀬戸内を通って4日02時ころ広島県福山市付近に再々上陸した。04時には鳥取市付近を通って日本海に出て，4日21時ころ秋田県の西の海上で温帯低気圧になった。

徳島県への最接近は4日02時ころで，2日の昼過ぎから降り出した雨は，3日の夕方前から4日の早朝にかけてピークとなった。

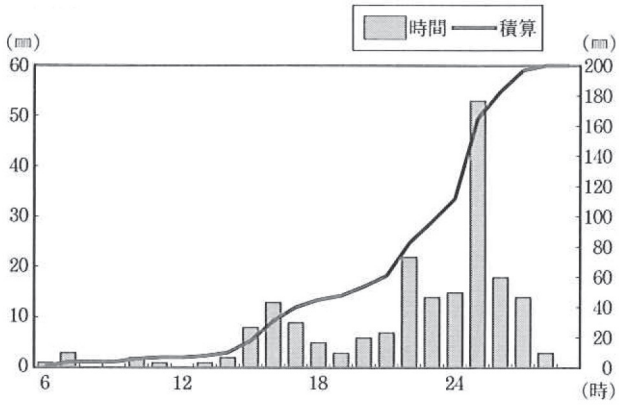
最大風速は徳島で4日01時10分に南南東の風24.1m/sを観測，最大瞬間風速は徳島で4日01時51分に南南東の風46.8m/sを観測した。



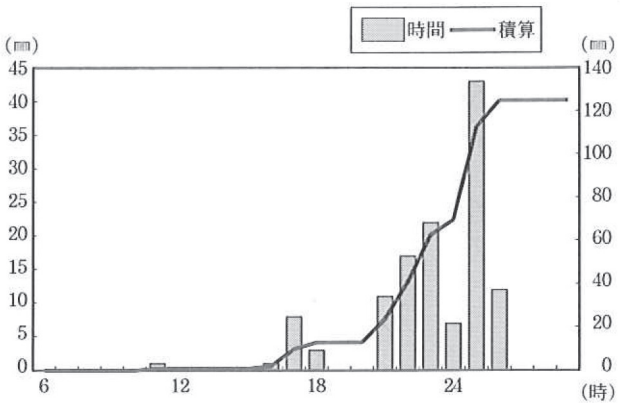


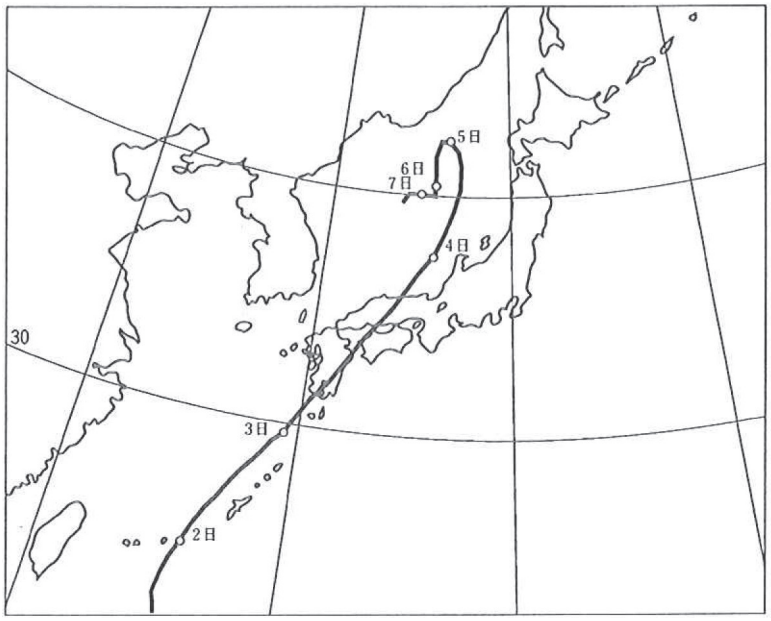
総雨量（㎜）

木頭（9月3日～9月4日）



穴吹（9月3日～9月4日）





台風第13号　経路図

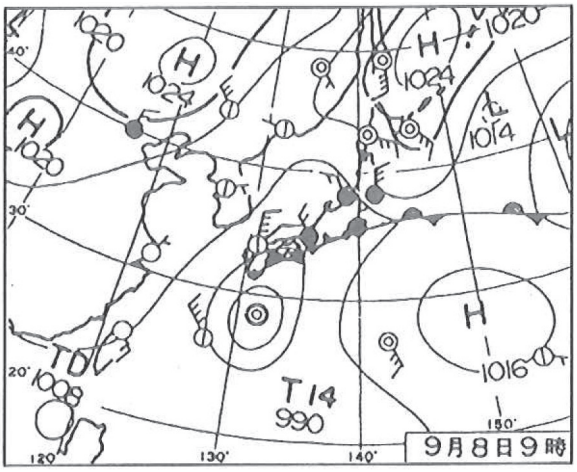
総降水量の最大値は神山町の旭丸で，2日13時から4日04時までの間に250㎜を観測，日降水量の最大は旭丸で3日に144㎜を観測した。

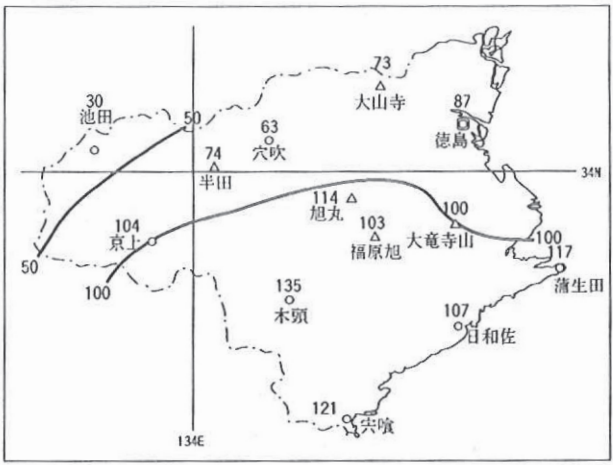
1時間降水量の最大値は旭丸で，3日22時から23時までの間に60㎜を観測した。

4日01時30分過ぎに，徳島市本町で電柱3本が折れて付近の住宅が停電した。4日02時ころに，板野郡藍住町で建築中の住宅1棟が倒壊し，民家のブロック塀を破損，道路が通行不能になった。同時刻ころ徳島市の鮎喰町で，強風で飛ばされたスレートぶきの屋根が電柱を倒し住宅を破損，軽トラックやワゴン車を大破させた。

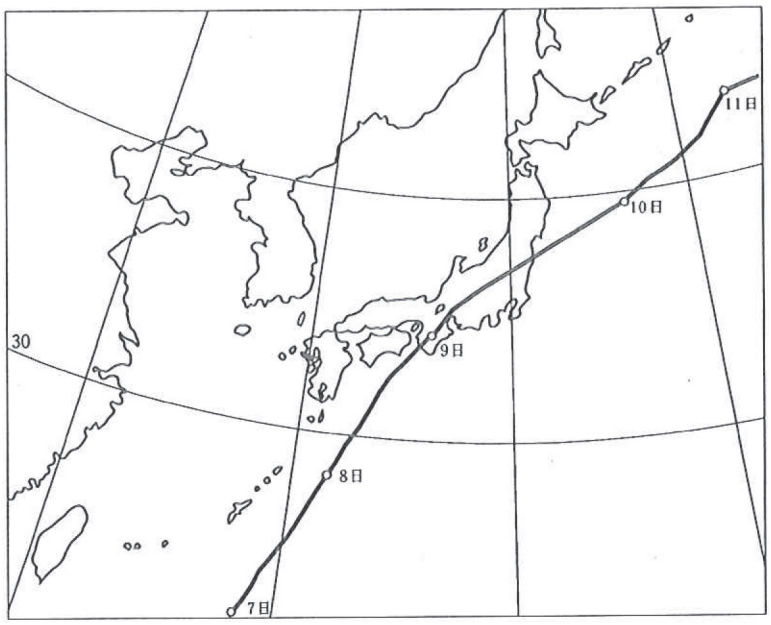
3日から4日にかけて，航空12便とフェリー46便が欠航，JRは3日17時から4日12時まで全面通行止めとなった。また，床上浸水1戸，床下浸水29戸，住家破損31戸などがあった。その他，山崖崩れ3箇所，道路通行規制44箇所，停電35,775戸，通信施設障害941回線，文教施設被害3件，公共土木施設被害179箇所，農林水産施設被害112箇所などの被害が発生した。

1993年（平成5年）9月7日～9日　台風第14号





総雨量（㎜）



台風第 14 号　経路図

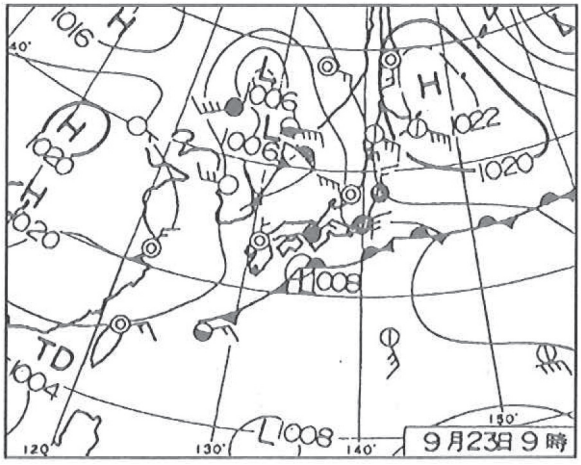
7 日 03 時に沖縄の南海上で発生した台風 14 号は，沖縄の東海上を北上し，8 日夜半前に四国の南海上に達した。9 日 04 時に室戸岬の東南東およそ 40km の海上を通って，06 時 30 分ころ和歌山南部に上陸した。その後，伊勢湾を通り，15 時頃に長野県南部で温帯低気圧になった。

徳島県への最接近は 9 日 06 時ころで，雨は 7 日早朝から 8 日昼頃にかけて強く，風は 8 日夜半ころから 9 日の昼ころにかけて強まった。

最大風速は浦生田で 9 日 07 時に西北西の風 7.0m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 9 日 07 時 25 分に西北西の風 12.6m/s を観測した。

総降水量の最大値は木頭で，7 日 05 時から 9 日 05 時までの間に 135㎜を観測，日降水量の最大は木頭で 7 日に 76㎜を観測した。1 時間降水量の最大値は日和佐で 8 日 02 時から 03 時までの間に 15㎜を観測した。

徳島県では大きな被害はなかったが，8 日～ 9 日にかけてフェリー 16 便が欠航した。また，8 日 07 時ころ，海南町の県道沿いで山腹が崩壊し，県道上皆津―奥浦線が全面通行止めとなった。9 日 18 時ころには，木屋平村で県道沿いの山腹が崩壊し全面通行止めとなった。



1993 年（平成 5 年）9 月 23 日　低気圧

四国の南岸に停滞する前線上を低気圧が通り，沿岸海上では 22 日夜半前から 23 日の朝にかけて波が高くなった。高知県佐喜浜の波浪計の観測によると，23 日 02 時には最大波高 381cm・有義波高 197cm，03 時には最大波高 281cm・有義波高 198cm，04 時には最大波高 338cm・有義波高 220cmを観測した。

23 日 03 時ころ，海部町鞆浦沖で操業中の漁船が横波を受けて転覆し，1 人が死亡し 1 人が負傷した。

1993 年（平成 5 年）11 月 12 日～ 13 日　低気圧

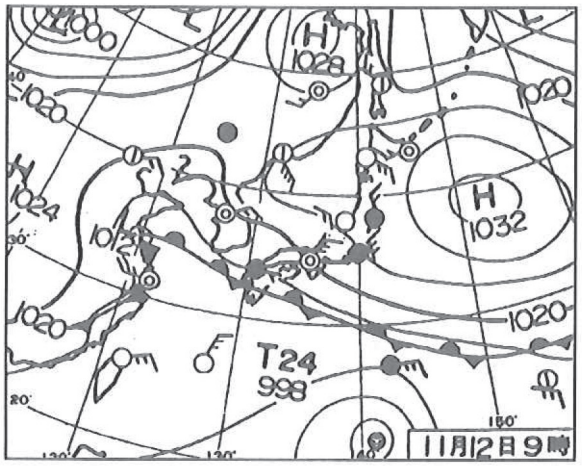
発達中の低気圧が，12 日の夜半から 13 日の昼にかけ，朝鮮半島を通って日本海を北東に進み，前線が四国地方を通過した。一方，日本の南海上には弱い熱帯低気圧があり，日本海の低気圧に向かって暖湿気が流入した。このため，前線通過時には積乱雲が発達し，県東部を中心に雷を伴った激しい雨が降った。

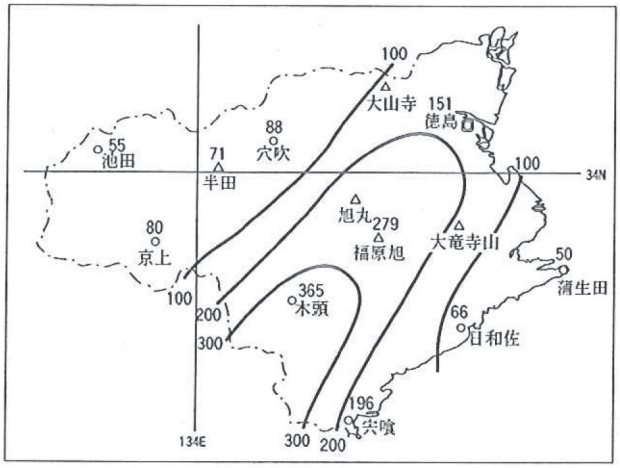
総降水量の最大値は木頭で，12 日 12 時から 13 日 13 時までの間に 365㎜を観測，日降水量の最大値は木頭で 13 日に 279㎜を観測した。1 時間降水量の最大値は上勝町の福原旭で，13 日 09 時から 10 時までの間に 81㎜を観測した。

13 日 09 時ころ，海南町平井の海部川支流である王余魚谷（かれいだに）で，激しい雨のため山腹が崩壊した。また，鉄砲水で王余漁谷川が急激に増水し，轟神社臨時駐車場に止めてあった乗用

車など7台が流された。車を急いで移動しに行った9名が，増水した川に取り残されたが，組織されたばかりの海部消防組合から出動した隊員によって全員無事救助された。徳島市内でもトラックや乗用車合わせて3台が水没したが，けが人はなかった。

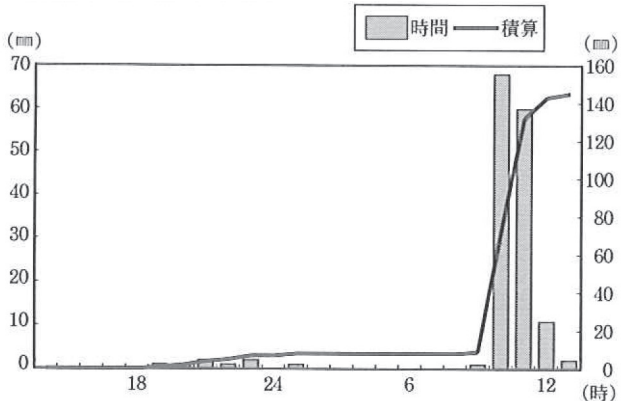
その他，床上浸水12戸・床下浸水251戸，田畑の冠水400ha，山崖崩れ3箇所などが発生した。また，航空4便が欠航，山崩れや冠水のため国道や県道28箇所で通行止めとなった。



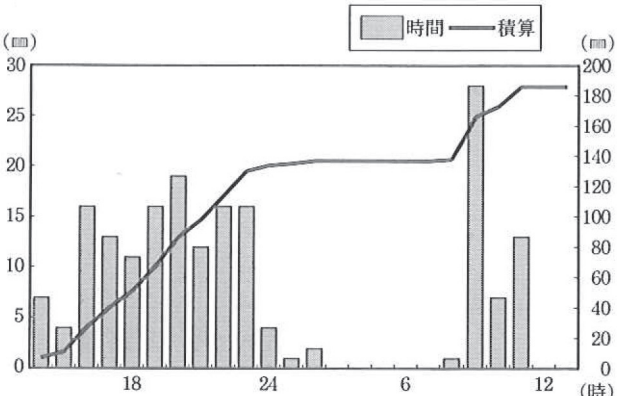


総雨量（mm）

徳島（11月12日～11月13日）



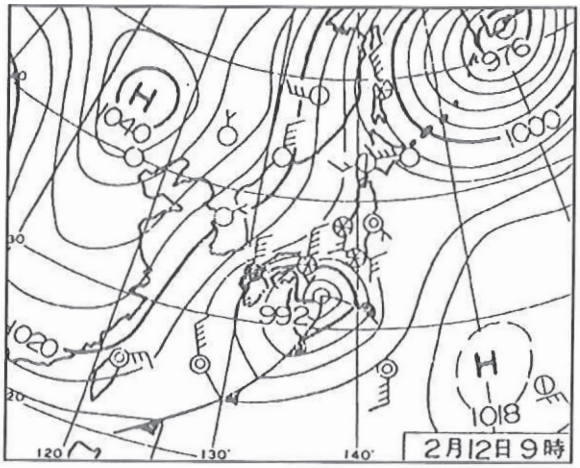
宍喰（11月12日～11月13日）

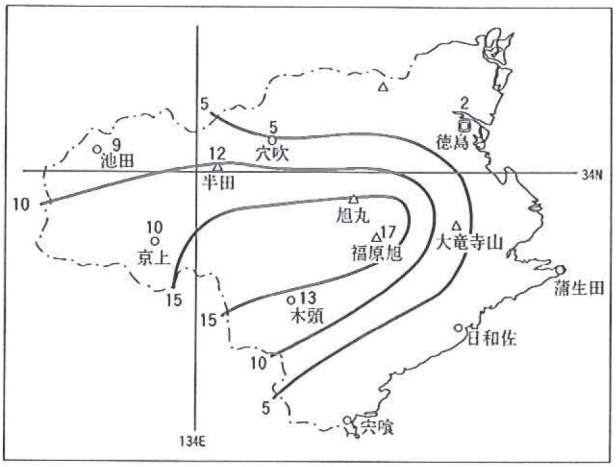


1994年

［平成６年］

1994 年（平成 6 年）2 月 11 日～ 12 日　大雪





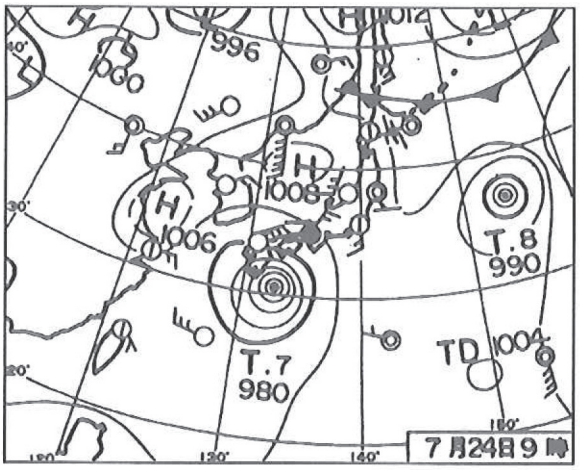
総雨量（mm）

低気圧が発達しながら四国の南岸を通過し，上空には寒気が流入した。このため，11 日の夕方から降り始めたみぞれは夜になって雪に変わり，12 日の昼頃まで降り続いて県下全域で積雪があった。

京上での最深積雪は 11 日 09 時に 15cm，上勝町福原旭での最深積雪は 12 日 09 時に 17cm，木頭での最深積雪は 12 日 09 時に 13cmを観測した。

この雪のため航空 19 便が欠航し，バスは山間部の路線を中心に運休や折り返し運行となった。神山町では積雪が原因の漏電があり，350 世帯が断続的に漏電した。

1994 年（平成 6 年）7 月 23 日～ 27 日　台風第 7 号



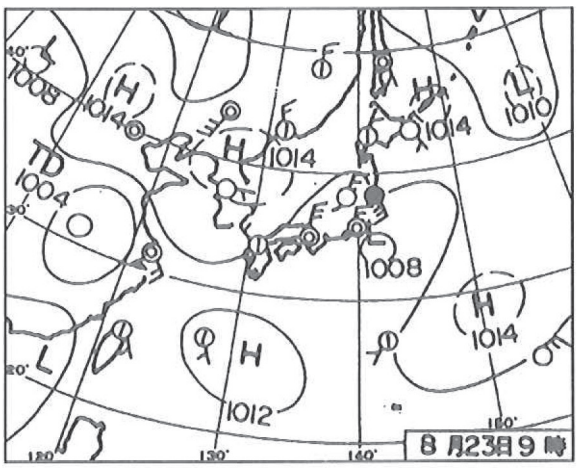
14 日 09 時にフィリピンの東海上で発生した弱い熱帯低気圧は，発達しながら北西に進み，16 日 21 時にルソン島の東海上で台風第 7 号となった。その後，進路を北東に変えて進み，19 日 09 時には大型で非常に強い勢力となった。21 日には父島の西の海上に達し，22 日には中型で強い勢力となり日本の南海上を西に進んだ。25 日 14 時前に小型で並の強さとなって，高知県西部に上陸し，26 日 00 時ごろ関門海峡付近を通過して，06 時に対馬海峡で弱い熱帯低気圧になった。

徳島県への最接近は 25 日 14 時ごろで，25 日を中心に断続的に強い雨が降った。

最大風速は日和佐で 25 日 13 時に東南東の風 14m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 25 日 16 時 38 分に東南東の風 18.3m/s を観測した。

総降水量の最大値は木頭で，23 日 06 時から 26 日 23 時までの間に 402㎜を観測，日降水量の最大は上勝町の福原旭で，25 日に 283㎜を観測した。1 時間降水量の最大値は上勝町の福原旭で，25 日 11 時から 12 時までの間に 54㎜を観測した。

強風のために 25 日に航空 12 便が欠航し，25 日から 26 日にかけてフェリー 22 便が欠航した。25 日 15 時 50 分ころ，JR 高徳線で強風のため運転を見合わせ，10 便が部分運休した。その他，道路損壊 42 箇所・山崖崩れ 2 箇所などが発生し，林業関係施設 28 箇所・公共土木施設 115 箇所で被害が発生した。



1994年（平成6年）6月29日～8月31日　猛暑・干ばつ

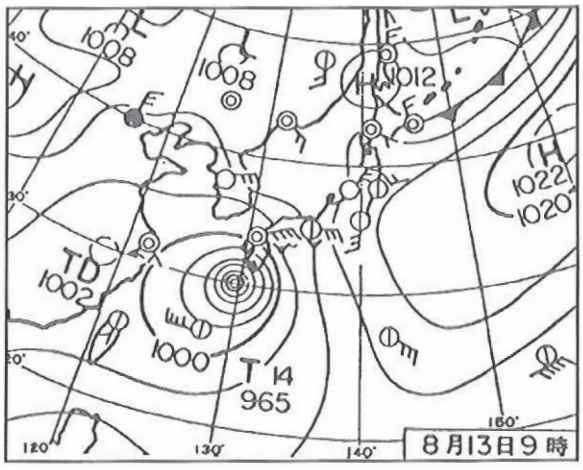
梅雨は平年より2週間ほど早く，7月上旬の前半に明けた。その後，7月下旬の台風第7号と8月中旬の台風第14号で雨に恵まれたが，その他の日は太平洋高気圧におおわれて暑い晴天が続いた。期間中，県西部の池田では68㎜しか降らず，これは平年のわずか20％である。また穴吹でも94㎜と平年の27％しか降らず，ほかの地域でも平年比30～65％にとどまった。降水量1㎜未満の継続日数は，半田と池田で6月29日から7月22日までの24日間，蒲生田で8月20日から9月15日までの27日間であった。

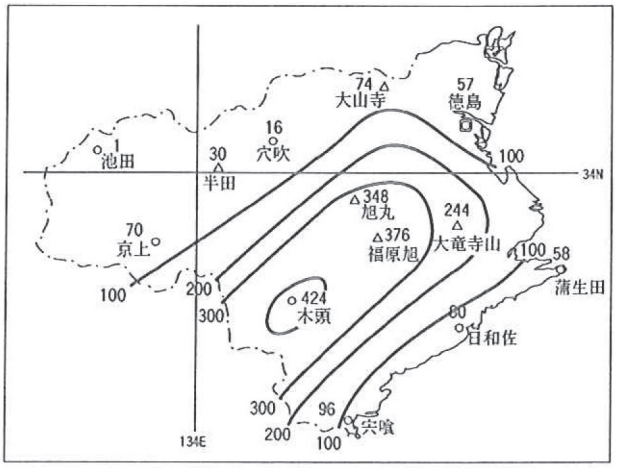
気温は平年より大幅に高く，徳島市では7月に真夏日が29日，8月は30日もあり，熱帯夜は7月が24日，8月は18日もあった。日最高気温は7月11日に穴吹で，県下アメダス観測開始以来最高の39.2℃を観測した。徳島でも7月15日に日最高気温38.4℃を観測し，従来の記録を更新した。また，徳島市の7月の月平均気温は平年より3.2℃も高い29.3℃を観測し，8月の月平均気温も平年より1.8℃高い29.0℃を観測して，それぞれ従来の月平均気温の記録を更新した。従来の記録は，7月が1914年の27.9℃，8月が1990年の28.7℃であった。

吉野川上流の早明浦ダムは枯渇状態が続き，7月29日に第1次取水制限，7月8日に第2次取水制限，7月16日に第3次取水制限を実施し，8月19日に解除した。だが，8月31日には再び徳島・香川両用水の取水制限を再開した。この間，干上がった早明浦ダム底に現れた元役場庁舎の映像がテレビで連日全国放送されるなど，全国的な話題になって枯渇した早明浦ダムに大勢の見物者が押し掛けるほどであった。

この猛暑と干ばつにより県北部を中心に被害が発生し，農作物被害面積は2,277haで8億9,610万円であった。主なものは柑橘類で，小雨による果実の肥大不良であった。森林枯損被害面積は121haで9,040万円，畜産被害は5,200万円にのぼった。ただし，徳島県は他県に比べ水に恵まれたため，水稲被害は県西山間部の一部だけで，県下の作況指数は119の大豊作となった。

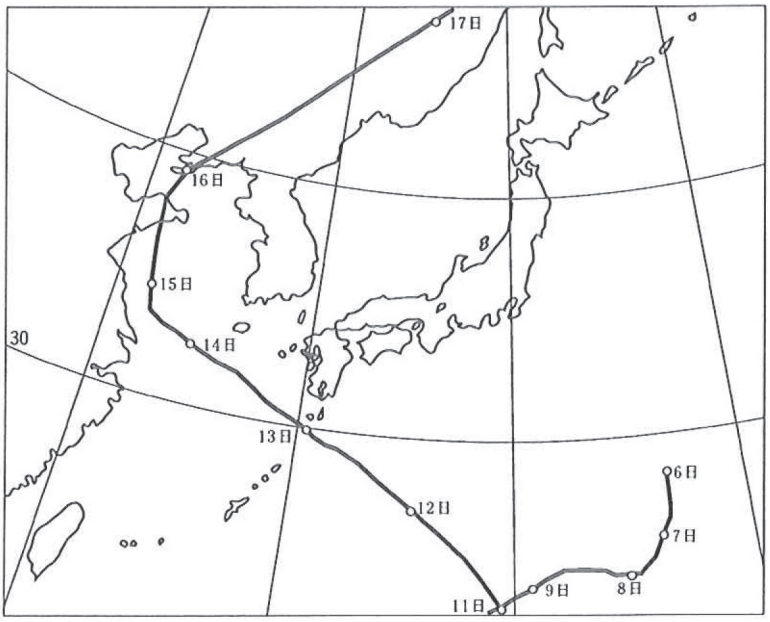
1994年（平成6年）8月10日～14日　台風第14号





総雨量（㎜）

6日09時に父島の東海上で発生した弱い熱帯低気圧は，8日15時に父島の南東海上で台風第14号となった。その後，次第に発達しながら11日に日本の南海上で進路を北西に変え，12日の午後には大型で強い勢力となって，13日に屋久島の南海上を通って東シナ海に進んだ。15日の朝には揚子江の東海上に達し，黄海を経て16日21時に温帯低気圧になった。



台風第 14 号　経路図

徳島県への最接近は 13 日 03 時ころで，13 日を中心に 10 日から 14 日にかけて雨が降った。

最大風速は徳島で 13 日 11 時 50 分に南南東の風 11.0m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 13 日 12 時 16 分に東南東の風 19.7m/s を観測した。

総降水量の最大値は木頭で，10 日 00 時から 14 日 24 時までの間に 424㎜を観測，日降水量の最大は上勝町の福原旭で 13 日に 195㎜を観測した。1 時間降水量の最大値は上勝町の福原旭で，13 日 03 時から 04 時までの間に 30㎜を観測した。

徳島県では大きな被害はなかったが，強風のため東京からの航空 1 便が徳島空港に着陸できず高松空港へ向かった。大雨による被害は，木頭村の林道で山腹崩壊するなど，3 箇所で山崖崩れが発生した。

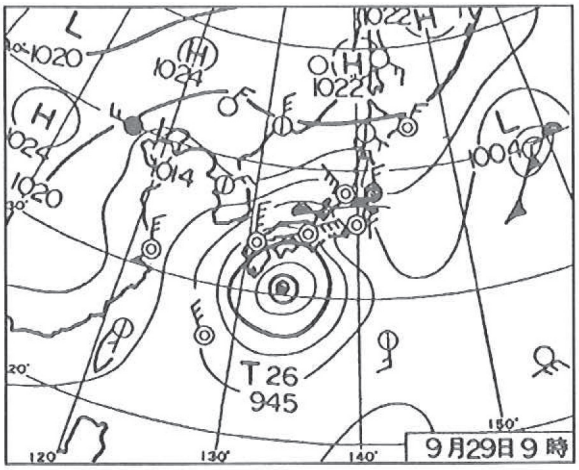
1994 年（平成 6 年）9 月 27 日～ 30 日　台風第 26 号

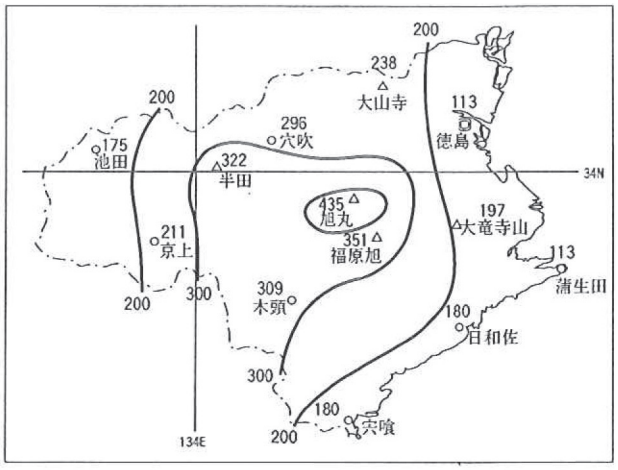
19 日 04 時にグアム島の南西海上で発生した台風第 26 号は，日本の南海上で発達し，24 日 03 時に沖の鳥島の南東海上で大型で非常に強い台風になった。29 日 17 時には大型の強い勢力で潮岬の南西およそ 110km に接近し，19 時 30 分ころに和歌山県南部に上陸した。その後，徐々に弱まりながら北北東に進み，30 日 03 時ころには日本海に出て，15 時に津軽半島の西南西海上で温帯低気圧になった。徳島県への最接近は 29 日 20 時ころであった。

最大風速は徳島で 29 日 21 時 40 分に西北西の風 11.9m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 29 日 21 時 33 分に西北西の風 23.4m/s を観測した。

総降水量の最大値は神山町の旭丸で 27 日 03 時から 29 日 24 時までの間に 435㎜を観測，日降水量の最大値は神山町の旭丸で 29 日に 338㎜を観測した。1 時間降水量の最大値は神山町の旭丸で，29 日 06 時から 07 時までの間に 30㎜を観測した。

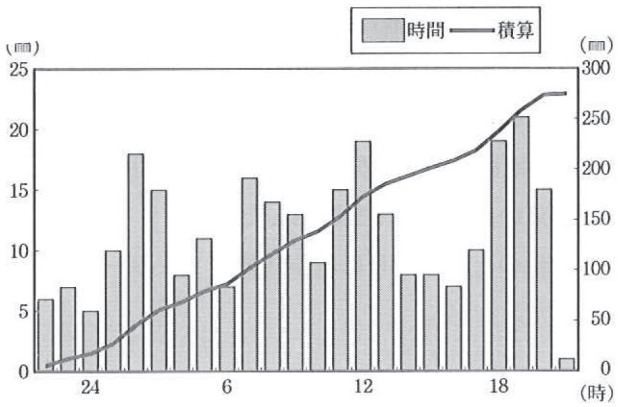
29 日の昼ころ，美馬郡一宇村で男性 1 人が増水した明谷川に転落して死亡した。強風のため，29 日に航空 24 便が欠航，フェリーは 28 日から 30 日の間に 62 便が欠航した。路線バスは 29 日に沿岸路線の一部が運休した。JR は，徳島本線で 29 日 06 時 23 分から，土讃線は 09 時から，高徳



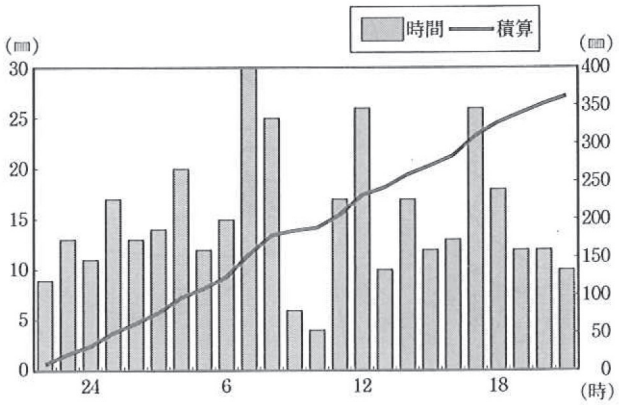


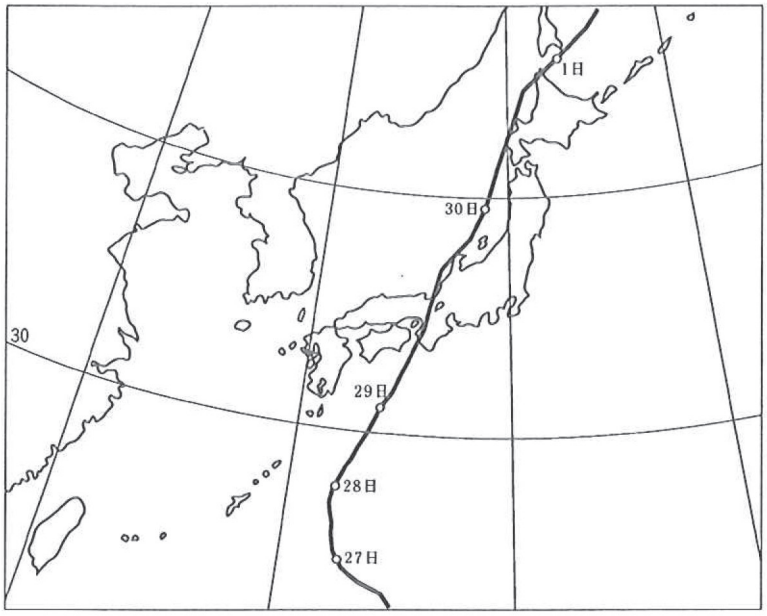
総雨量（㎜）

半田（9 月 28 日～ 9 月 29 日）



旭丸（9 月 28 日～ 9 月 29 日）



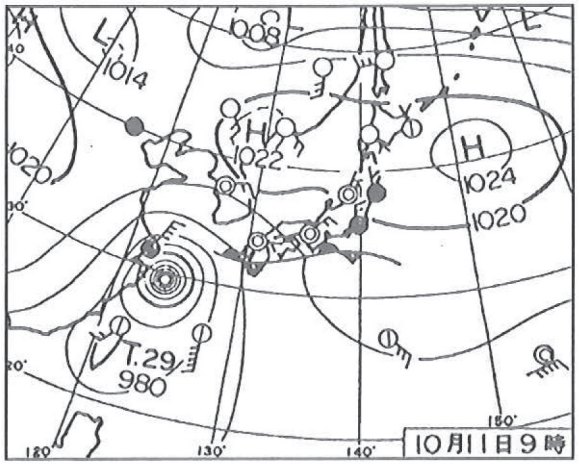


台風第 26 号　経路図

線は 14 時 06 分から，牟岐線と鳴門線は 19 時から，それぞれ 29 日の最終便まで運休した。鳴門市で 1 戸が家屋半壊，貞光町で 1 戸が床上浸水，床下浸水は，鳴門市 4 戸・川島町 3 戸・山川町 9 戸・穴吹町 1 戸であった。

山崖崩れ 6 箇所，道路損壊 207 箇所などが発生し，35 箇所で通行制限が実施された。通信施設は 698 回線で障害が発生した。その他，農作物被害は 39ha，農業用施設被害は 86 箇所，公共土木施設被害は 396 箇所，林業関係被害は 28 箇所などであった。

1994 年（平成 6 年）10 月 11 日～ 12 日　台風第 29 号

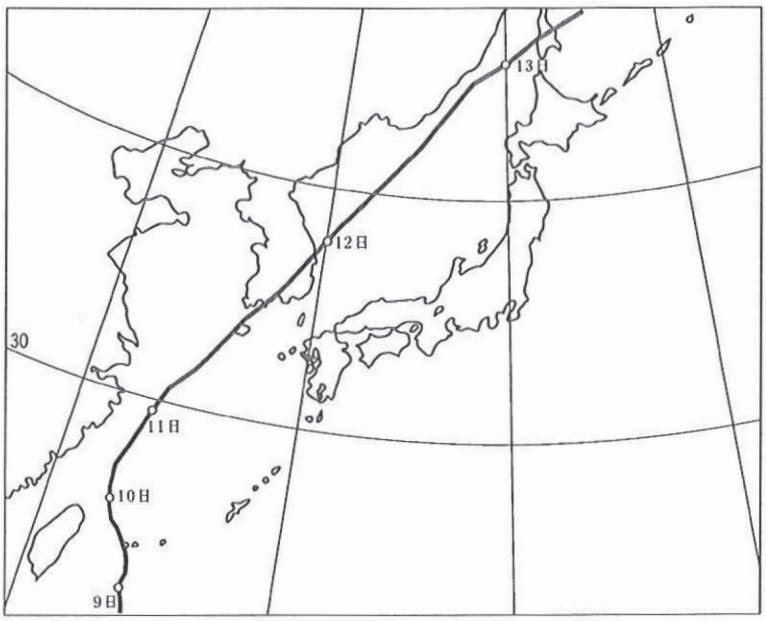


2 日 21 時にマーシャル諸島の西海上で発生した弱い熱帯低気圧は，西北西に進み，3 日 15 時にトラック島の北東海上で台風第 29 号になった。その後，西北西に進みながら発達し，8 日 03 時には大型で猛烈な勢力となってルソン島の北東海上に達した。9 日には南西諸島の南海上を北上し，22 時前に大型の非常に強い勢力で西表島付近を通過した。その後，東シナ海を北北東に進み，朝鮮半島から日本海に入り，12 日 12 時に温帯低気圧に変わった。

徳島県では，大きな被害はなかったが，11 時夜半ごろから 12 日の明け方にかけて沿岸部で風が強く吹いた。

最大風速は徳島で 12 日 04 時 00 分に南南東の風 11.3m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 12 日 04 時 41 分に南南東の風 20.0m/s を観測した。

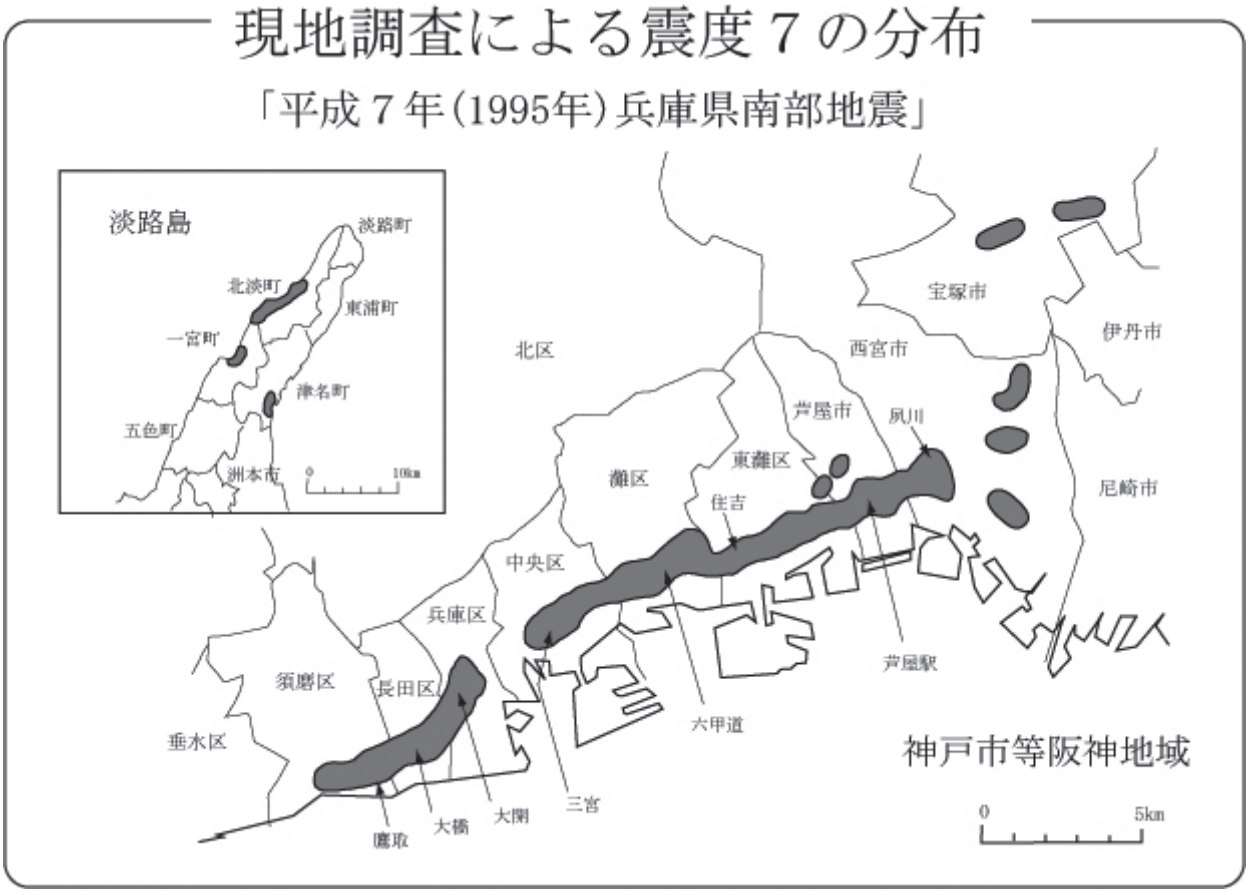
強風のため，12 日に航空 16 便とフェリー 8 便が欠航した。

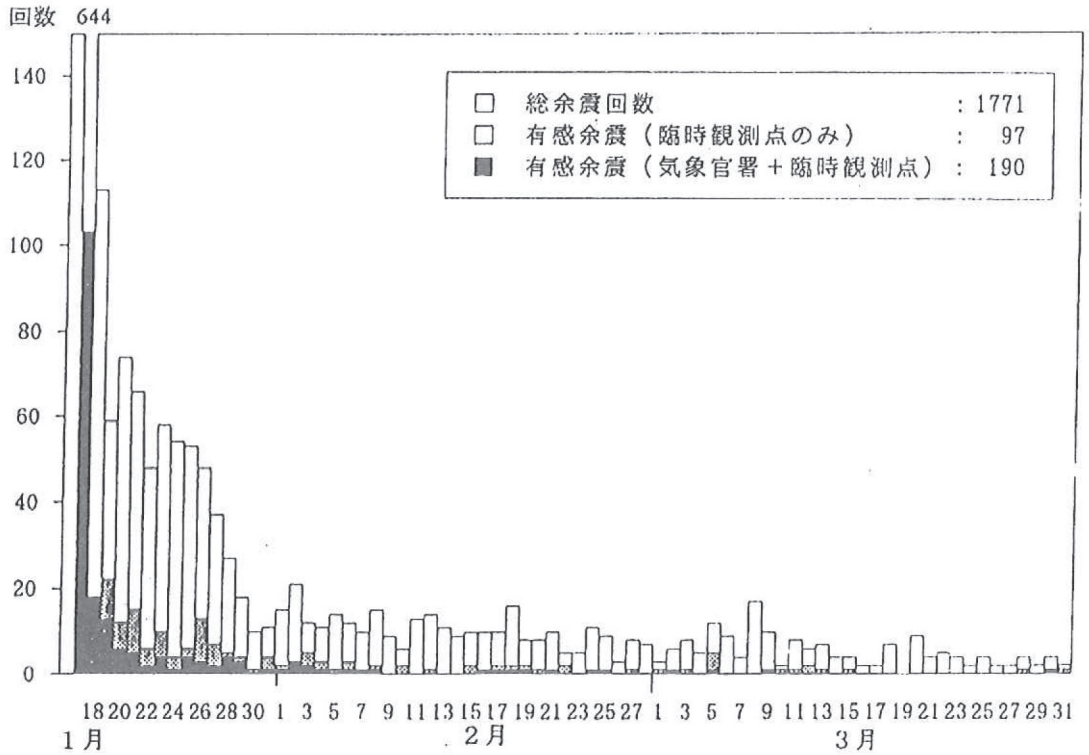


台風第 29 号　経路図

1995年

［平成７年］



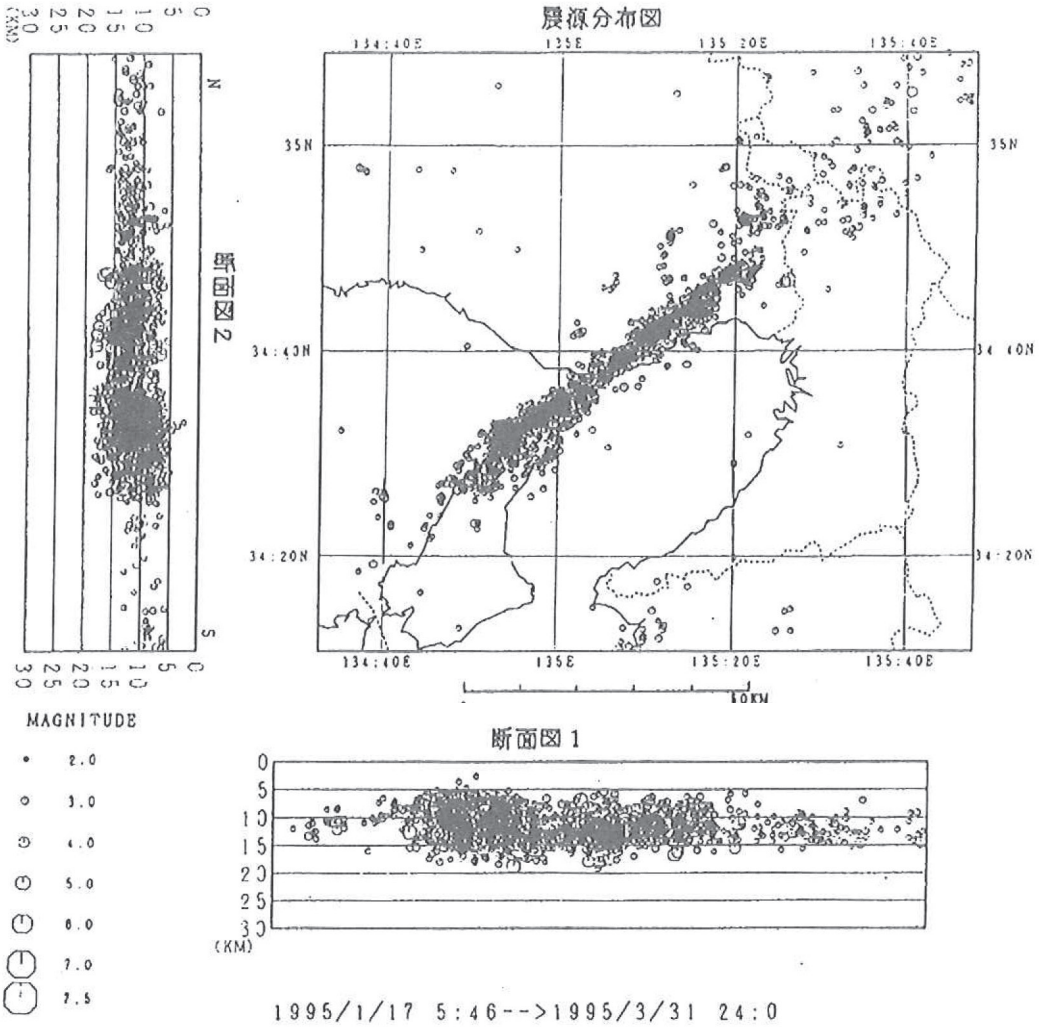


日別余震回数（1 月 17 日～3 月 31 日）

主な地震（最大震度 4 以上）

①	1 月 17 日 05 時 46 分（本震）	最大震度 7 （神戸市等阪神淡路地域）
②	05 時 49 分	最大震度 4 （神戸）
③	05 時 50 分	最大震度 4 （神戸）
④	05 時 53 分	最大震度 4 （神戸）
⑤	07 時 38 分	最大震度 4 （奈良）
⑥	08 時 58 分	最大震度 4 （神戸）
⑦	1 月 21 日 21 時 12 分	最大震度 4 （北淡町）
⑧	1 月 23 日 00 時 33 分	最大震度 4 （北淡町）
⑨	1 月 25 日 23 時 15 分	最大震度 4 （神戸・西宮市・大阪西淀川）
⑩	2 月 18 日 21 時 37 分	最大震度 4 （洲本）

1995 年 1 月 17 日から 3 月 31 日までの地震活動



05 時 46 分に淡路島北端部を震源とするマグニチュード 7.2 の地震が発生，この地震により神戸と洲本で震度 6 を観測し，被害調査により淡路島北部の一部地域と神戸市・芦屋市・西宮市・宝塚市にかけての帯状地域を震度 7 と判定した。

阪神・淡路大震災　被害

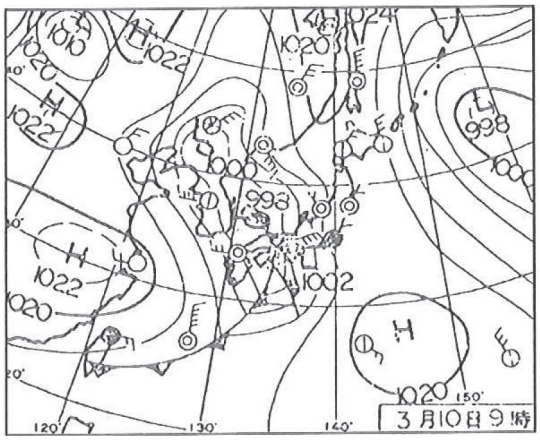
		徳島市	鳴門市	石井市	穴吹町
重傷			7	2	
軽傷		1	11		
全壊	棟		4		
	世帯		5		
	人		9		
半壊	棟		84		
	世帯		86		
	人		226		
一部破損	棟		1,089		
	世帯		1,125		
	人		3,530		
非住家・その他			68		
文教施設（カ所）			17		
病院（カ所）		1			
港湾（カ所）			4		
水道（戸）			357		
電気（戸）			4,750		
水道施設（カ所）			17		
その他（カ所）		2	8		1

未曾有の都市大災害となったこの地震を気象庁は，「平成7年（1995年）兵庫県南部地震」と命名した。

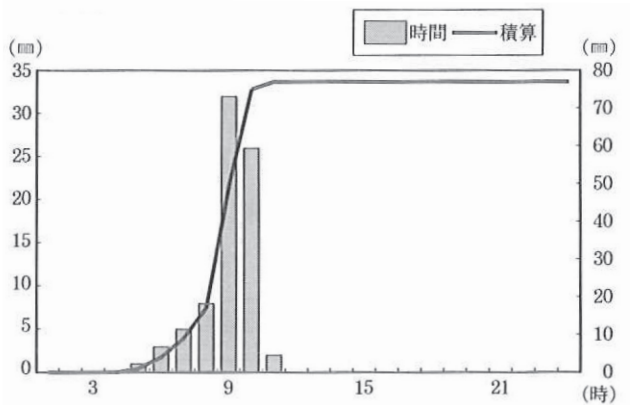
地震による被害は兵庫県を中心に極めて甚大であり，死者は6,000名を超え，政府はこの地震による災害を「阪神・淡路大震災」と呼称することとしている。この地震により，各府県の防災計画が大幅に見直された。

徳島県内で観測された震度は，徳島及び那賀町（旧相生町）の震度4であるが，被害状況から鳴門市ではより大きい震度の領域があったと推定される。県下の被害は，重傷9，負傷12名であった。地域別では，重傷は鳴門市7名・石井町2，軽傷は徳島市1名・鳴門市11名であった。全壊家屋は鳴門市4棟，半壊家屋は鳴門市84棟，一部損壊は鳴門市1,089棟と，震源に近い鳴門市に被害が集中し，地震に驚いて窓から飛び出しての大怪我もあった。

名西郡石井町では棚からの落下物による腰椎圧迫骨折1，トイレでの転倒で骨盤骨折した者1名であった。



日和佐（3月10日）



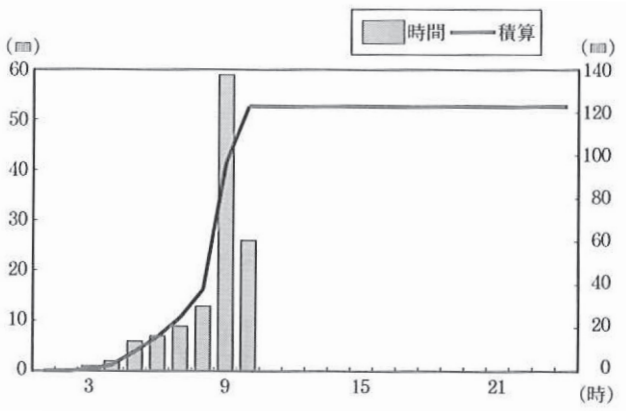
1995 年（平成 7 年）3 月 10　低気圧

発達した低気圧が前線を伴って山蔭沖を通り，前線が西日本を通過した。四国南岸で前線閉寒点に低気圧が発生し，県南部の宍喰や日和佐で局地的な大雨が降った。また，沿岸部では強風が続いた。

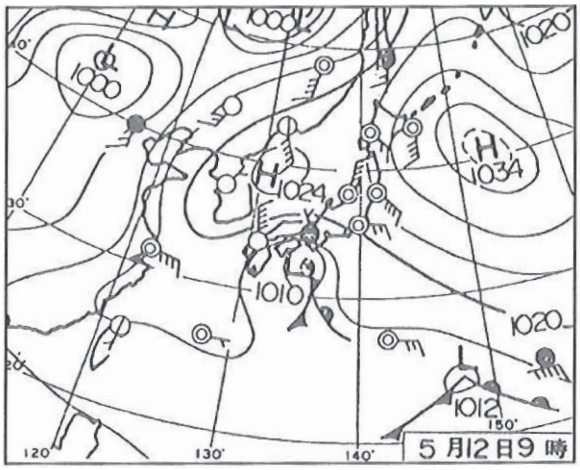
最大風速は蒲生田で 10 時に東南東の風 12m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 14 時 51 分に西北西の風 22.5m/s を観測した。

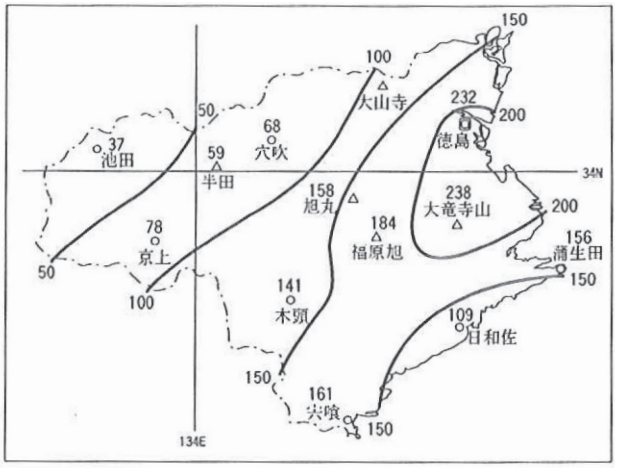
日降水量の最大値は宍喰で 123㎜を観測，1 時間降水量の最大値は宍喰で 08 時から 09 時までの間に 59㎜を観測した。

宍喰（3 月 10 日）



強風のため航空 5 便とフェリー 10 便が欠航し，強雨のため JR 牟岐線の由岐－牟岐間で朝から 13 時ころまで運休した。





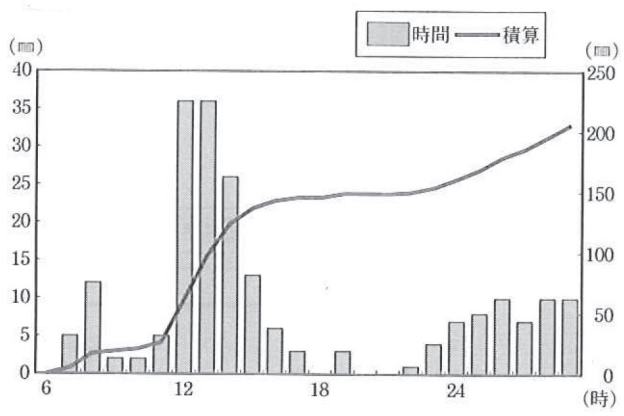
総雨量（㎜）

1995 年（平成 7 年）5 月 11 日～ 12 日　低気圧

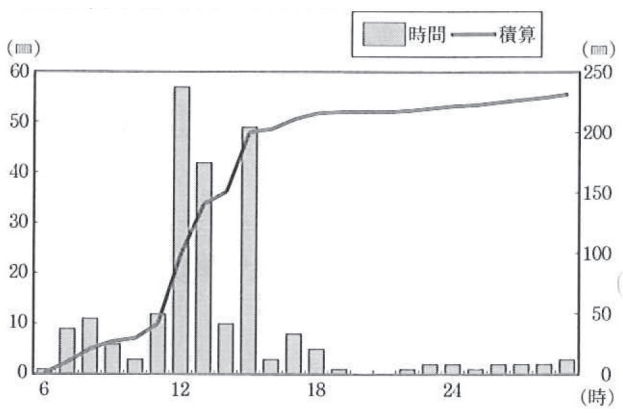
日本海北部の低気圧から南にのびる寒冷前線が，11 日昼前に四国の東部を通過した。また，11 日 03 時に足摺岬沖で発生した低気圧が，15 時ころ室戸岬付近に進み，12 日 09 時に潮岬付近に達した。このため，雷の発生したところもあり，各地で短時間に強い雨が降った。

最大風速は日和佐で 11 日 12 時に東の風 13m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 11 日 07 時 39 分に南南東の風 22.0m/s を観測した。

徳島（5 月 11 日～ 5 月 12 日）



太竜寺山（5 月 11 日～ 5 月 12 日）

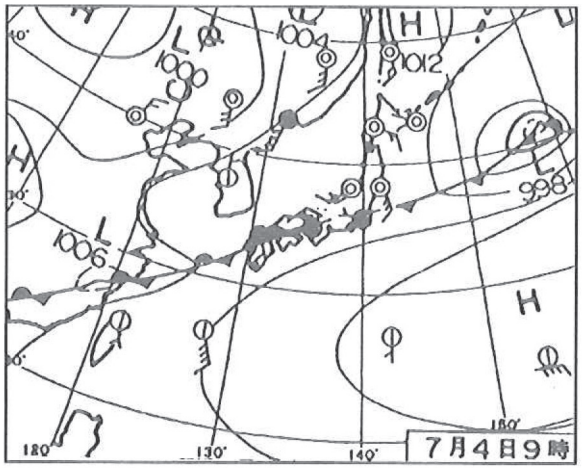


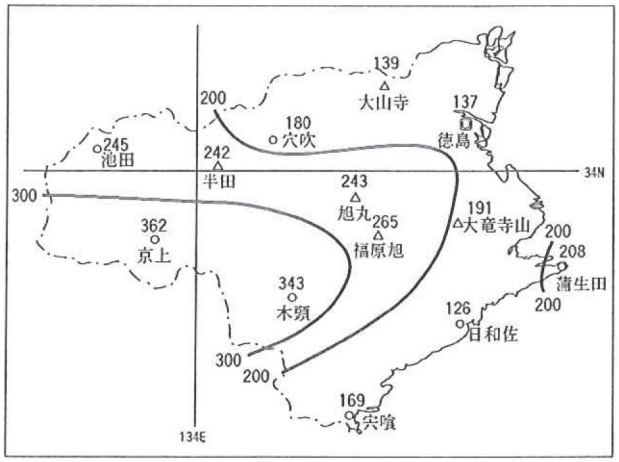
総降水量の最大値は阿南市の太竜寺山で，10 日 21 時から 12 日 10 時までの間に 241㎜を観測，

日降水量の最大は太竜寺山で 11 日に 222㎜を観測した。1 時間降水量の最大値は太竜寺山で，11 日 11 時から 12 時までの間に 57㎜を観測した。

強風と突風のため，航空 10 便が欠航し，JR 牟岐線で特急 1 便と牟岐一海部間で 4 便が運休した。

11 日午後に阿南市長生町の岡川が増水して 2 世帯が床上浸水し，3 戸が避難した。小松島市では 8 世帯が床上浸水し，70 世帯が床下浸水した。阿南市では 2 世帯が床上浸水し，12 世帯が床下浸水した。その他，羽ノ浦町 1 世帯と勝浦町 2 世帯が床下浸水した。





総雨量（㎜）

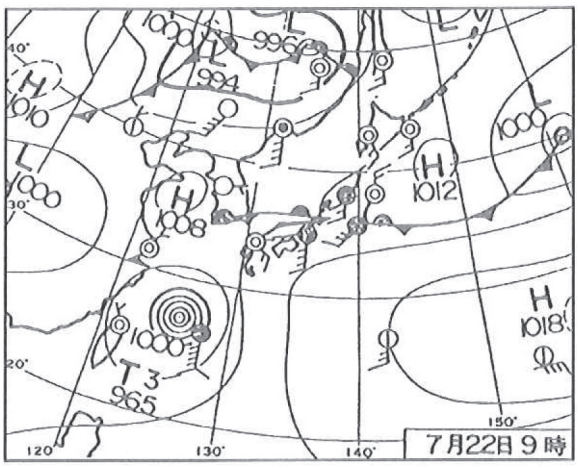
1995 年（平成 7 年）7 月 2 日～ 5 日　停滞前線

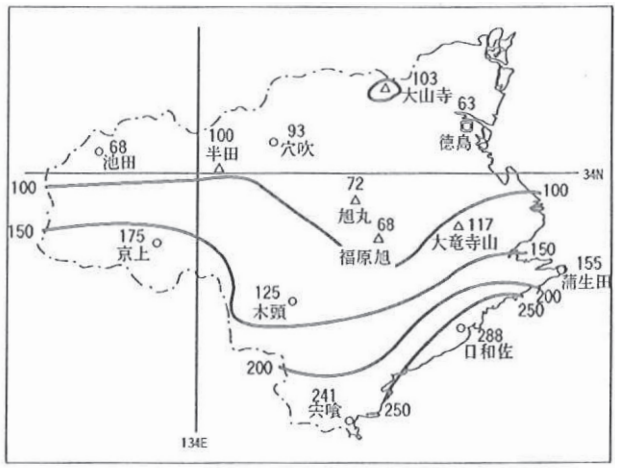
2 日に気圧の谷が通過し，山蔭沖まで北上していた梅雨前線が 3 日夜には四国の南海上まで南下した。4 日にはやや北上して四国付近に停滞し，前線に南海上から暖かく湿った気流が流入して，大気は極めて不安定になった。このため強い積乱雲が発生し，3 日から 4 日にかけて所々で雷を伴った強い雨が降った。

総降水量の最大値は東祖谷山村の京上で，2 日 04 時から 5 日 23 時までの間に 346㎜を観測，日降水量の最大値は木頭で 4 日 143㎜を観測した。1 時間降水量の最大値は池田で，3 日 10 時から 11 時までの間に 46㎜を観測した。

4 日は三好郡東祖谷山村で山崩れが発生し，住家 1 戸が全壊したが住人は不在で無事だった。5 日午後 10 時ころ小松島市中田町で山崩れがあり，住家が半壊したが負傷者は無かった。その他，大雨と強雨により，井川町と鴨島町でそれぞれ 2 戸が床下浸水した。海南町・脇町・穴吹町の合計 3 箇所で山崖崩れが発生し，木沢村では落石が発生した。道路は鳴門市・徳島市・小松島市の合計 3 箇所で冠水し，125 箇所で道路損壊が発生した。

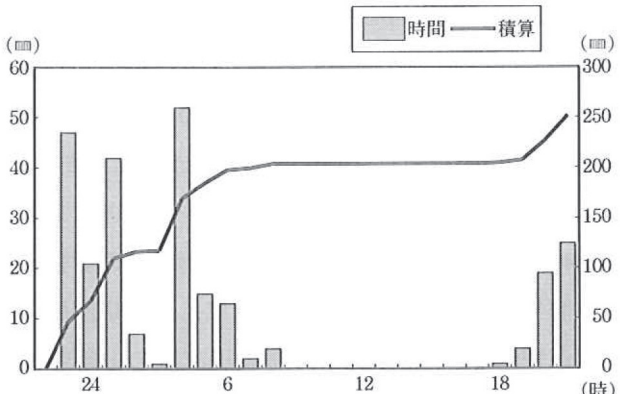
1995 年（平成 7 年）7 月 21 日～ 23 日　太平洋高気圧縁辺での大雨





総雨量（㎜）

日和佐（7 月 21 日～7 月 22 日）



台風第 3 号が 21 日夜に沖縄付近を通り，東シナ海を北上して 23 日 09 時ころ長崎の西方海上を通って夕方，朝鮮半島南部に上陸した。一方，梅雨前線は 21 日から 22 日にかけて山陰沿岸に停滞し，太平洋高気圧の縁辺をまわる暖湿気が流入して，大気の状態は極めて不安定になった。このため，積乱雲が発達して所々で雷雨が発生し，県南部ではヒョウが降った。

総降水量の最大値は日和佐で，21 日 22 時から 23 日 01 時までの間に 288㎜を観測，日降水量の最大値は日和佐で 22 日に 219㎜を観測した。1 時間降水量の最大値は日和佐で，22 日 03 時から 04 時までの間に 52㎜を観測した。

21 日 14 時ころ，JR 小松島駅で落雷のため信号機が故障し，列車に 10 分から 20 分の遅れがでた。

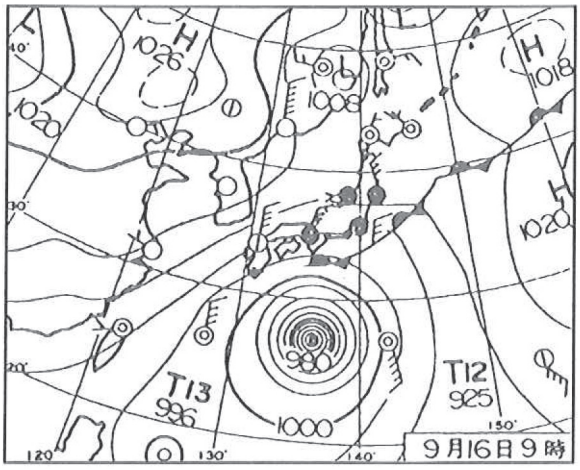
21 日 15 時 15 分ころ，阿南市や那賀郡那賀川町でヒョウが降り家屋が一部破損した。阿南市では葉タバコ畑に直径およそ 5㎝のヒョウが降り，葉が痛んだり茎が折れるなどの被害が発生した。羽ノ浦町では，駐車場の塩化ビニール屋根にヒョウが降り，直径およそ 6㎝の穴があいた。

22 日 05 時 30 分ころ，脇町の国道 193 号脇で山腹が崩壊し，通行止めとなった。また，土砂崩れで送電線が切断し，65 戸がおよそ 1 時間停電した。

22 日は大雨のため，JR 牟岐線で 5 本が全面運休し，由岐－海部間で上下 6 本が部分運休した。

23 日 03 時ころから 09 時前にかけて，小松島市の民家が雨による地盤の緩みでゆっくり倒壊した。負傷者は無し。

1995 年（平成 7 年）9 月 16 日～ 17 日　台風第 12 号



13 日 03 時にグアム島の北北東の海上で発生した台風第 12 号は，14 日 21 時までに大型で強い台風に発達した。15 日 00 時には大型で非常に強い勢力となり，更に発達しながら北上した。15 日 15 時には父島の南西海上に達し，超大型で非常に強い勢力となって，中心気圧は 925hPa まで低下した。その後，勢力を維持したまま次第に北東に向き変えて進み，17 日 03 時に東海沖に達した。09 時には八丈島の北およそ 30㎞の海上を通り，15 時には水戸市の東海上を通って，18 日 03 時に根室市の東海上で温帯低気圧になった。

最大風速は日和佐で 17 日 08 時に西北西の風 10m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 17 日 11 時 00 分に北西の風 20.0m/s を観測した。

超大型の台風だったが，徳島から遠く離れた東海上を通ったため，徳島県への影響は少なかった。

強風のため，航空 9 便とフェリー 14 便が欠航した。

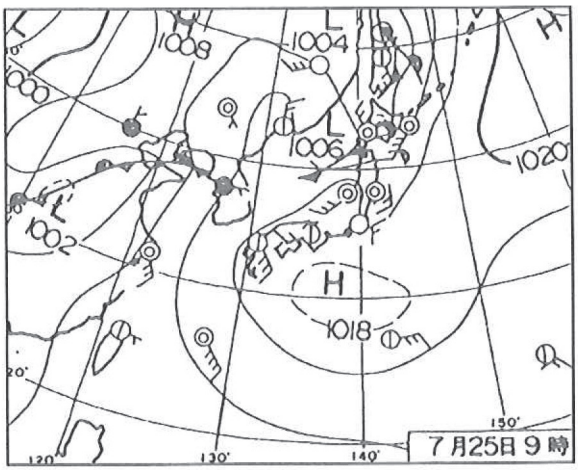
1995 年（平成 7 年）7 月 25 日～ 10 月 17 日　高温・少雨

梅雨明け後は太平洋高気圧におおわれ，暑い晴天が続いた。局地的ににわか雨や雷雨が降ったところもあるが，9 月中旬までは各地とも降水量は少なかった。8 月の降水量は，多いところの東祖谷山村京上でも 101㎜と少なく，平年比はわずか 37％であった。木頭では 85㎜で平年比 21％，特に少ないのは宍喰の 2㎜で平年比 1％であった。台風第 14 号の影響がでる前日の 9 月 21 日までの降水量は，那賀川流域の木頭が 126㎜で平年比 17％，勝浦川流域の上勝町福原旭は 80㎜で平年比 10％であった。

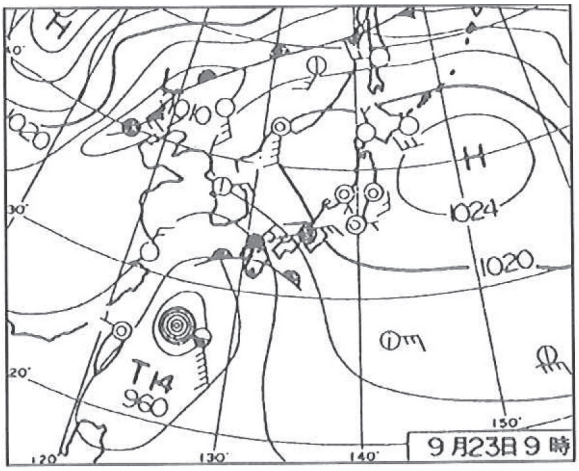
気温は全般に高く，徳島の 8 月の月平均気温は観測開始以来最高を記録した。真夏日は穴吹で 7 月 23 日から 41 日間続き，徳島では 7 月 23 日から 39 日間続いた。また，熱帯夜は徳島市で 7 月 30 日から 16 日間連続した。

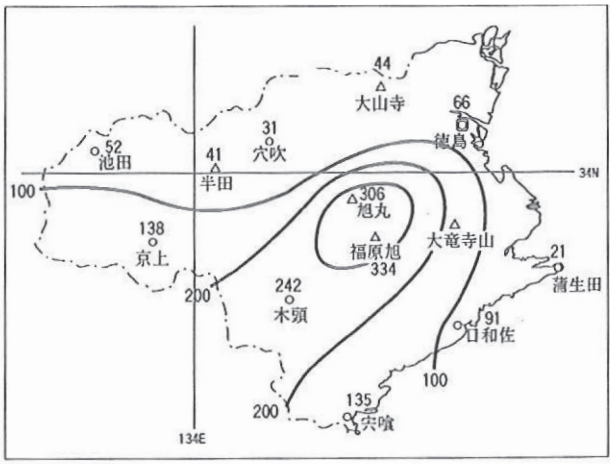
この高温と少雨のため，徳島県は 9 月 8 日から 10 月 17 日までの間，渇水対策本部を設置した。

主な被害は，農作物ではミカン・スダチ・ユズなど柑橘類と水稲・花卉などで，畜産ではブロイラー・乳牛などに暑熱による被害がでた。その他，森林の枯損や椎茸の生育不良などがあった。



1995 年（平成 7 年）9 月 22 日～ 24 日　台風第 14 号





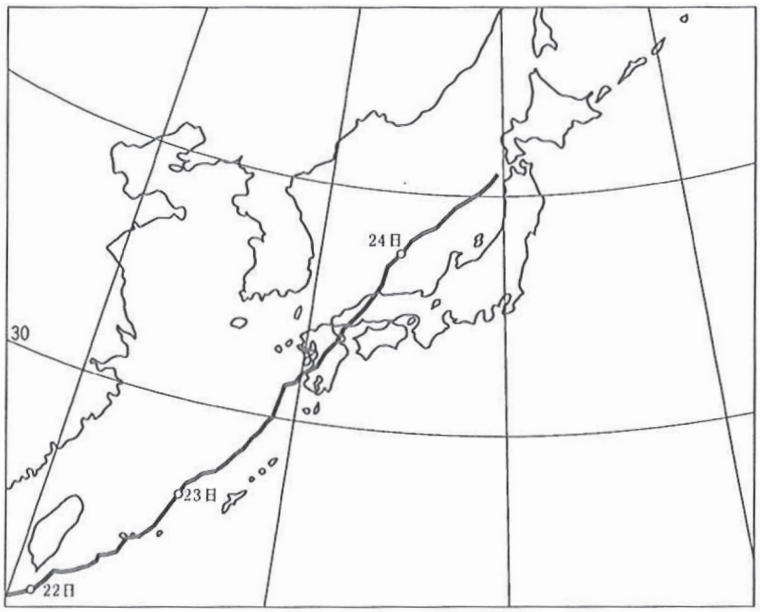
総雨量（mm）

15 日 09 時に南シナ海で発生した弱い熱帯低気圧は，16 日 15 時に同海域で台風第 14 号となった。18 日まで同海域にとどまったが，19 日から北寄りに進み，20 日には進路を次第に東北東に変えた。21 日 09 時に台湾の南西海上で大型で非常に強い勢力となり，23 日 00 時 30 分ころ中型の強い勢力で石垣島付近を通過した。その後，東シナ海に進み，24 日 00 時ころ鹿児島県に上陸，九州を横断して 24 日 04 時ころ小型で並の勢力となって山口県に再上陸した。その後は日本海を進み，24 日 18 時に温帯低気圧になった。

徳島県への最接近は 24 日 06 時ころで，このコースを進んだときの特徴として，徳島県では長時間にわたって強風が継続した。

最大風速は徳島で 24 日 06 時 00 分に南南東の風 16.0m/s を観測，最大瞬間風速は徳島で 24 日 06 時 21 分に南南東の風 29.8m/s を観測した。

総降水量の最大値は上勝町の福原旭で 22 日 06 時から 24 日 09 時まで



台風第 14 号　経路図

の間に 334㎜を観測，日降水量の最大値は上勝町の福原旭で 24 日 09 時までの間に上勝町の福原旭で 24 日に 208㎜を観測した。1 時間降水量の最大値は上勝町の福原旭で，24 日 06 時から 07 時までの間に 66㎜を観測した。

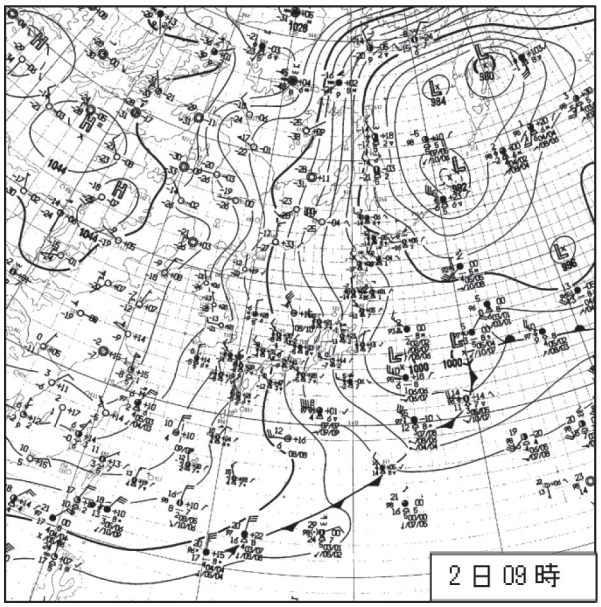
徳島県では大きな被害はなかったが，強風のためフェリーと高速船が 23 日から 24 日にかけて欠航した。また，24 日は強風のため航空便にも欠航が生じた。

大雨による被害は，道路損壊 39 箇所が発生した。鉄道は 24 日に牟岐線で 11 本，高徳線で 2 本が運休した。

1996年

［平成８年］

1996 年（平成 8 年）2 月 1 日～ 2 日　大雪（寒気の移流）



冬型の気圧配置が続いている中で，1 日から 2 日にかけて四国地方の上空に強い寒気が流れ込み，この影響により県西部の山地を中心に大雪となり，平地でも南部の一部を除き積雪となった。

2 日の最深積雪は京上で 30cm，半田で 18cm，上勝町福原旭で 10cm，徳島市で 3cmを観測した。

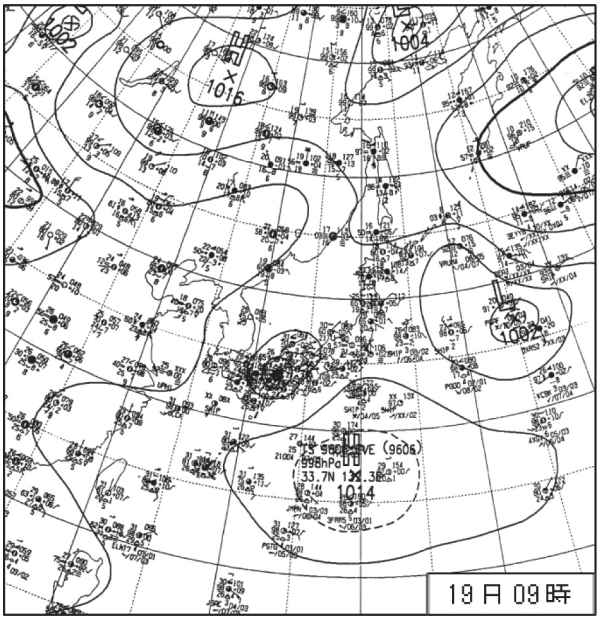
また，日最低気温は 2 日に東祖谷山村京上で－7.0℃，徳島市で－1.7℃を観測した。

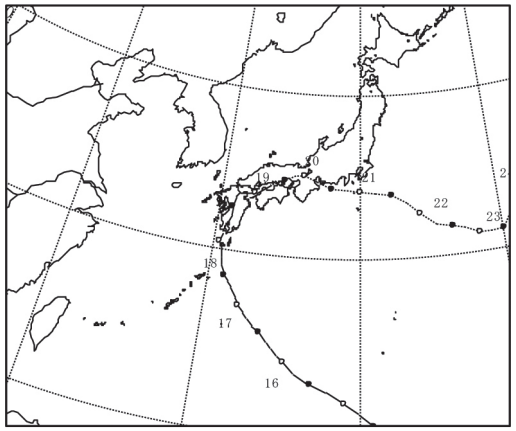
【災害概況】

交通機関：航空便 2 日（徳島－東京下り 1 便）（徳島－大阪 3 便）欠航（徳島－東京上下 3 便）遅延，バス 2 日山間部の路線は終日全面運休や折返し運転をした。2 日平野部の路線は，朝の山越え路線が運休し，また，徳島市を中心に都市部で始発から大幅にダイヤが乱れた。しかし，10 時頃にはすべて解消した。通行止め：徳島自動車道 2 日 02 時 05 分から 11 時 00 分まで，徳島市内の末広有料道路 2 日 04 時 30 分から 10 時 30 分まで，東祖谷山村，木沢－上那賀間で各 1 箇所積雪及び道路凍結で，交通事故が相次いだ。（2 日正午現在，県警調べ）人身事故 16 件 17 人，徳島市を中心に物損事故 163 件，スリップによる追突や正面衝突 9 件 17 人，転倒などによるけが人 9 件 9 人

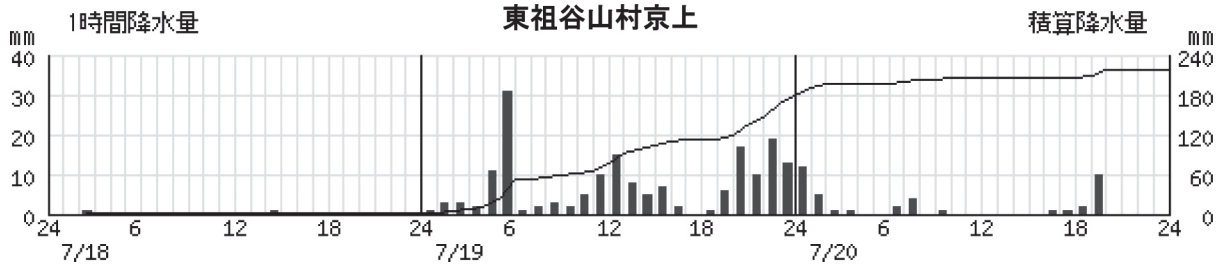
1996 年（平成 8 年）7 月 18 日～ 21 日　強風　大雨　波浪（台風第 6 号）

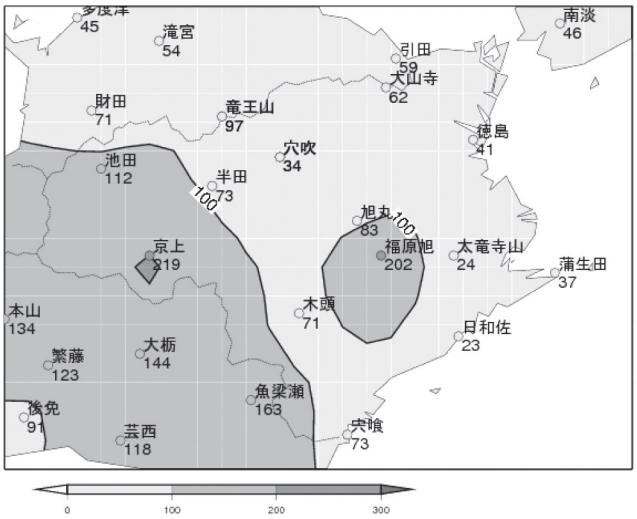
日本の南海上で発生した台風 6 号は，18 日 13 時過ぎ鹿児島県薩摩半島南部に上陸し，周防灘から瀬戸内海を東進し，19 日 12 時愛媛県今治市付近で弱い熱帯低気圧に変わり近畿地方を通過した。この台風により徳島県では沿岸部を中心に強風が吹き，山地を中心に大雨となった。





台風第 6 号　経路図





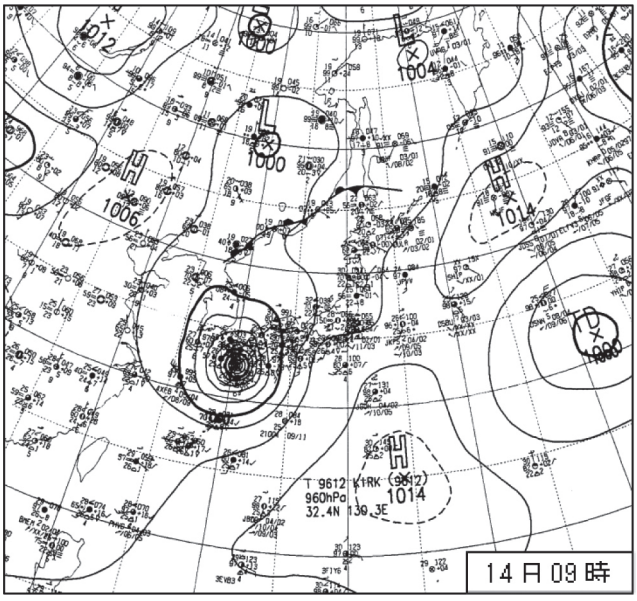
総降水量（mm）

徳島市では19日11時56分に南南東の風20.9m/sの最大瞬間風速を観測した。また，18日から20にかけての総降水量は東祖谷山村京上で219mmを観測した。

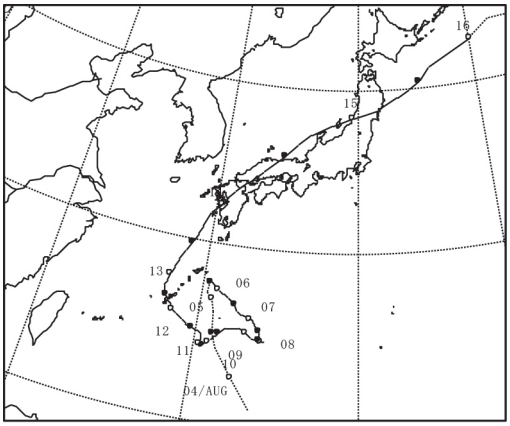
【災害概況】

交通機関:航空18日福岡便上下2便欠航，フェリー18日上下6便19日上下39便20日上下4便欠航，高速船18日上下18便19日上下54便(全便）欠航，床下浸水：1棟（石井町）通行止め：神山町阿野で高さ15m・幅15mにわたり山腹崩壊のため，19日11時から21日13時迄木沢村岩倉で，高さ25m・幅6mにわたり山腹崩壊のため20日17時30分から。脇町落合で山腹崩壊のため，21日3時20分から8時迄。徳島市上八万町の潜水橋冠水，19日10時30分から11時迄。川島町と市場町境の潜水橋冠水，19日22時50分から20日19時迄。公共土木関係被害額：3億1,720万円

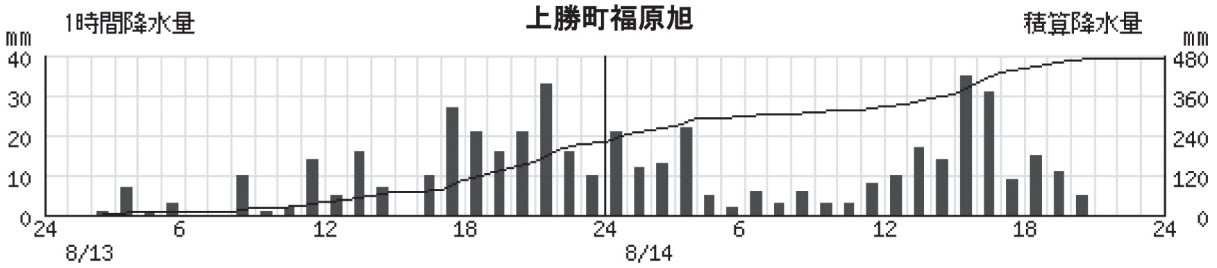
1996年（平成8年）8月13日～15日　強風　大雨　波浪（台風第12号）



奄美大島の南海上で発生した台風第12号は，14日10時過ぎに強い勢力で熊本市付近に上陸し，14日15時過ぎに山口県徳山市付近に再上陸して

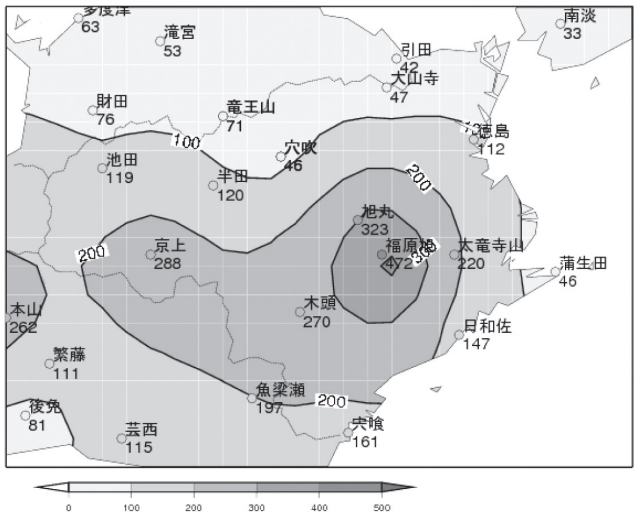


台風第12号　経路図



日本海に進んだ。この台風により徳島県では荒れた天気となった。

徳島市では最大風速が14日16時50分に南の風19.4m/s，最大瞬間風速は14日14時05分に南南東の風40.7m/sを観測した。また，神山町旭丸では14日に日降水量262mm，上勝町福原旭では13日から14日にかけての総降水量472mmを観測した。



総降水量（mm）

【災害概況】

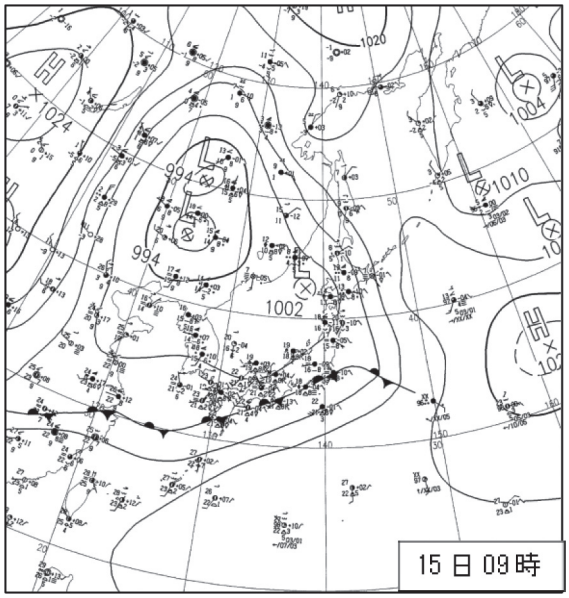
航空便：14 日上下 22 便（札幌・東京・名古屋・大阪・福岡便）欠航，フェリー：14 日上下 26 便，15 日上下 8 便，（和歌山・大阪・神戸便）欠航，高速船：14 日上下 50 便，15 日上下 4 便，（和歌山・大阪・神戸便）欠航，路線バス：14 日，徳島バス 150 本，徳島市営バス 90 本など，276 本が運休。また，鳴門市営バスは 16 時 20 分から全便運休。鉄道：土讃線（阿波池田－土佐山田）14 日 18 時 02 分以降運休。

死亡：14 日午後小松島の男性 64 才が，自宅倉庫の扉を修理中強風にあおられ転倒し，頭を強打して死亡した。軽傷：2（小松島市 1，藍住町 1），家屋半壊 1 棟（海南町），床下浸水 6 棟（鳴門），停電：8,885 戸 10 市町村で 14 日相次いで停電。池田町の一部と山城町では復旧は 15 日までかかったが，その他の市町村は 14 日のうちに復旧した。山複崩壊：6 箇所（木頭村 3，木沢村 2，相生町 1），通行止め：38 箇所，大鳴門橋 14 日 13 時 20 分から 22 時 00 分迄，高速道路（徳島－藍住）14 日 18 時 00 分から 21 時 25 分迄，農作物被害（水稲，なす，蓮根，かんしょ，ねぎ，梨，ゆず）：5 億 4,000 万円，耕地関係被害：1 億 1,800 万円，公共土木施設被害：11 億 3,788 万円

1997年

［平成９年］

1997 年（平成 9 年）5 月 15 日　濃霧（停滞前線　暖気の移流）

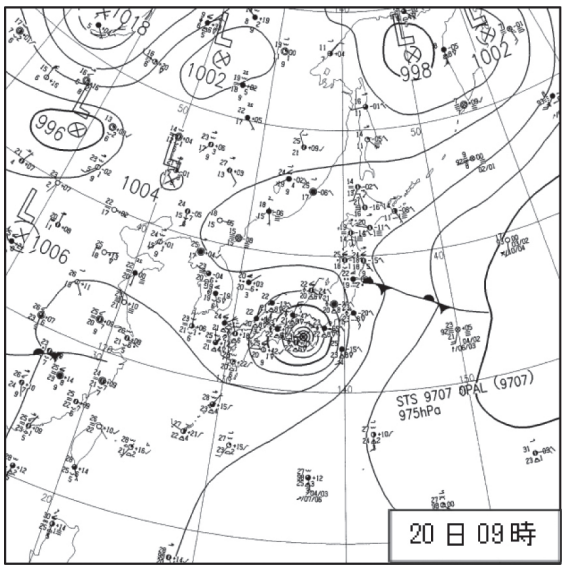


四国の南海上に前線が停滞し，南から暖かい湿った空気が流れ込んだ。この影響により徳島県では海上を中心に濃霧が発生した。

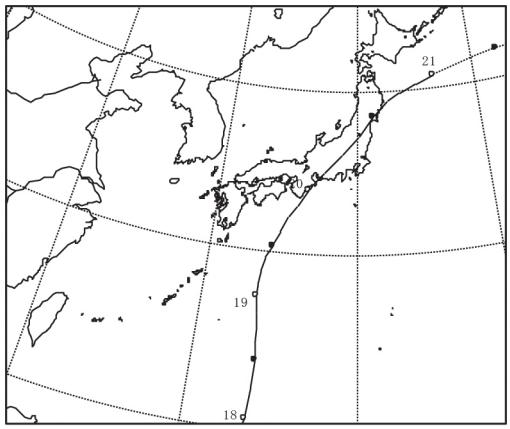
【災害概況】

15 日 08 時 40 分頃鳴門海峡の孫崎の東約 750m の海上で，南下していた貨物船「第八旭豊丸」（473t，5 人乗組み）の船首部が北上していた貨物船「第十六神幸丸」（199t，2 人乗組み）の船体の右舷中央部にほぼ直角に衝突した。弾みで「第十六神幸丸」は転覆漂流し，この船の乗組員 2 名は海に投げ出されたが，「第八旭豊丸」に救助され無事であった。乗組員によると，現場海域の視程は，100m 未満に落ちていたと思われる。高速船：鳴門－大阪上下 2 便欠航，徳島－神戸上下 2 便欠航，航空便：徳島－大阪上下 2 便欠航

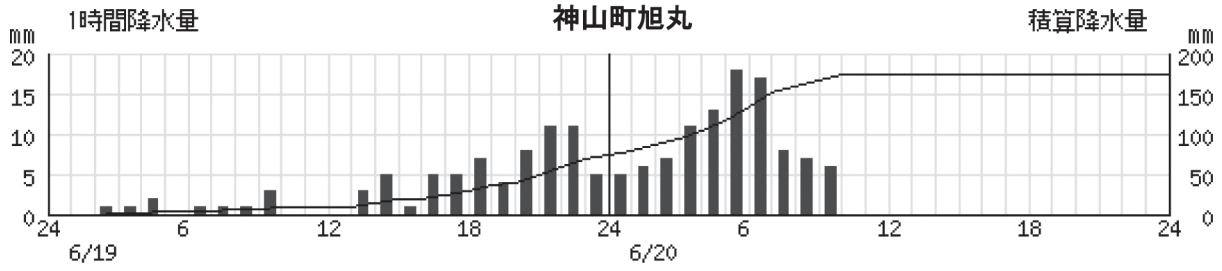
1997 年（平成 9 年）6 月 19 日～ 20 日　強風　大雨　波浪（台風第 7 号）



フィリピンの東の海上で発生した台風第 7 号は，四国の南海上を北北東に進み，20 日 11 時 30 分頃愛知県



台風第 7 号　経路図

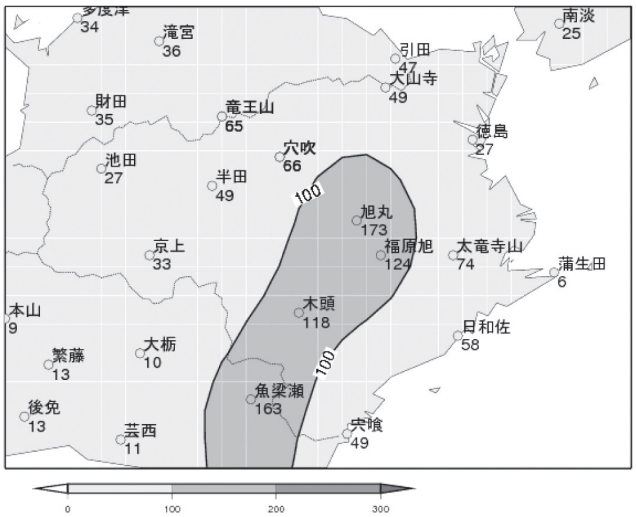


豊橋市付近に上陸した。この台風により徳島県では沿岸部を中心に強風が吹き，山地を中心に大雨となった。

徳島市では 20 日 07 時 24 分に北の風 18.3m/s の最大瞬間風速を観測した。また，19 日から 20 日までの総降水量は神山町旭丸で 173㎜を観測した。

【災害概況】

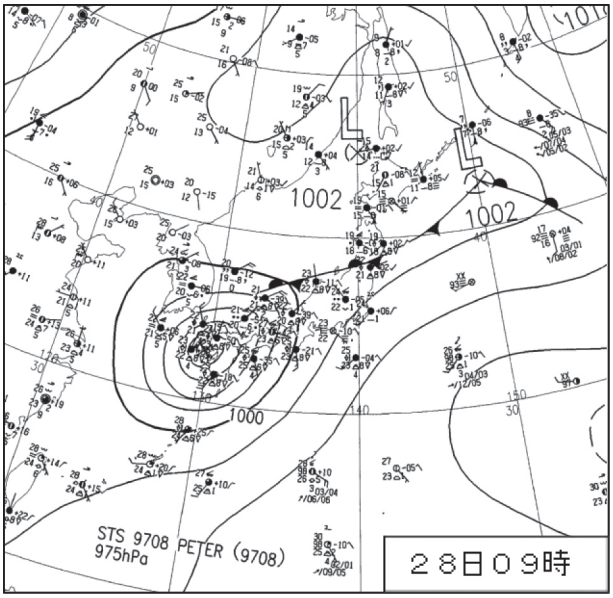
航空便：20 日上下 10 便（東京・大阪）欠航。フェリー：19 日上下 8 便，20 日上下 18 便（大阪・



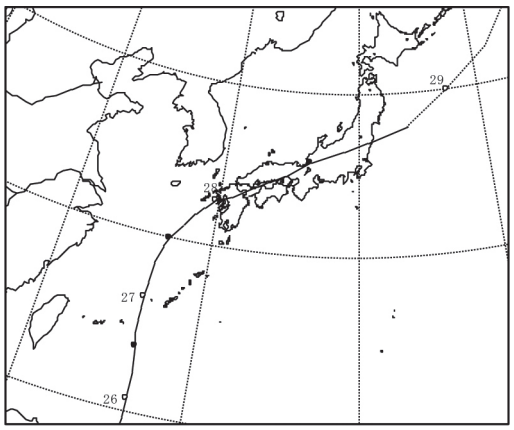
総降水量（mm）

和歌山）欠航。高速船：19 日上下 21 便，20 日徳島－大阪上下 16 便，その他神戸，和歌山行き全便（上下 30 便）欠航。通行規制：美郷村で路肩が決壊し，20 日 17 時 50 分から 23 日 16 時 00 分にかけ，大型車以上通行止め。宍喰町で山腹が高さ 3m，幅 3m にわたり崩壊し，20 日 08 時 00 分から 20 日 16 時 30 分にかけ大型車以上通行止め。一宇村で山腹から直径 2 ～ 4m の岩が 7 個落下し，22 日 11 時 40 分から全面通行止め。災害発生の危険があるため，2 ヶ所。公共土木施設被害：3 億 8,000 万円。農作物被害（れんこん，桃）：1,200 万円。

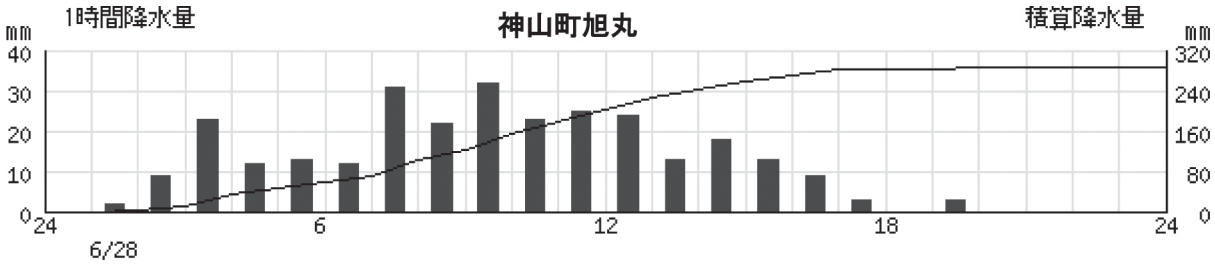
1997 年（平成 9 年）6 月 27 日～ 28 日　強風　大雨　波浪（台風第 8 号）



フィリピンの東海上で発生した台風第 8 号は発達しながら北上し，28 日 09 時過ぎに長崎県西彼杵半島に上陸した。その後，九州北部地方を横断し



台風第 8 号　経路図

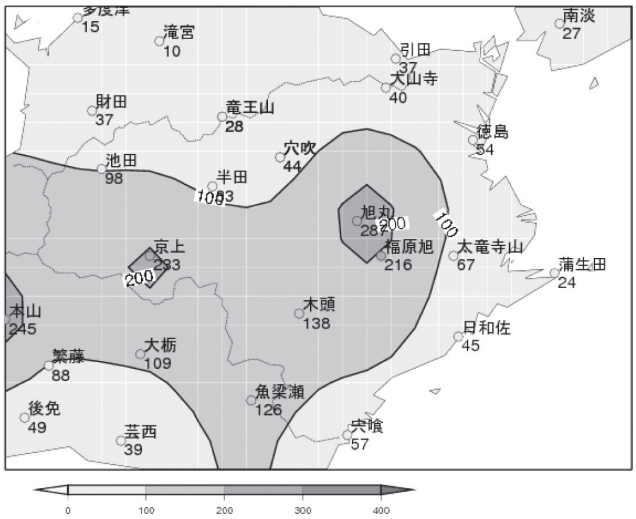


瀬戸内海を通って，28 日 17 時前に岡山県に再上陸した。この台風により徳島県では荒れた天気となり，山地を中心に大雨となった。

徳島市では最大風速が 28 日 12 時 20 分に南の風 15.1m/s，最大瞬間風速は 28 日 12 時 19 分に南の風 33.0m/s を観測した。また，神山町旭丸では 28 日に日降水量 287㎜を観測した。

【災害概況】

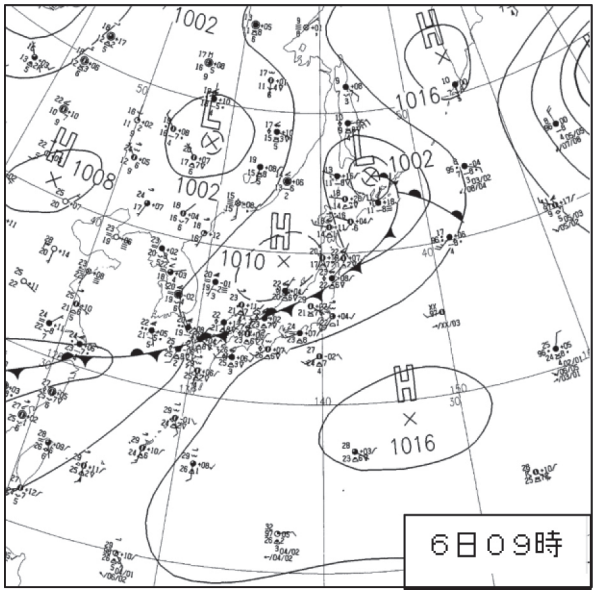
航空便：28 日上下 28 便 (東京・大阪・福岡，鹿児島，千歳，名古屋）欠航。フェリー：28 日上下 30 便，29 日上下 7 便（大阪・和歌山）欠航。高速船：28 日上下全 54 便（大阪，神戸，和歌山）

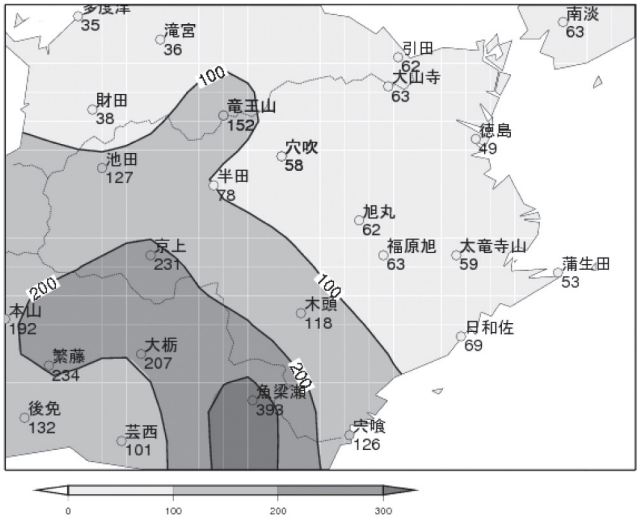


総降水量（㎜）

欠航。路線バス：28 日徳島バス高速便上下 4 便（大阪）一般路線 17 時以降山間部路線 16 時以降，鳴門市営バス淡路路線 2 往復一般路線 17 時以降，小松島市営バス 18 時以降運休。通行止め：大鳴門橋 28 日 10 時 10 分～ 18 時 55 分。通行規制：「山・崖崩れ」宍喰町，海南町，上勝町，佐那河内村，貞光町，一宇村各 1 ヶ所，神山町 2 ヶ所。「石積み崩壊」1 ヶ所。「潜水橋」9 ヶ所。「その他」15 ヶ所。このうち 31 ヶ所は 29 日迄に解除。停電：28 日小松島市 13 時 21 分～ 13 時 57 分 275 戸，西祖谷山村 13 時 38 分～ 20 時 18 分 1,796 戸，鳴門市 16 時 44 分～ 18 時 19 分 211 戸。農作物被害（なし，もも，たばこ，れんこん，水稲）：1 億 8,400 万円。

1997 年（平成 9 年）7 月 6 日～ 11 日　大雨　波浪　長雨（停滞前線）





総降水量（㎜）

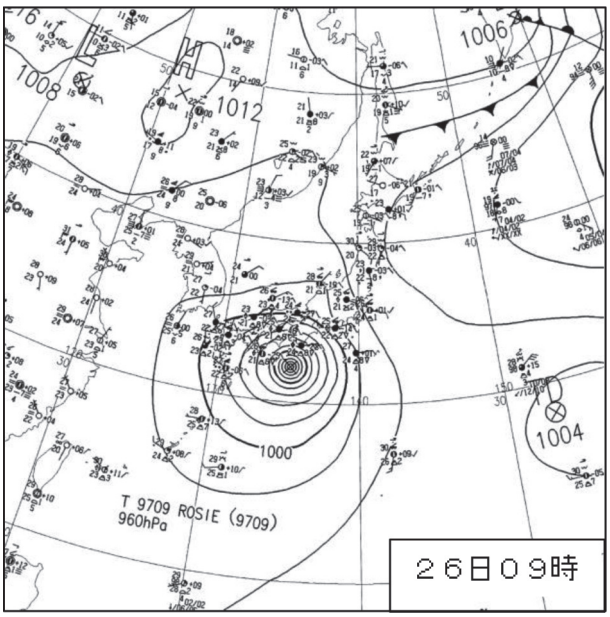
梅雨前線が 6 日から 7 日にかけて日本海中部から瀬戸内海付近まで南下し，11 日にかけて停滞した。この影響により徳島県では，南部から西部にかけての山地を中心に大雨となった。

東祖谷山村京上では 6 日から 11 日までの総降水量 231㎜を観測した。

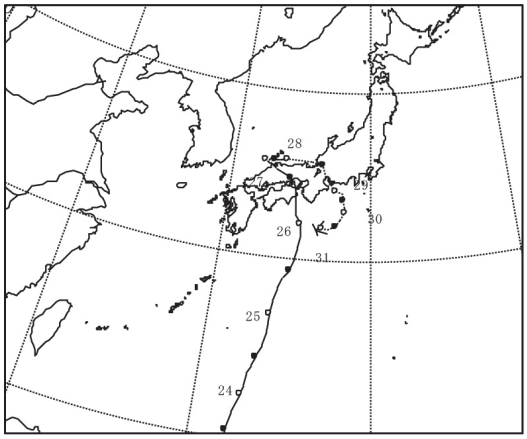
【災害概況】

高速船 6 日上下 10 便，7 日上下 13 便欠航。山腹崩壊：8 日 18 時 30 分から 10 日 07 時 00 分にかけて，三好郡西祖谷山村の村道で 5㎥の土砂が崩れ落ち片側交互通行。10 日 08 時頃，那賀郡木沢村の国道で，山肌が 15m の高さから崩れ，岩や土砂約 135㎥が長さ約 15m にわたり国道をふさぎ全面通行止め。17 日には時間通行制限に切り替わった。鉄道：9 日午前 10 時 56 分頃，三好郡三加茂町の徳島線で路盤が長さ 1.5m，幅 1.5m に渡って流された。12 時 15 分頃から敷石をつめ 12 時 50 分頃復旧し，13 時から運転を再開，14 時 30 分頃から平常運転。この間，阿波加茂と阿波池田の区間で運行を見合わせ。この影響で特急が 1 本運休，普通列車は上下 4 本部分運休。その他三好郡三加茂町，井川町，山城町の町道で路肩が崩れた。農業施設（三加茂町の段々畑の崩壊など）被害：6 箇所 1,200 万円。公共土木施設被害：2 億 3,820 万円。

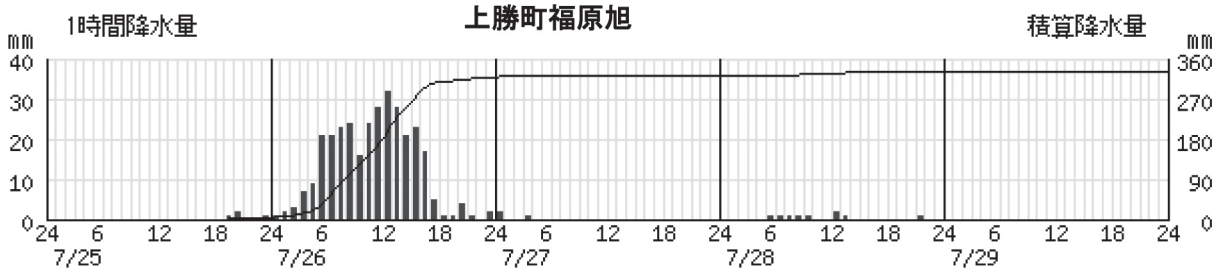
1997 年（平成 9 年）7 月 25 日～ 28 日　強風　大雨　波浪（台風第 9 号）



フィリピンの東海上で発生した台風第 9 号は，日本の南海上を発達しながら北上し，26 日 17 時過ぎに徳島県阿南市付近に上陸した。その後，26 日

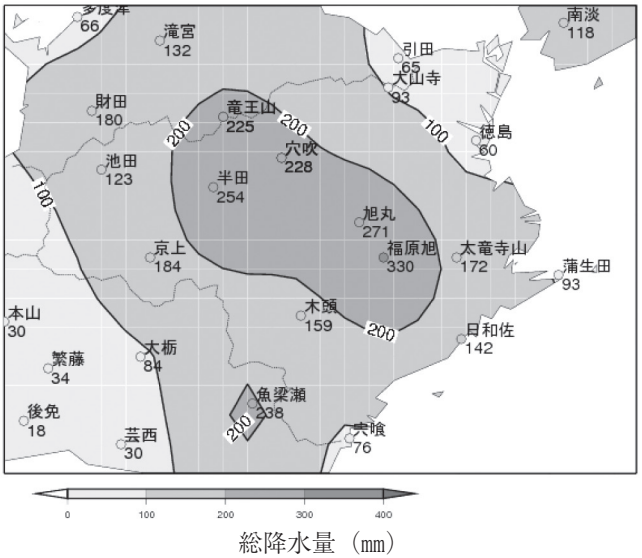


台風第 9 号　経路図



21 時前に岡山県備前市付近に再上陸し中国地方を横断した。この台風により徳島県では 26 日早朝から雨，風とも強まり，27 日早朝まで強風が続いた。

徳島市では 26 日 15 時 12 分に北東の風 23.2m/s の最大瞬間風速を観測した。また，上勝町福原旭では 25 日から 28 日にかけての総降水量 330㎜を観測した。

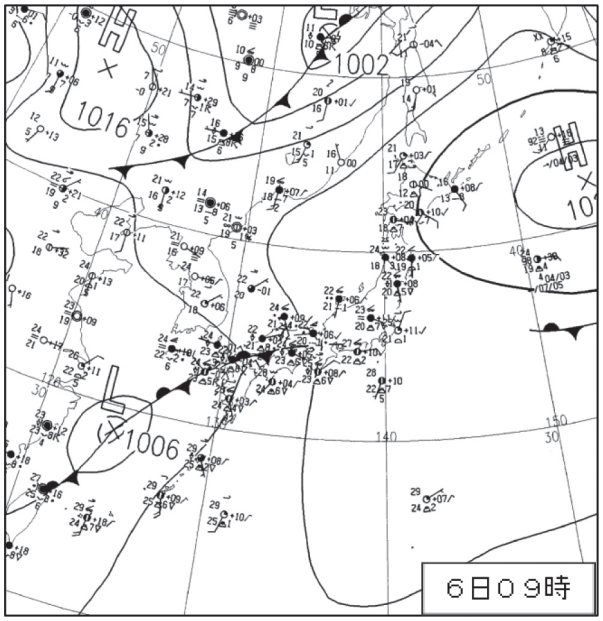


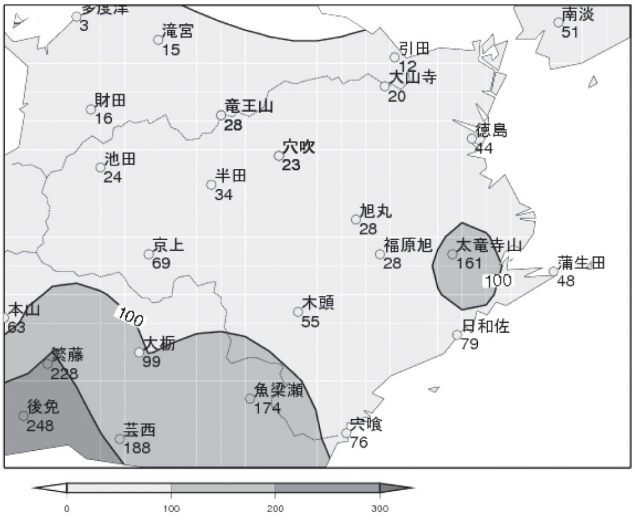
【災害概況】

フェリー：25 日上下 9 便，26 日上下 40 便（全便），27 日上下 15 便欠航。高速船：25 日上下 19 便，26･27 日上下 108 便 (全便) 欠航。バス路線：26 日徳島市営 18 時から，小松島市営，徳島バス 13 時 30 分から，県外路線始発から，鳴門市営 12 時 00 分から，徳バス南部 13 時 00 分から，四国交通祖谷線 08 時 30 分から全便と 27 日 2 便運休。航空便：25 日上下 2 便（名古屋），26 日東京行き始発以外全便，27 日上下 2 便（大阪）欠航。鉄道：26 日牟岐線始発から，高徳線，徳島線 09 時から，土讃線特急 1 便，普通便 09:30 から運休。停電：26 日 10:00 ～ 11:00 の間，数分から数十分 16 市町村で 12,924 戸。家屋一部破損：阿南，脇町，貞光各 1，市場 2 棟。床下浸水：鳴門 8，穴吹 1 棟。山腹崩壊・落石：神山，木屋平，脇町，三好，池田各 1，穴吹 2，貞光 3 箇所。路肩崩壊：美郷 1，貞光 2 箇所他。通行規制：49 箇所，5 箇所を除き 28 日までに解除。畜産施設（豚舎，堆肥舎の屋根破損）被害：土成町 2 箇所 400

万円。農産物被害（水稲，連根，なす，梨，桃，柿，みかん，煙草）：4,890.2ha，15 億 1,300 万円。公共土木施設被害：9,191 万 2 千円。災害対策本部設置：徳島市他 25 市町村

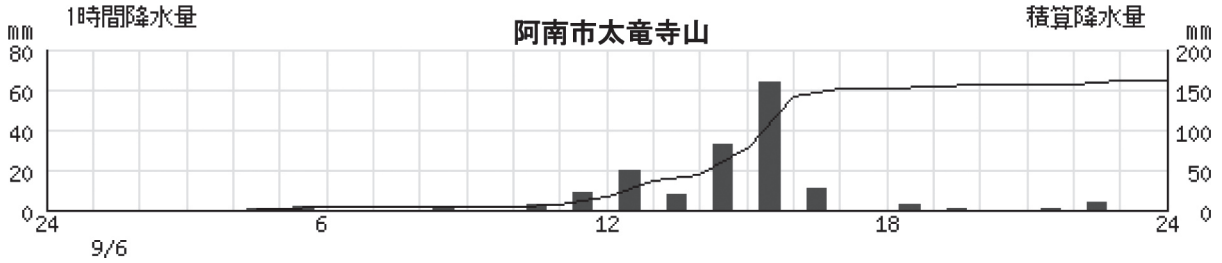
1997 年（平成 9 年）9 月 6 日　大雨（停滞前線）





総降水量（mm）

東シナ海の低気圧から瀬戸内海付近にのびる前線が停滞し，この前線に向かって南海上から暖かく湿った空気が流入したため，徳島県では局地的に強い雨が降り大雨となった。



阿南市太竜寺山では 6 日に日降水量 161㎜を観測，また，阿南市太竜寺山では 16 時 00 分までの 1 時間に 64㎜の非常に激しい雨を観測した。

【災害概況】

JR：11 時 30 分～ 13 時 57 分と 16 時 35 分～ 20 時 54 分に牟岐線の阿南駅－牟岐駅の間で上下 7 本運休。家屋一部破損：阿南市 1 棟。床上浸水：阿南市 21 棟。床下浸水：阿南市 169 棟，小松島市と那賀川町で 11 棟。堤防決壊：阿南市山口町の嵐谷川で 10m にわたり決壊し，隣接した田に土砂が流入した。道路損壊：阿南市 3 ヶ所道路冠水：阿南市富岡町の国道 55 号線で 200m にわたり冠水し，6 日 14 時から 23 時まで通行止め。阿南市見能林町の県道で 6 日午後から 7 日 06 時まで通行止め。山腹崩壊・落石：阿南市 1 ヶ所，相生町 1 ヶ所。農作物被害：冠水や浸水で阿南市内のさつまいも，ハウスみかん，水稲に 1,100 万円の被害が出た。

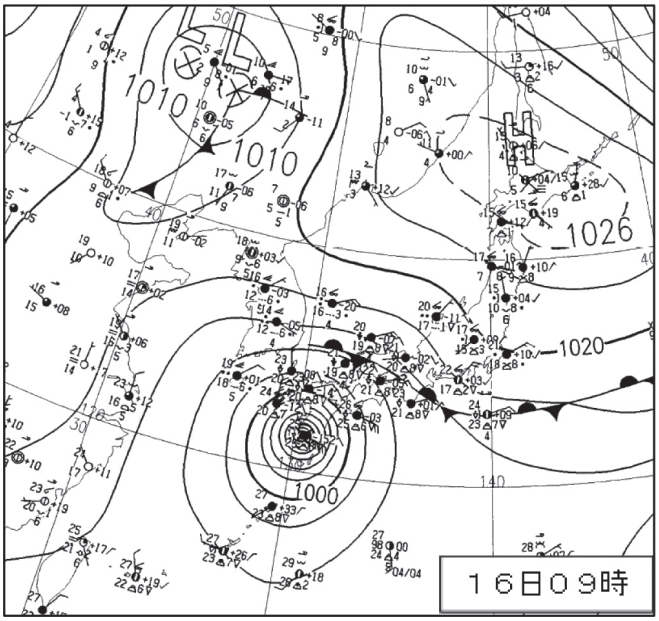
1997 年（平成 9 年）9 月 14 日～ 17 日　強風　大雨　波浪（台風第 19 号）

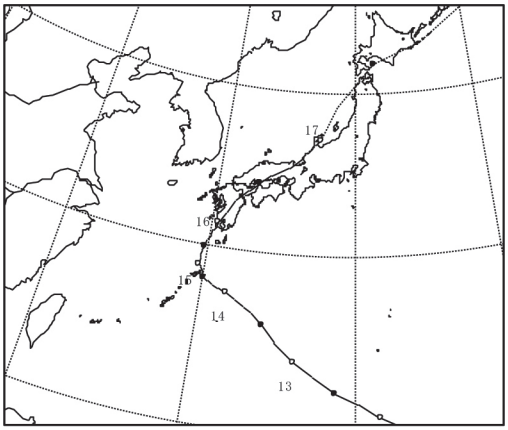
マーシャル諸島の東海上で発生した台風第 19 号は，16 日 08 時過ぎに強い勢力で鹿児島県枕崎市付近に上陸した後，勢力を弱めながら九州を縦断し，瀬戸内海を通って 17 日 00 時頃岡山県倉敷市付近に再上陸した。この台風により徳島県では大荒れの天気となり，山地を中心に大雨となった。

日和佐では最大風速が 16 日 21 時 00 分に東南東の風 23m/s，徳島市では最大瞬間風速が 16 日 21 時 14 分に南南東の風 34.2m/s を観測した。

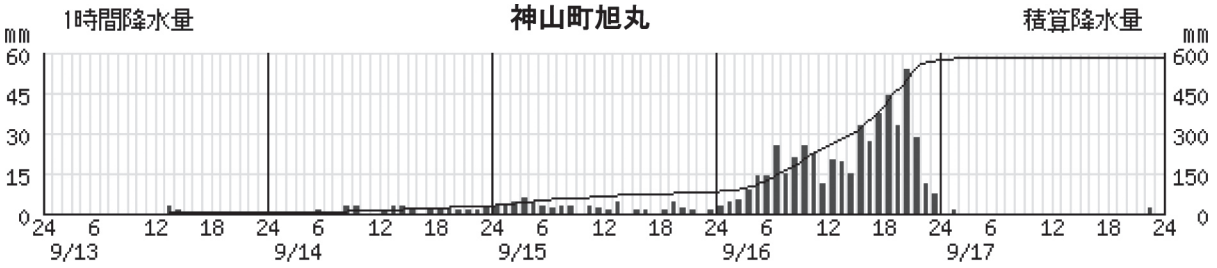
14 日から 17 日にかけての総降水量は神山町旭丸で 576㎜，上勝町福原旭で 563㎜，木頭で 507㎜

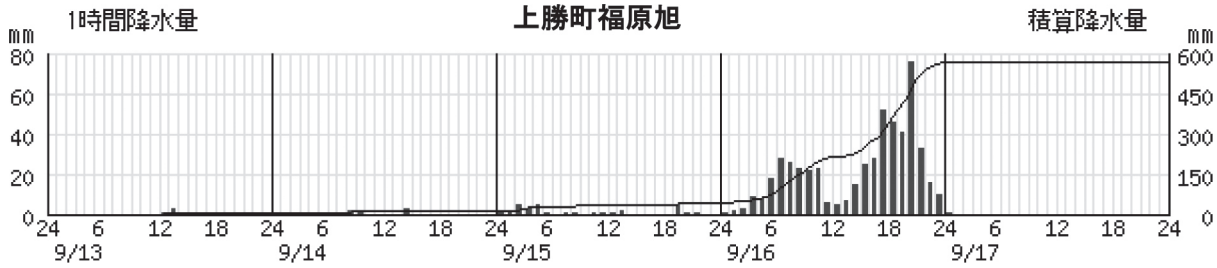
を観測した。また，上勝町福原旭では 16 日 21 時 00 分までの 1 時間に 76㎜，木頭では 16 日 20 時 00 分までの 1 時間に 66㎜の非常に激しい雨を観測した。





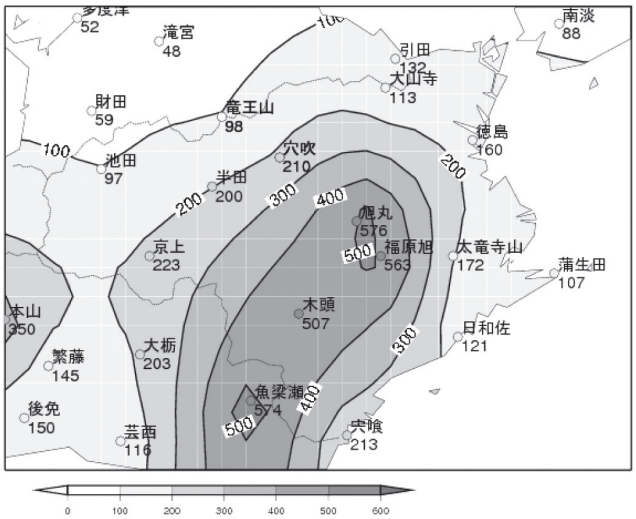
台風第 19 号　経路図





【災害概況】

フェリー：14 日～ 17 日 107 便。高速船 14 ～ 17 日 148 便欠航。航空便：16 ～ 17 日上下 20 便欠航。路線バス：16 日徳島市営 19 時から随時，鳴門市営 20 時 30 分から，小松島市営，徳島バス 19 時 20 分から，徳島バス南部 18 時 20 分から運休。JR：16 日県内の各線，20 時 00 分から順次運休。停電：徳島，鳴門，小松島，阿南，松茂，佐那河内，那賀川で 16 日 14 時 43 分より随時数十分～数時間。海南町で 16 日 19 時 08 分～ 17 日 18 時 20 分。軽傷：16 日石井町で 48 才の女性が強風で転倒し，脳しんとうと手に擦り傷。床上浸水：徳島 3，鷲敷 6，三好 4 棟。床下浸水：徳島，阿南，勝浦等 16 市町村。通行規制：16 ～ 17 日，「山腹崩壊・落石」上勝 5，徳島 4，神山 2，脇町，鷲敷，海南，上那賀，東祖谷山，勝浦，上板の各町村で 1 ヶ所。「路肩決壊」山川 1 ヶ所。「河川の氾濫」鷲敷 1 ヶ所。「強風」徳島 1，鳴門 1 ヶ所。「道路冠水」徳島 9，阿南 4，小松島 2，神山 1 ヶ所。潜水橋 10 ヶ所。悪天 22 ヶ所。大鳴門橋 16 日 20 時 30 分～ 17 日 01 時 30 分。高速道路 16 日 20 時 30 分～ 16 日 24 時 00 分農業関係施設被害 (農地，農道，用水路，ため池等)：124 ヶ所 4 億 3,000 万円。ビニールハウス：2ha，2,600 万円。農作物被害：2,726ha，2 億 8,400 万円。林地，林道：上勝町等。漁具倉庫等損壊：



総降水量（㎜）

由岐。公共文教施設被害:2,124 万円，徳島等 5 ヶ所。災害対策本部 : 小松島市等 21 市町村。県災害対策本部 :16 日に設置し，17 日に解散。